

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

基礎資料（薬教育評価用）

(2022年5月1日現在)

崇城大学 薬学部

「基礎資料」(様式4) 作成上の注意事項

- 1 データの基準日は、記述の対象となる年度が指示されていない場合、大学が自己点検・評価を実施した年度(評価対象年度)の5月1日現在の数値を記載してください。
ただし、基礎資料4の2023年度入試結果は、「草案」の提出時には空欄のままでかまいません。
- 2 記述に際しては、各シートの[注]、脚注を確認して、作成してください。なお、三つの方針については、煩雑さを避けるため「～・ポリシー」と表記します。
- 3 各シートの表中の斜体文字の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]、脚注は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について(印刷体とPDFファイルを格納したCD-Rの作成上の注意)
 - ・基本的に、ページ設定で**A4判**に作成してください。
 - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページ番号(基礎資料1から開始)を付してください。
 - ・**両面印刷**して、加除が可能な体裁でファイル綴じにし、表紙と背表紙部分に「〇〇大学薬学部基礎資料」と明記し、「自己点検・評価書」とは別冊にして提出してください。
 - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
 - ・PDFファイルに変換したデータを、「自己点検・評価書」と同じCD-Rに保存し、提出してください。
- 7 基礎資料7に記載の氏名・年齢・性別・学位称号・現職就任年月日は、個人情報保護の観点から、公表時には黒塗りにして当機構WEBページに掲載いたします。
評価用の基礎資料とは別に、該当箇所(項目名以外)を黒塗りした基礎資料7を含む、基礎資料全体のPDFファイルをご提出ください。

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

| | 資料概要 | 項目 | ページ |
|--------|--|----|---------|
| 基礎資料1 | カリキュラム・ツリー | 3 | 1 |
| 基礎資料2 | 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSB0sを実施する科目 | 3 | 2～48 |
| 基礎資料3 | 学生の修学状況 3-1 評価実施年度における学年別在籍状況 3-2 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別進級状況 3-3 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態 3-4 直近6年間の定員充足状況と編入学生の動向 | 3 | 49～52 |
| 基礎資料4 | 学生受入れ状況 (入学試験種類別) | 4 | 53 |
| 基礎資料5 | 教員・職員の数 | 5 | 54 |
| 基礎資料6 | 専任教員の年齢構成・男女構成 | 5 | 55 |
| 基礎資料7 | 教員の教育担当状況 (担当する授業科目と担当時間) | 5 | 56～76 |
| 基礎資料8 | 卒業研究の学生配属状況と研究室の広さ | 7 | 77 |
| 基礎資料9 | 専任教員の教育および研究活動の業績 | 5 | 78～164 |
| 基礎資料10 | 学生の健康管理 | 6 | 165 |
| 基礎資料11 | 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-1 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-2 卒業研究などに使用する施設 | 7 | 166～167 |
| 基礎資料12 | 学生閲覧室等の規模 | 7 | 168 |
| 基礎資料13 | 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況 | 7 | 169 |

[注] ページ番号は、資料の枚数に応じて変更してください。

(基礎資料1) カリキュラムフロー

崇城大学薬学部カリキュラムフロー

教育研究上の目的：医療の高度化に対応できる臨床能力に優れた薬剤師を養成し、人類の健康の維持と疾患の治療に役立つ生命科学研究を行う

| カリキュラムポリシー | 科目群 | 1 年次 医療人としての 自覚を培う | 2 年次 薬学の本質に迫る | 3 年次 基礎薬学を 臨床につなぐ | 4 年次 専門知識の 応用力を養う | 5 年次 病院・薬局で 実習に取り組む | 6 年次 薬剤師としての 総合力を養う | 学習アウトカム ⁽²⁾ | ディプロマポリシー ⁽³⁾ |
|---|-----------------|--------------------------|------------------|-------------------------|-------------------------|---------------------------|-------------------------------|---|--------------------------------------|
| 問題発見・解決能力を養うために、PBL(Problem Based Learning)学習、実習および卒業研究を充実させます。 | 薬学研究科目 | | | | | 総合薬学研究 I | | 総合薬学研究 II ▲ | |
| | 薬学総合科目 | | | | | 薬学演習 I・II | | 専門研究演習 ☆ | |
| 高度な医療と健康増進、公衆衛生の向上に対応できる能力を養うために、医療系科目を充実させます。 | 医療系臨床科目 | 臨床検査化学 I・II・III | | 感染症予防学 | 薬事関連法規 | 臨床薬理学 I・II | 臨床薬理学 III * 救急救命医学 * | OC1-1 薬剤師としての専門的な知識を常に修得し、これを医療に活用する能力を身につける。(医療系臨床関連) | DP1 薬剤師としての高度な知識を修得したものの。 |
| | 医療系基礎科目 薬剤領域 | 薬物治療学 I・II | | 医薬品安全性学 I・II | 薬局管理学 薬剤師業務概論 | 病院薬学 | 実務実習演習 薬局・病院実習 | OC1-2 薬剤師としての専門的な知識を常に修得し、これを医療に活用する能力を身につける。(医療系基礎薬学関連) | |
| | 医療系基礎科目 薬理領域 | 薬物動態学 I・II | | 薬物投与設計学 | 製剤学 I・II | 製剤・薬剤学実習 | 製剤学 III | OC1-3 薬剤師としての専門的な知識を常に修得し、これを医療に活用する能力を身につける。(医療系基礎薬学関連) | |
| | 薬理学 I・II | 薬理学 III・IV | | 応用薬理学 | | | | | |
| 公衆衛生科目 | 衛生薬学 I | | 衛生薬学 II | 環境衛生化学 公衆衛生学 | 衛生薬学 III | | | OC4-1 地域の保健・医療、行政等に参画、連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を身につける。 | DP4 地域の人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献できるもの。 |
| 学習成果基礎型教育(Outcome Based Education)に基づいて、効果的な学習ができるように科目を構成します。 | 生物系薬学科目 | 薬学基礎生物学 | 生化学 I | 生化学 II | 基礎免疫学 | 分子生物学 | バイオ医薬品学 * | 共用試験 (CBT・OSCE) | 薬剤師 国家試験 |
| | | 細胞生物学 | 微生物学 I | 微生物学 II | | 生化学実習 微生物学実習 | | | |
| | 解剖学概論 | 機能形態学 | | | | | | | |
| 化学系薬学科目 | 薬学基礎化学・演習 | 有機化学 I・II | 有機化学 III | 医薬品化学 | 医薬品合成化学 | 生物医薬化学 I 生物医薬化学 II | プロセス化学 * | OC2-3 医薬品・生体に関する基本的な知識に基づき、薬学・医療領域における問題点の思索・解決能力と自発的な学習態度を身につける。(生物系) | DP2 科学的思考にもとづく問題発見・解決能力を有するもの。 |
| | | | | 生薬学 I・II | 天然物化学 | 漢方概論 | | OC2-2 医薬品・生体に関する基本的な知識に基づき、薬学・医療領域における問題点の思索・解決能力と自発的な学習態度を身につける。(化学系) | |
| 物理系薬学科目 | 薬学基礎物理学・演習 | 物理化学 I | 物理化学 II・III | | 放射薬品学 | 創薬概論 | | OC2-1 医薬品・生体に関する基本的な知識に基づき、薬学・医療領域における問題点の思索・解決能力と自発的な学習態度を身につける。(物理系) | |
| 人間性・倫理観を養うために、教養・倫理教育を継続的に実施します。 | 薬学教養科目 | 薬学概論 基礎情報 処理演習 | 生命倫理学 早期体験学習 | コミュニケーション論 | 看護福祉概論 | 医薬倫理学 マーケティング * | 日本薬局方概論 * 医療経済論 血清製剤学 * | OC3-1 患者・他の医療職から信頼される薬剤師に相応しい高い使命感、責任感、倫理観ならびにコミュニケーション能力を身につける。 | DP3 医療人としての豊かな人間性と高い倫理観を身につけたものの。 |
| | 英語科目 | イングリッシュコミュニケーション I・II | | イングリッシュコミュニケーション III・IV | 基礎科学英語 | 薬学英語 | 実用薬学英語 * 医学英語 * | | |
| 一般教養科目 | キャリア教育科目 * | キャリア教育科目 * | | | | | | | |
| | 人間と科学科目 * | 人間と科学科目 * | | | | | | | |

各科目の関連性はシラバスを参照

* 選択科目 ☆ 1 科目選択必修 ▲ どちらか 1 科目選択必修

(基礎資料2) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する内容の必修科目名を（シラバスの名称、選択科目の場合（選）をつける。実施学年の欄に記入してください。
2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該当科目 | | | | | |
|---|-------------------------|----|----|----|----|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| | A 基本事項 | | | | | |
| (1) 薬剤師の使命 | | | | | | |
| 【①医療人として】 | | | | | | |
| 1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度) | | | | | | |
| 2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度) | | | | | | |
| 3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度) | | | | | | |
| 4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度) | | | | | | |
| 5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度) | | | | | | |
| 6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度) | | | | | | |
| 7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度) | | | | | | |
| 【②薬剤師が果たすべき役割】 | | | | | | |
| 1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度) | | | | | | |
| 2) 薬剤師の活動分野（医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。 | 薬学概論 | | | | | |
| 3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。 | | | | | | |
| 4) 医薬品の効果が確率的であることを説明できる。 | | | | | | |
| 5) 医薬品の創製（研究開発、生産等）における薬剤師の役割について説明できる。 | | | | | | |
| 6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。 | | | | | | |
| 7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。 | | | | | | |
| 8) 現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度) | | | | | | |
| 【③患者安全と薬害の防止】 | | | | | | |
| 1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度) | | | | | | |
| 2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。 | | | | | | |
| 3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。 | | | | | | |
| 4) 医薬品に関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。 | | | | | | |
| 5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これら回避するための手段を討議する。(知識・態度) | 医療安全I 医療安全II 薬学概論 | | | | | |
| 6) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。 | | | | | | |
| 7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これら回避するための手段を討議する。(知識・態度) | 血清製剤* | | | | | |

| | 該当科目 | | | | | |
|--|-------|----|--------|---|----|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs） | | | | | | |
| 【④薬学の歴史と未来】 | | | | | | |
| 1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。 | | | | 総業概論 | | |
| 2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。 | | | | | | |
| 4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。（知識・態度） | | | | | | |
| 【②薬剤師に求められる倫理観】 | | | | | | |
| 【①生命倫理】 | | | | | | |
| 1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。（知識・態度） | 生命倫理学 | | 看護福祉概論 | 医薬倫理学 | | |
| 2) 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。（知識・態度） | | | | | | |
| 4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。 | | | | | | |
| 【②医療倫理】 | | | | | | |
| 1) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。 | 生命倫理学 | | 看護福祉概論 | 実務実習事前学習Ⅰ 医薬倫理学 | | |
| 2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。 | | | | 実務実習事前学習Ⅰ 薬局管理 実務実習事前学習Ⅰ 医薬倫理学 | | |
| 3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。 | | | | | | |
| 【③患者の権利】 | | | | | | |
| 1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度） | 生命倫理学 | | 看護福祉概論 | 医薬倫理学 | | |
| 2) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。 | | | | 実務実習事前学習Ⅰ 医薬倫理学 | | |
| 3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。 | | | | 実務実習事前学習Ⅰ 薬局管理 実務実習事前学習Ⅰ 医薬倫理学 | | |
| 4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。（知識・技能・態度） | | | | | | |
| 【④研究倫理】 | | | | | | |
| 1) 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。 | 生命倫理学 | | | 医薬倫理学 | | |
| 2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。 | | | | | | |
| 3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度） | | | | | | |
| 【③価値関係の構築】 | | | | | | |
| 【①コミュニケーション】 | | | | | | |
| 1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。 | | | | | | |
| 3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。 | | | | 看護福祉概論 | | |
| 4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。 | | | | | | |
| 5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。（態度） | | | | コミュニケーション論 | | |
| 6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。（態度） | | | | | | |
| 7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。（技能・態度） | | | | | | |
| 8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。（技能・態度） | 生命倫理学 | | | | | |
| 9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（知識・技能・態度） | | | | | | |

| | 該当科目 | | | | | |
|---|----------|------------|--------|--|-----------|----------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | | | | | |
| 【②患者・生活者と薬剤師】 | | コミュニケーション論 | 看護福祉概論 | | | |
| 1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度) | | | | | | |
| 【④多職種連携協力とチーム医療】 | | | | | | |
| 1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協力及びチーム医療の意義について説明できる。 | | | | 実務実習事前学習Ⅰ 薬局管理學 薬剤師業務概論 病院薬學 | | |
| 2) 多職種連携協力に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。 | | | | 実務実習事前学習Ⅰ 薬局管理學 薬剤師業務概論 病院薬學 医薬倫理學 | マーケティング* | |
| 3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。 | | | 看護福祉概論 | | | |
| 4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度) | | | | | | |
| 5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。 (知識・態度) | | | | 実務実習事前学習Ⅰ 医薬倫理學 | | |
| 【⑤自己研鑽と次世代を担う人材の育成】 | | | | | | |
| 【①学習の在り方】 | | | | | | |
| 1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に関心を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度) | | | | | | |
| 2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能) | | | | | | |
| 3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能) | | | | | | |
| 4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能) | | | | | | |
| 5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。 (知識・態度) | 基礎情報処理演習 | | | | 医薬倫理學 | マーケティング* |
| 【②薬学教育の概要】 | | | | | | |
| 1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。 | | | | | | |
| 2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度) | | | | | 薬剤師業務概論 | |
| 【③生涯学習】 | | | | | | |
| 1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能) | | | | | 薬剤師業務概論 | |
| 【④次世代を担う人材の育成】 | | | | | | |
| 1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度) | | | | | | |
| 2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度) | | | | | 薬剤師業務概論 | |
| B 薬学と社会 | | | | | | |
| 【①人と社会に関わる薬剤師】 | | | | | | |
| 1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。 | | コミュニケーション論 | | | | |
| 2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度) | | | | | | |
| 3) 人・社会の観点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度) | | | | | 実務実習事前学習Ⅰ | マーケティング* |
| 4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度) | | | | | | |
| 5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度) | 生命倫理學 | | | | | |

| | 該 当 科 目 | | | | | |
|--|---------|----|----|---------------------------------------|----|--------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs） | | | | | | |
| (2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範 | | | | | | |
| 【①薬剤師の社会的役割と責任に係る法規範】 | | | | | | |
| 1) 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。 | | | | 実務実習事前学習 I 薬局管理学 病院薬学 薬事関連法規 | | |
| 2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。 | | | | | | |
| 4) 薬剤師以外の医療職種に関する法令の規定について概説できる。 | | | | | | |
| 5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 | | | | 実務実習事前学習 I 病院薬学 薬事関連法規 | | |
| 6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。 | | | | | | |
| 7) 個人情報取扱の取扱いについて概説できる。 | | | | 実務実習事前学習 I 薬局管理学 病院薬学 薬事関連法規 | | |
| 8) 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。 | | | | 実務実習事前学習 I 薬局管理学 薬事関連法規 | | |
| 【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】 | | | | | | |
| 1) 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品（薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品）、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等 製品）の定義について説明できる。 | | | | 薬局管理学 薬事関連法規 | | |
| 2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。 | | | | | | |
| 3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。 | | | | 創薬概論 | | |
| 4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。 | | | | 薬事関連法規 | | |
| 5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。 | | | | 創薬概論 薬事関連法規 | | |
| 6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。 | | | | | | |
| 7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。 | | | | | | |
| 8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。 | | | | | | |
| 9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。 | | | | 薬事関連法規 | | |
| 10) 健康被害救済制度について説明できる。 | | | | | | 血清製剤学* |
| 11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。 | | | | 創薬概論 | | |
| 【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】 | | | | | | |
| 1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。 | | | | 実務実習事前学習 I 薬局管理学 薬事関連法規 | | |
| 2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。 | | | | | | |
| 3) 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。 | | | | | | |

| | 該当科目 | | | | | |
|---|------------------|----|----|------------------|----|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs） | | | | | | |
| (3) 社会保障制度と医療経済 | | | | | | |
| 【①医療、福祉、介護の制度】 | | | | | | |
| 1) 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。 | | | | 医療経済論 | | |
| 2) 医療保険制度について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 療養担当規則について説明できる。 | | | | | | |
| 4) 公費負担医療制度について概説できる。 | | | | 薬局管理学 応用社会学* | | |
| 5) 介護保険制度について概説できる。 | | | | 医療経済論 | | |
| 6) 薬価基準制度について概説できる。 | | | | | | |
| 7) 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。 | | | | | | |
| 【②医薬品と医療の経済性】 | | | | | | |
| 1) 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。 | | | | 薬局管理学 応用社会学* | | |
| 2) 国民医療費の動向について概説できる。 | | | | 医療経済論 | | |
| 3) 後発医薬品とその役割について説明できる。 | | | | | | |
| 4) 薬物療法の経済評価手法について概説できる。 | | | | | | |
| (4) 地域における薬局と薬剤師 | | | | | | |
| 【①地域における薬局の役割】 | | | | | | |
| 1) 地域における薬局の機能と業務について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 医薬分業の意義と動向を説明できる。 | | | | | | |
| 3) かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。 | | | | 薬局管理学 薬剤師業務概論 | | |
| 4) セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。 | | | | | | |
| 5) 災害時の薬局の役割について説明できる。 | | | | | | |
| 6) 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。 | | | | | | |
| 【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】 | | | | | | |
| 1) 地域包括ケアの理念について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 在宅医療及び在宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。 | | | | 薬局管理学 薬剤師業務概論 | | |
| 3) 学校薬剤師の役割について説明できる。 | | | | | | |
| 4) 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。 | | | | | | |
| 5) 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。（知識・態度） | | | | | | |
| C 薬学基礎 | | | | | | |
| C1 物質の物理的性質 | | | | | | |
| (1) 物質の構造 | | | | | | |
| 【①化学結合】 | | | | | | |
| 1) 化学結合の様式について説明できる。 | 物理化学 I 有機化学 I | | | | | |
| 2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。 | 物理化学 I 有機化学 I | | | | | |
| 3) 共役や共鳴の概念を説明できる。 | 有機化学 II | | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該 当 科 目 | | | | | |
|---|------------------|-------|----|----|----|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【②分子間相互作用】 | | | | | | |
| 1) ファンデルワールス力について説明できる。 | 物理化学 I 有機化学 I | | | | | |
| 2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。 | | | | | | |
| 3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。 | | | | | | |
| 4) 分散力について例を挙げて説明できる。 | | | | | | |
| 5) 水素結合について例を挙げて説明できる。 | | | | | | |
| 6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。 | | | | | | |
| 7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。 | | | | | | |
| 【③原子・分子の挙動】 | | | | | | |
| 1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。 | 物理化学 I | | | | | |
| 2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。 | 物理化学 I | 機器分析学 | | | | |
| 4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。 | | | | | | |
| 5) 光の散乱および干渉について説明できる。 | | | | | | |
| 6) 結晶構造と回折現象について概説できる。 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 【④放射線と放射能】 | | | | | | |
| 1) 原子の構造と放射線変化について説明できる。 | 物理化学 III | 放射薬品学 | | | | |
| 2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。 | | | | | | |
| 4) 核反応および放射平衡について説明できる。 | | | | | | |
| 5) 放射線測定の方法と利用について概説できる。 | | | | | | |
| (2) 物質のエネルギーと平衡 | | | | | | |
| 【①気体の微視的状態と巨視的状態】 | | | | | | |
| 1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。 | 物理化学 II | | | | | |
| 2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。 | | | | | | |
| 3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。 | | | | | | |
| 【②エネルギー】 | | | | | | |
| 1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。 | 物理化学 II | | | | | |
| 2) 熱力学第一法則を説明できる。 | | | | | | |
| 3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。 | | | | | | |
| 4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。 | | | | | | |
| 5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。 | | | | | | |
| 6) エンタルピーについて説明できる。 | | | | | | |
| 7) 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。 | | | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | 該 当 科 目 | | | | | |
|-----------------------------------|--|------------|---------|-----------|----|----|----|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【③自発的な変化】 | | | | | | | |
| 1) | エントロピーについて説明できる。 | | | | | | |
| 2) | 熱力学第二法則について説明できる。 | | | | | | |
| 3) | 熱力学第三法則について説明できる。 | | 物理化学II | | | | |
| 4) | ギブズエネルギーについて説明できる。 | | | | | | |
| 5) | 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。 | | | | | | |
| 【④化学平衡の原理】 | | | | | | | |
| 1) | ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。 | | | | | | |
| 2) | ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。 | | 物理化学II | | | | |
| 3) | 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。 | | | | | | |
| 4) | 共役反応の原理について説明できる。 | | | | | | |
| 【⑤相平衡】 | | | | | | | |
| 1) | 相変化に伴う熱の移動について説明できる。 | | | | | | |
| 2) | 相平衡と相律について説明できる。 | | 物理化学II | | | | |
| 3) | 状態図について説明できる。 | | | 分析・物理化学実習 | | | |
| 【⑥溶液の性質】 | | | | | | | |
| 1) | 希薄溶液の束一的性質について説明できる。 | | | | | | |
| 2) | 活量と活量係数について説明できる。 | 分析化学I | | | | | |
| 3) | 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。 | | 物理化学III | | | | |
| 4) | イオン強度について説明できる。 | | | | | | |
| 【⑦電気化学】 | | | | | | | |
| 1) | 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。 | | | | | | |
| 2) | 電極電位(酸化還元電位)について説明できる。 | 分析化学I | 物理化学II | | | | |
| (3) 物質の変化 | | | | | | | |
| 【⑧反応速度】 | | | | | | | |
| 1) | 反応次数と速度定数について説明できる。 | | | | | | |
| 2) | 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能) | | | 分析・物理化学実習 | | | |
| 3) | 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。 | | | | | | |
| 4) | 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能) | | | 分析・物理化学実習 | | | |
| 5) | 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。 | | | | | | |
| 6) | 反応速度と温度との関係を説明できる。 | | | 分析・物理化学実習 | | | |
| 7) | 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応、酵素反応など)について説明できる。 | | | | | | |
| G2 化学物質の分析 | | | | | | | |
| (1) 分析の基礎 | | | | | | | |
| 【⑨分析の基本】 | | | | | | | |
| 1) | 分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能) | | | | | | |
| 2) | 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能) | 薬学基礎化学(実験) | | 分析・物理化学実習 | | | |
| 3) | 分析法のバリデーションについて説明できる。 | | 分析化学II | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | 該当科目 | | | | | |
|--|------------------|----------|-----------|--------------------|----|----|----|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| (2) 溶液中の化学平衡 | | | | | | | |
| 【①酸・塩基平衡】 | | | | | | | |
| 1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。 | 分析化学 I | | | | | | |
| 2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能) | | | | | | | |
| 3) 溶液の pH を測定できる。(技能) | | 分析化学 II | | | | | |
| 4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。 | 分析化学 I | | | | | | |
| 【②各種の化学平衡】 | | | | | | | |
| 1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。 | 分析化学 I | 物理化学 III | | | | | |
| 2) 沈殿平衡について説明できる。 | | 物理化学 II | | | | | |
| 3) 酸化還元平衡について説明できる。 | | 物理化学 III | | | | | |
| 4) 分配平衡について説明できる。 | | | 分析・物理化学実習 | | | | |
| (3) 化学物質の定性分析・定量分析 | | | | | | | |
| 【①定性分析】 | | | | | | | |
| 1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。 | 分析化学 I | | | | | | |
| 2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。 | | | | 日本薬局方概論 | | | |
| 【②定量分析(容量分析・重量分析)】 | | | | | | | |
| 1) 中和滴定(非水滴定を含む)の原理、操作法および応用例を説明できる。 | 薬学基礎化学(実験) | | 分析化学 II | 分析・物理化学実習 | | | |
| 2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。 | | | | | | | |
| 3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。 | | | | | | | |
| 4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。 | | | | | | | |
| 5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能) | | | | 分析・物理化学実習 | | | |
| 6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。 | 分析化学 I | | | | | | |
| 7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。 | | | | 日本薬局方概論 | | | |
| (4) 機器を用いる分析法 | | | | | | | |
| 【①分光分析法】 | | | | | | | |
| 1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。 | 物理化学 I 分析化学 I | | | 分析・物理化学実習 生化学実習 | | | |
| 2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。 | | | | | | | |
| 3) 赤外線吸収(IR)スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。 | 物理化学 I | | 機器分析学 | | | | |
| 4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ(ICP)発光分光分析法およびICP質量分析法の原理および応用例を説明できる。 | | | | | | | |
| 5) 旋光度測定法(旋光分散)の原理および応用例を説明できる。 | 物理化学 I | | | | | | |
| 6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能) | | | | | | | |
| 【②核磁気共鳴(NMR)スペクトル測定法】 | | | | | | | |
| 1) 核磁気共鳴(NMR)スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。 | | | 機器分析学 | | | | |
| 【③質量分析法】 | | | | | | | |
| 1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。 | | | 機器分析学 | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | 該当科目 | | | | |
|---|-------------------|----------|--------------------|----|----|----|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
| 【④X線分析法】 | | | | | | |
| 1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。 | 物理化学 I | 機器分析学 | 製剤学 I | | | |
| 2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。 | | | | | | |
| 【⑤熱分析】 | | | | | | |
| 1) 熱重量測定法の原理を説明できる。 | | 機器分析学 | 製剤学 I | | | |
| 2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。 | | | | | | |
| (5) 分離分析法 | | | | | | |
| 【①クロマトグラフィー】 | | | | | | |
| 1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。 | | 分析化学 II | 分析・物理化学実習 生化学実習 | | | |
| 2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。 | | | | | | |
| 3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。 | | | | | | |
| 4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。 | | | | | | |
| 5) クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能) | | | 分析・物理化学実習 生化学実習 | | | |
| 【②電気泳動法】 | | | | | | |
| 1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。 | | 分析化学 II | 生化学実習 | | | |
| (6) 臨床現場で用いる分析技術 | | | | | | |
| 【①分析の準備】 | | | | | | |
| 1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。 | | 分析化学 II | | | | |
| 2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。 | | | | | | |
| 【②分析技術】 | | | | | | |
| 1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。 | | 分析化学 II | | | | |
| 2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。 | | | | | | |
| 3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。 | | | | | | |
| 4) 代表的なドラッグモニタリングについて概説できる。 | | 機器分析学 | 放射薬品学 | | | |
| 5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。 | | | | | | |
| C3 化学物質の性質と反応 | | | | | | |
| (1) 化学物質の基本的性質 | | | | | | |
| 【①基本事項】 | | | | | | |
| 1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。 | 有機化学 I | | | | | |
| 2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。 | | | | | | |
| 3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。 | | | | | | |
| 4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。 | 有機化学 II | | | | | |
| 5) ルイス酸・塩基、プレンステッド酸・塩基を定義することができる。 | 分析化学 I 有機化学 II | | 医薬品合成化学 | | | |
| 6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。 | | | | | | |
| 7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。 | 有機化学 II | | 医薬品合成化学 | | | |
| 8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。 | | | | | | |
| 9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能) | | 有機化学 III | 医薬品合成化学 | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該 当 科 目 | | | | | |
|---|---------|-------|---------|----|----|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【②有機化合物の立体構造】 | | | | | | |
| 1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。 | | | | | | |
| 2) キラリティーと光学活性の関係を概説できる。 | | | | | | |
| 3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。 | | | | | | |
| 4) ラセミ体とメソ体について説明できる。 | | | | | | |
| 5) 絶対配置の表示法を説明し、キラリ化合物の構造を書くことができる。(知識、技能) | | | | | | |
| 6) 炭素—炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。 | | | | | | |
| 7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能) | | | | | | |
| 8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。 | | | | | | |
| (2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応 | | | | | | |
| 【①アルカン】 | | | | | | |
| 1) アルカンの基本的な性質について説明できる。 | | | | | | |
| 2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能) | | | | | | |
| 3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。 | | | | | | |
| 4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。(技能) | | | | | | |
| 5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。 | | | | | | |
| 【②アルケン・アルキン】 | | | | | | |
| 1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。 | | | | | | |
| 2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。 | | 医薬品化学 | | | | |
| 3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。 | | | | | | |
| 【③芳香族化合物】 | | | | | | |
| 1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。 | | 医薬品化学 | 医薬品合成化学 | | | |
| 2) 芳香族性の概念を説明できる。 | | 有機化学Ⅱ | | | | |
| 3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。 | | 医薬品化学 | | | | |
| 4) 代表的な芳香族極素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。 | | 有機化学Ⅱ | | | | |
| 5) 代表的な芳香族極素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。 | | | 医薬品合成化学 | | | |
| (3) 官能基の性質と反応 | | | | | | |
| 【①概説】 | | | | | | |
| 1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。 | | 有機化学Ⅰ | | | | |
| 2) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能) | | | 医薬品化学実習 | | | |
| 【②有機ハロゲン化合物】 | | | | | | |
| 1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。 | | | | | | |
| 2) 求核置換反応の特徴について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 脱離反応の特徴について説明できる。 | | | | | | |
| 【③アルコール・フェノール・エーテル】 | | | | | | |
| 1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。 | | | | | | |
| 2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。 | | | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | 該 当 科 目 | | | | |
|---|--|---------|------------------|-----------|---------|----|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
| 【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】 | 1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。 | 有機化学II | 有機化学III | 医薬品合成化学 | | |
| | 2) カルボン酸の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。 | | | | | |
| | 3) カルボン酸誘導体(酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド)の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。 | | | | | |
| 【⑤アミン】 | 1) アミン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。 | 有機化学II | 有機化学III | | | |
| 【⑥電子効果】 | 1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。 | 有機化学II | | | | |
| 【⑦酸性度・塩基性度】 | 1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。 | 有機化学II | | 医薬品合成化学 | | |
| 2) 含窒素化合物の塩基性を比較して説明できる。 | | | | | | |
| (4) 化学物質の構造決定 | | | | | | |
| 【⑧核磁気共鳴 (NMR)】 | 1) ¹ H および ¹³ C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。 | | 機器分析学 分子構造解析学 | | | |
| 2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。 | | | 分子構造解析学 | | | |
| 3) ¹ H NMR の積分値の意味を説明できる。 | | | 機器分析学 分子構造解析学 | | | |
| 4) ¹ H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する基本的な分裂様式を説明できる。 | | | 分子構造解析学 | | | |
| 5) 代表的な化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能) | | | 分子構造解析学 | 薬化学・生薬学実習 | | |
| 【⑨赤外吸収 (IR)】 | 1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。 | | 機器分析学 分子構造解析学 | | | |
| 2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能) | | | 分子構造解析学 | 薬化学・生薬学実習 | | |
| 【⑩質量分析】 | 1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。 | | 機器分析学 分子構造解析学 | | | |
| 2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能) | | | 分子構造解析学 | 薬化学・生薬学実習 | | |
| 3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明できる。 | | | 機器分析学 分子構造解析学 | | | |
| 4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能) | | | 分子構造解析学 | | | |
| 【⑪総合演習】 | 1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能) | | 分子構造解析学 | | | |
| (5) 無機化合物・錯体の構造と性質 | | | | | | |
| 【⑫無機化合物・錯体】 | 1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。 | 衛生薬学I | | 放射薬品学 | | |
| 2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。 | | | | 環境衛生化学 | | |
| 3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。 | | | | | 衛生薬学III | |
| 4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。 | | 分析化学I | | | | |
| 5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。 | | | | 放射薬品学 | | |

| | | 該 当 科 目 | | | | |
|---|-------|-----------------|----------|----|-----------|--------|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs） | | | | | | |
| C4 生体分子・医薬品の化学による理解 | | | | | | |
| (1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質 | | | | | | |
| 【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】 | | | | | | |
| 1) 代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど）の構造に基づき化学的性質を説明できる。 | 生化学 I | 生化学 II | 生物医薬化学 I | | 血清製剤学* | |
| 2) 医薬品の標的となる生体高分子（タンパク質、核酸など）の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。 | | | | | | |
| 【②生体内で機能する小分子】 | | | | | | |
| 1) 細胞膜受容体および細胞内（核内）受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。 | | 細胞生化学 I | | | | |
| 2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。 | | | 生物医薬化学 I | | | |
| 3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。 | | 生化学 II | | | | |
| 4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。 | | | | | | |
| (2) 生体反応の化学による理解 | | | | | | |
| 【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】 | | | | | | |
| 1) リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の構造と化学的性質を説明できる。 | | | 生物医薬化学 I | | | |
| 2) リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の生体内での機能を化学的に説明できる。 | | | | | | |
| 【②酵素阻害剤と作用機序】 | | | | | | |
| 1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。 | 生化学 I | | | | 生物医薬化学 II | 血清製剤学* |
| 2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。 | | | | | | |
| 3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。 | | | | | | |
| 【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】 | | | | | | |
| 1) 代表的な受容体のアゴニスト（作用薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。 | | 薬理学 I 薬理学 II | | | 生物医薬化学 II | |
| 2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。 | | | | | | |
| 【④生体内で起こる有機反応】 | | | | | | |
| 1) 代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロールなど）の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。 | | | | | 生物医薬化学 II | |
| 2) 異物代謝の反応（発がん性物質の代謝的活性化など）を有機化学の観点から説明できる。 | | | | | | |
| (3) 医薬品の化学構造と性質、作用 | | | | | | |
| 【①医薬品と生体分子の相互作用】 | | | | | | |
| 1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点（結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など）から説明できる。 | | | | | 生物医薬化学 II | |
| 【②医薬品の化学構造に基づく性質】 | | | | | | |
| 1) 医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親水性など）を説明できる。 | | | | | 生物医薬化学 II | |
| 2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。 | | | | | | |
| 【③医薬品のコンポーネント】 | | | | | | |
| 1) 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。 | | | | | | |
| 2) バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。 | | | | | | |
| 3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。 | | | | | 生物医薬化学 II | |

| | 該当科目 | | | | | |
|---|------|----------------|-----------|----------------------|----|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | | | | | |
| 【④薬薬に作用する医薬品の構造と性質】 | | | | | | |
| 1) スクレオロンドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。 | | 微生物学II | | | | |
| 2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。 | | | | | | |
| 3) スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。 | | 微生物学II | | | | |
| 4) キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。 | | 微生物学II 生化学I | | | | |
| 5) β-ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。 | | | | | | |
| 6) ペンタドリアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。 | | | | | | |
| 【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】 | | | | | | |
| 1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。 | | 薬理学I 薬理学II | | | | |
| 2) アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。 | | | | | | |
| 3) ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。 | | | | | | |
| 4) ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。 | | 薬理学II | | | | |
| 5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。 | | | | | | |
| 【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】 | | | | | | |
| 1) DNAと結合する医薬品 (アルキル化剤、シスプラチン類) を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。 | | | | | | |
| 2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。 | | | | | | |
| 3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。 | | | | | | |
| 【⑦イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】 | | | | | | |
| 1) イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造 (ジヒドロピリジンなど) の特徴を説明できる。 | | 細胞生化学I | 薬理学IV | 生物医薬化学II バイオ医薬品学* | | |
| C5 自然が生み出す薬物 | | | | | | |
| (1) 薬になる動植物 | | 薬理学I 薬理学II | 薬理学III | 生物医薬化学II | | |
| 【①薬用植物】 | | | | | | |
| 1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。 | | 生薬学I 生薬学II | | | | |
| 2) 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能) | | | | | | |
| 3) 植物の主な内部形態について説明できる。 | | | 薬化学・生薬学実習 | | | |
| 4) 法律によって取り扱いが規制されている植物 (ケシ、アサ) の特徴を説明できる。 | | | | | | |
| 【②生薬の基原】 | | | | | | |
| 1) 日本薬局方収載の代表的な生薬 (植物、動物、藻類、菌類由来) を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。 | | 生薬学I 生薬学II | 日本薬局方概論 | | | |
| 【③生薬の用途】 | | | | | | |
| 1) 日本薬局方収載の代表的な生薬 (植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来) の薬効、成分、用途などを説明できる。 | | 生薬学I 生薬学II | 日本薬局方概論 | | | |
| 2) 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。 | | | | | | |

| | 該当科目 | | | | | |
|--|-------|--------------|-----------|----|--------|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | | | | | |
| 【④生薬の同定と品質評価】 | | | | | | |
| 1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。 | | 生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ | 日本薬局方概論 | | | |
| 2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能) | | | | | | |
| 4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。 | | 生薬学Ⅰ | 薬化学・生薬学実習 | | | |
| 5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。 | | | | | | |
| (2) 薬の宝庫としての天然物 | | | | | | |
| 【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】 | | | | | | |
| 1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。 | | | | | | |
| 2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 | | | | | | |
| 3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 | | | | | | |
| 4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 | | 生薬学Ⅰ | 天然物化学 | | | |
| 5) アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 | | | | | | |
| 【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】 | | | | | | |
| 1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。 | 微生物学Ⅰ | | | | | |
| 2) 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。 | | | | | | |
| 【③天然生物活性物質の取扱い】 | | | | | | |
| 1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能) | | | 薬化学・生薬学実習 | | 血清製剤学* | |
| 【④天然生物活性物質の利用】 | | | | | | |
| 1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 | | | | | | |
| 2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。 | | 生薬学Ⅰ | 天然物化学 | | 血清製剤学* | |
| 3) 農薬や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。 | | | | | | |
| 08 生命現象の基礎 | | | | | | |
| (1) 細胞の構造と機能 | | | | | | |
| 【①細胞膜】 | | | | | | |
| 1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。 | 細胞生物学 | | | | | |
| 2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。 | | | | | | |
| 【②細胞小器官】 | | | | | | |
| 1) 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。 | 細胞生物学 | | | | | |
| 【③細胞骨格】 | | | | | | |
| 1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。 | 細胞生物学 | 細胞生化学Ⅰ | | | | |
| (2) 生命現象を担う分子 | | | | | | |
| 【①脂質】 | | | | | | |
| 1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。 | 生化学Ⅰ | 生化学Ⅱ | | | | |
| 【②糖質】 | | | | | | |
| 1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。 | 生化学Ⅰ | | | | | |
| 2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。 | 生化学Ⅰ | | | | | |

| | 該当科目 | | | | | |
|---|--------|--------------------|-------|-------|----|--------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | | | | | |
| 【③アミノ酸】 | | | | | | |
| 1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。 | 生化学 I | | | | | |
| 【④タンパク質】 | | | | | | |
| 1) タンパク質の構造 (一次、二次、三次、四次構造) と性質を説明できる。 | 生化学 I | | | | | |
| 【⑤スクレオチドと核酸】 | | | | | | |
| 1) スクレオチドと核酸 (DNA, RNA) の種類、構造、性質を説明できる。 | 生化学 II | | | | | |
| 【⑥ビタミン】 | | | | | | |
| 1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。 | 衛生薬学 I | | | | | |
| 【⑦微量元素】 | | | | | | |
| 1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。 | 衛生薬学 I | | | | | |
| 【⑧生体分子の定性、定量】 | | | | | | |
| 1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能) | | | 生化学実習 | | | |
| (3) 生命活動を担うタンパク質 | | | | | | |
| 【①タンパク質の構造と機能】 | | | | | | |
| 1) 多様な機能をもつタンパク質 (酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質) を列挙し概説できる。 | 生化学 I | | | | | 血清製剤学* |
| 【②タンパク質の成熟と分解】 | | | | | | |
| 1) タンパク質の翻訳後の成熟過程 (細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾) について説明できる。 | | 生化学 II 細胞生化学 I | | | | |
| 2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。 | | 生化学 II | | | | |
| 【③酵素】 | | | | | | |
| 1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。 | 生化学 I | | | | | |
| 2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。 | | | | | | |
| 3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。 | | | | | | |
| 4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能) | | | 生化学実習 | | | |
| 【④酵素以外のタンパク質】 | | | | | | |
| 1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。 | 細胞生物学 | | | | | |
| 2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。 | | 生化学 II 臨床検査化学 I | | | | |
| (4) 生命情報を担う遺伝子 | | | | | | |
| 【①概論】 | | | | | | |
| 1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。 | | 生化学 II 細胞生化学 I | | 分子生物学 | | |
| 2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。 | | | | | | |
| 【②遺伝情報を担う分子】 | | | | | | |
| 1) 染色体の構造 (ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど) を説明できる。 | | | | | | |
| 2) 遺伝子の構造 (プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど) を説明できる。 | | 生化学 II 細胞生化学 I | | 分子生物学 | | |
| 3) RNA の種類 (mrRNA, mRNA, rRNA, tRNA など) と機能について説明できる。 | | | | | | |
| 【③遺伝子の複製】 | | | | | | |
| 1) DNA の複製の過程について説明できる。 | | 生化学 II 細胞生化学 I | | 分子生物学 | | |

| | 該当科目 | | | | | |
|--|------|----------------|-------|-------------------|----|--------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | | | | | |
| 【④転写・翻訳の過程と調節】 | | | | | | |
| 1) DNA から RNA への転写の過程について説明できる。 | | 生化学Ⅱ 細胞生化学Ⅰ | | | | |
| 2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 転写因子による転写制御について説明できる。 | | | | | | |
| 4) RNA のプロセッシング (キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など) について説明できる。 | | | | | | |
| 5) RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。 | | | | | | |
| 【⑤遺伝子の変異・修復】 | | | | | | |
| 1) DNA の変異と修復について説明できる。 | | 生化学Ⅱ | | 分子生物学 | | |
| 【⑥組換え DNA】 | | | | | | |
| 1) 遺伝子工学技術 (遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など) を概説できる。 | | 生化学Ⅱ | 生化学実習 | 分子生物学 バイオ医薬品学* | | |
| 2) 遺伝子改変生物 (遺伝子導入・次殖動物、クローン動物、遺伝子組換え植物) について概説できる。 | | | | | | |
| (5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系 | | | | | | |
| 【① 概論】 | | | | | | |
| 1) エネルギー代謝の概要を説明できる。 | 生化学Ⅰ | | | | | |
| 【②ATP の産生と消費代謝】 | | | | | | |
| 1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。 | 生化学Ⅰ | | | | | |
| 2) クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 電子伝達系 (酸化リン酸化) と ATP 合成酵素について説明できる。 | | | | | | |
| 4) グリコーゲンの代謝について説明できる。 | | | | | | |
| 5) 糖新生について説明できる。 | | | | | | 血清製剤学* |
| 【③脂質代謝】 | | | | | | |
| 1) 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。 | | 生化学Ⅱ | | | | |
| 2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。 | | | | | | |
| 【④脂質状態と食事状態】 | | | | | | |
| 1) 飢餓状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。 | | 生化学Ⅱ | | | | |
| 2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。 | | | | | | |
| 【⑤その他の代謝系】 | | | | | | |
| 1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝 (尿素回路など) について説明できる。 | | 生化学Ⅱ | | | | |
| 2) スクレオチドの生合成と分解について説明できる。 | | | | | | |
| 3) ペントースリン酸回路について説明できる。 | | | | | | |
| (6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達 | | | | | | |
| 【① 概論】 | | | | | | |
| 1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。 | | 細胞生化学Ⅰ | | | | |

| | 該当科目 | | | | | |
|--|----------------|----------------------------|---------|-------|----|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | | | | | |
| 【②細胞内情報伝達】 | | | | | | |
| 1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。 | | | | | | |
| 4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。 | | | | | | |
| 5) 細胞内 (核内) 受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。 | | | | | | |
| 【③細胞間コミュニケーション】 | | | | | | |
| 1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。 | | | | | | |
| 2) 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。 | | | | | | |
| (7) 細胞の分裂と死 | | | | | | |
| 【①細胞分裂】 | | | | | | |
| 1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。 | | | | | | |
| 【②細胞死】 | | | | | | |
| 1) 細胞死 (アポトーシスとネクローシス) について説明できる。 | | | | | | |
| 【③がん細胞】 | | | | | | |
| 1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。 | | | | | | |
| 2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。 | | | | | | |
| 07 人体の成り立ちと生体機能の調節 | | | | | | |
| (1) 人体の成り立ち | | | | | | |
| 【①遺伝】 | | | | | | |
| 1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。 | | | | | | |
| 2) 遺伝子多型について概説できる。 | | | | | | |
| 3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。 | | | | | | |
| 【②発生】 | | | | | | |
| 1) 個体発生について概説できる。 | | | | | | |
| 2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。 | | | | | | |
| 【③器官系概論】 | | | | | | |
| 1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。 | | | | | | |
| 2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類 (上皮、内皮、間葉系など) を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。 | | | | | | |
| 3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能) | | | | | | |
| 4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能) | | | | | | |
| 【④神経系】 | | | | | | |
| 1) 中枢神経系について概説できる。 | | | | | | |
| 2) 末梢 (体性・自律) 神経系について概説できる。 | | | | | | |
| 【⑤骨格系・筋肉系】 | | | | | | |
| 1) 骨、筋肉について概説できる。 | | | | | | |
| 2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。 | | | | | | |
| | 細胞生物学 | 薬理学 I 薬理学 II 細胞生化学 I | 薬理学 III | 応用薬理学 | | |
| | 細胞生物学 | | | | | |
| | 細胞生物学 | | | | | |
| | 細胞生物学 | | | | | |
| | 解剖学概論 | 細胞生化学 I | | 分子生物学 | | |
| | 解剖学概論 | | | | | |
| | 解剖学概論 機能形態学 | | 薬理学実習 | | | |
| | 解剖学概論 機能形態学 | 薬理学 II | | 応用薬理学 | | |
| | 解剖学概論 機能形態学 | | | | | |

| | 該 当 科 目 | | | | | |
|---|----------------|--------|----------------|----------|----|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | | | | | |
| 【⑥皮膚】 | | | | | | |
| 1) 皮膚について概説できる。 | 機能形態学 | | 薬理学Ⅲ | | | |
| 【⑦循環器系】 | | | | | | |
| 1) 心臓について概説できる。 | 解剖学概論 機能形態学 | | 薬理学Ⅲ | 応用薬理学 | | |
| 2) 血管系について概説できる。 | | | | | | |
| 3) リンパ管系について概説できる。 | | | | | | |
| 【⑧呼吸器系】 | | | | | | |
| 1) 肺、気管支について概説できる。 | 解剖学概論 機能形態学 | 薬理学Ⅰ | | | | |
| 【⑨消化器系】 | | | | | | |
| 1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。 | 解剖学概論 機能形態学 | 薬理学Ⅰ | | | | |
| 2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。 | | | | | | |
| 【⑩泌尿器系】 | | | | | | |
| 1) 泌尿器系について概説できる。 | 解剖学概論 機能形態学 | | 薬理学Ⅲ | | | |
| 【⑪生殖器系】 | | | | | | |
| 1) 生殖器系について概説できる。 | 機能形態学 | | | | | |
| 【⑫内分泌系】 | | | | | | |
| 1) 内分泌系について概説できる。 | 機能形態学 | 細胞生化学Ⅰ | 薬理学Ⅲ | | | |
| 【⑬感覚器系】 | | | | | | |
| 1) 感覚器系について概説できる。 | 機能形態学 | 薬理学Ⅰ | | | | |
| 【⑭血液・造血器系】 | | | | | | |
| 1) 血液・造血器系について概説できる。 | 解剖学概論 機能形態学 | 薬理学Ⅰ | | | | |
| (2) 生体機能の調節 | | | | | | |
| 【①神経による調節機構】 | | | | | | |
| 1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。 | | | | | | |
| 3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。 | 機能形態学 | 薬理学Ⅱ | | | | |
| 4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。 | | | | | | |
| 【②ホルモン・内分泌系による調節機構】 | | | | | | |
| 1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。 | 機能形態学 | 細胞生化学Ⅰ | 薬理学Ⅲ | バイオ医薬品学* | | |
| 【③オートクオイドによる調節機構】 | | | | | | |
| 1) 代表的なオートクオイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。 | 機能形態学 | | 薬理学Ⅲ 細胞生化学Ⅱ | | | |
| 【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】 | | | | | | |
| 1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。 | | 基礎免疫学 | 薬理学Ⅲ 細胞生化学Ⅱ | バイオ医薬品学* | | |
| 【⑤血圧の調節機構】 | | | | | | |
| 1) 血圧の調節機構について概説できる。 | 機能形態学 | | 薬理学Ⅲ | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | 該当科目 | | | | | |
|-----------------------------------|--|--------------------------|------------------|---------------------|----------|-----------|-----------|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【⑥血糖の調節機構】 | 1) 血糖の調節機構について概説できる。 | 生化学 I 機能形態学 | | 薬理学 IV | | | |
| | 【⑦体液の調節】 | 1) 体液の調節機構について概説できる。 | 機能形態学 | | 薬理学 III | | |
| 【⑧体温の調節】 | 1) 体温の調節機構について概説できる。 | 機能形態学 | | | | | |
| | 【⑨血液凝固・線溶系】 | 1) 血液凝固、線溶系の機構について概説できる。 | 機能形態学 | 薬理学 I | 細胞生化学 II | バイオ医薬品学 * | |
| 【⑩性周期の調節】 | 1) 性周期の調節機構について概説できる。 | 機能形態学 | 細胞生化学 I | | | | |
| | 08 生体防御と微生物 | (1) 身体をまもる | | | | | |
| 【⑪生体防御反応】 | 1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。 | 微生物学 I | 基礎免疫学 | 薬理学 III 細胞生化学 II | | | |
| | 2) 免疫反応の特徴 (自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容) を説明できる。 | | | | | | |
| 【⑫免疫を担当する組織・細胞】 | 3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。 | | | | | | |
| | 4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。 | | | | | | |
| 【⑬免疫を担う組織・細胞】 | 1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。 | | 基礎免疫学 | 細胞生化学 II | | | |
| | 2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。 | | | | | | |
| 【⑭分子レベルで見た免疫のしくみ】 | 3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。 | | | | | | |
| | 1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。 | | 基礎免疫学 | 細胞生化学 II | | | |
| 【⑮免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用】 | 2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。 | | | | | | |
| | 3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性 (遺伝子再構成) と活性化について説明できる。 | | | | | | |
| 【⑯免疫応答の制御と破綻】 | 4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。 | | | | | | |
| | 5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。 | | | 薬理学 III | | | |
| | 1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。 | | 基礎免疫学 | 薬理学 III | | | |
| | 2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。 | | | | | 血清製剤学 * | |
| | 3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。 | | 基礎免疫学 微生物学 II | 細胞生化学 II | | | |
| | 4) 臓器移植と免疫反応の関わり (拒絶反応、免疫抑制剤など) について説明できる。 | | 基礎免疫学 | | | | |
| | 5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。 | | 基礎免疫学 | | | | |
| | 6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。 | | 基礎免疫学 | | | | バイオ医薬品学 * |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | 該 当 科 目 | | | | | |
|-----------------------------------|--|---------|------------------|--------------------|----|----|----|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【② 免疫反応の利用】 | | | | | | | |
| 1) | ワクチンの原理と種類 (生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど) について説明できる。 | 微生物学 I | 基礎免疫学 微生物学 II | | | | |
| 2) | モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。 | 微生物学 I | 基礎免疫学 | 細胞生化学 II 薬理学 IV | | | |
| 3) | 血清療法と抗体医薬について概説できる。 | | | 細胞生化学 II | | | |
| 4) | 抗原抗体反応を利用した検査方法 (ELISA 法、ウエスタンブロット法など) を実施できる。(技能) | | | 生化学実習 | | | |
| (3) 微生物の基本 | | | | | | | |
| 【① 総論】 | | | | | | | |
| 1) | 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。 | 微生物学 I | 細胞生化学 I | 薬理学 IV | | | |
| 【② 細菌】 | | | | | | | |
| 1) | 細菌の分類や性質 (系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など) を説明できる。 | 微生物学 I | | | | | |
| 2) | 細菌の構造と増殖機構について説明できる。 | | | | | | |
| 3) | 細菌の異化作用 (呼吸と発酵) および同化作用について説明できる。 | | | | | | |
| 4) | 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。 | | | | | | |
| 5) | 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。 | | 微生物学 II | 薬理学 IV | | | |
| 6) | 代表的な細菌毒素について説明できる。 | | | | | | |
| 【③ ウィルス】 | | | | | | | |
| 1) | ウィルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。 | 微生物学 I | 細胞生化学 I | 薬理学 IV | | | |
| 【④ 真菌・原虫・蠕虫】 | | | | | | | |
| 1) | 真菌の性状を概説できる。 | 微生物学 I | | 薬理学 IV | | | |
| 2) | 原虫および蠕虫の性状を概説できる。 | | | | | | |
| 【⑤ 消毒と滅菌】 | | | | | | | |
| 1) | 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。 | 微生物学 I | 微生物学 II | 微生物学実習 | | | |
| 2) | 主な滅菌法および消毒法について説明できる。 | | | | | | |
| 【⑥ 検出方法】 | | | | | | | |
| 1) | グラム染色を実施できる。(技能) | | | | | | |
| 2) | 無菌操作を実施できる。(技能) | | | | | | |
| 3) | 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能) | | | | | | |
| (4) 病原体としての微生物 | | | | | | | |
| 【① 感染の成立と共生】 | | | | | | | |
| 1) | 感染の成立 (感染源、感染経路、侵入門戸など) と共生 (腸内細菌など) について説明できる。 | 微生物学 I | 微生物学 II | 感染症予防学 | | | |
| 2) | 日和見感染と院内感染について説明できる。 | | | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該当科目 | | | | | |
|--|------|--------------------|----------------------------|----|--------|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【②代表的な病原体】 | | | | | | |
| 1) DNA ウイルス (ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど) について概説できる。 | | 微生物学 II 細胞生化学 I | | | | |
| 2) RNA ウイルス (ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV など) について概説できる。 | | | | | | |
| 3) グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌など) およびグラム陽性桿菌 (破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セラチア菌、デフィシル菌など) について概説できる。 | | 微生物学 II | 薬理学 IV | | | |
| 4) グラム陰性球菌 (淋菌、髄膜炎菌など) およびグラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、チフス菌、エルシニア菌、クレブシエラ菌、コレラ菌、百日咳菌、肺炎ヒブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など) について概説できる。 | | | | | | |
| 5) グラム陰性らせん菌 (ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジエジニ/コリなど) およびスピロヘータについて概説できる。 | | 微生物学 I | | | | |
| 6) 抗酸菌 (結核菌、らい菌など) について概説できる。 | | 微生物学 II 細胞生化学 I | | | | |
| 7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。 | | | | | | |
| 8) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムコール、白癬菌など) について概説できる。 | | 微生物学 II | | | | |
| 9) 原虫 (マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫 (回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど) について概説できる。 | | | | | | |
| D 衛生薬学 | | | | | | |
| D1 健康 | | | | | | |
| (1) 社会・集団と健康 | | | | | | |
| 【①健康と疾病の概念】 | | | | | | |
| 1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。 | | | 公衆衛生学 | | 未病治療学* | |
| 【②保健統計】 | | | | | | |
| 1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。 | | | | | | |
| 2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。 | | | 公衆衛生学 | | | |
| 3) 人口動態 (死因別死亡率など) の変遷について説明できる。 | | | | | | |
| 【③疫学】 | | | | | | |
| 1) 疾病の予防における疫学的作用を説明できる。 | | | 公衆衛生学 | | | |
| 2) 疫学の三要因 (病因、環境要因、宿主要因) について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 疫学の種類 (記述疫学、分析疫学など) とその方法について説明できる。 | | | 医療統計処理学 公衆衛生学 | | | |
| 4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、奇与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能) | | | 医療統計処理学 衛生化学実習 公衆衛生学 | | | |
| (2) 疾病の予防 | | | | | | |
| 【①疾病の予防とは】 | | | | | | |
| 1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。 | | | | | | |
| 2) 健康増進政策 (健康日本 21 など) について概説できる。 | | | 公衆衛生学 | | | |

| | 該当科目 | | | | | |
|---|------|--------|-----------------|----|--------|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs） | | | | | | |
| 【②感染症とその予防】 | | | | | | |
| 1) 現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。 | | 微生物学II | 感染症予防学 公衆衛生学 | | | |
| 2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。 | | | | | | |
| 4) 予防接種の意義と方法について説明できる。 | | | | | | |
| 【③生活習慣病とその予防】 | | | | | | |
| 1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。 | | | 公衆衛生学 | | 未病治療学* | |
| 2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度） | | | | | | |
| 【④母子保健】 | | | | | | |
| 1) 新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。 | | | 公衆衛生学 | | | |
| 2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。 | | | | | | |
| 【⑤労働衛生】 | | | | | | |
| 1) 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。 | | | 公衆衛生学 | | | |
| 2) 労働衛生管理について説明できる。 | | | | | | |
| (3) 栄養と健康 | | | | | | |
| 【①栄養】 | | | | | | |
| 1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。 | | | | | | |
| 3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。 | | | | | | |
| 4) 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。 | | | | | | |
| 5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。 | | | | | | |
| 6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。 | | | | | | |
| 7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。 | | | | | | |
| 8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。 | | | | | | |
| 【②食品機能と食品衛生】 | | | | | | |
| 1) 脱水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能） | | | 衛生化学実習 | | | |
| 3) 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。 | | | | | | |
| 4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。 | | | | | | |
| 5) 代表的な食品添加物を用意別に列挙し、それらの働きを説明できる。 | | | 衛生薬学II | | | |
| 6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。 | | | | | | |
| 7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。 | | | | | | |
| 【③食中毒と食品汚染】 | | | | | | |
| 1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防法について説明できる。 | | 微生物学I | | | | |
| 2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。 | | | | | | |
| 3) 化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。 | | | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該当科目 | | | | | |
|--|---------|----|----|----|----|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| D2 環境 | | | | | | |
| (1) 化学物質・放射線の生体への影響 | | | | | | |
| 【①化学物質の毒性】 | | | | | | |
| 1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。 | | | | | | |
| 2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。 | | | | | | |
| 3) 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。 | 環境衛生化学 | | | | | |
| 4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。 | | | | | | |
| 5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度) | | | | | | |
| 6) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。 | | | | | | |
| 7) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。 | | | | | | |
| 【②化学物質の安全性評価と適正使用】 | | | | | | |
| 1) 種々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度) | | | | | | |
| 2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。 | | | | | | |
| 3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOEL) などについて概説できる。 | 環境衛生化学 | | | | | |
| 4) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。 | | | | | | |
| 5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。 | | | | | | |
| 【③化学物質による発がん】 | | | | | | |
| 1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。 | | | | | | |
| 2) 遺伝毒性試験 (Ames試験など) の原理を説明できる。 | 環境衛生化学 | | | | | |
| 3) 発がんに至る過程 (イニシエーション、プロモーションなど) について概説できる。 | バイオ医薬品* | | | | | |
| 【④放射線の生体への影響】 | | | | | | |
| 1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。 | | | | | | |
| 2) 代表的な放射性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。 | 環境衛生化学 | | | | | |
| 3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。 | 放射薬品学 | | | | | |
| 4) 非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。 | | | | | | |
| (2) 生活環境と健康 | | | | | | |
| 【①地球環境と生態系】 | | | | | | |
| 1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。 | | | | | | |
| 3) 化学物質の環境内動態(生物濃縮など)について例を挙げて説明できる。 | 衛生薬学Ⅲ | | | | | |
| 4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。 | 環境薬学* | | | | | |
| 5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度) | | | | | | |
| 【②環境保全と法的規制】 | | | | | | |
| 1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 環境基本法の理念を説明できる。 | 衛生薬学Ⅲ | | | | | |
| 3) 環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など)を防止するための法規制について説明できる。 | 環境薬学* | | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該当科目 | | | | | |
|--|------------------------|----|------------------------|-------|-------|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【③水環境】 | | | | 衛生薬学Ⅲ | 環境薬学* | |
| 1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。 | | | | | | |
| 2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。 | | | 衛生化学実習 | | | |
| 3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能) | | | | | | |
| 4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。 | | | 衛生化学実習 | | | |
| 5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能) | | | | | | |
| 6) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。 | | | | | | |
| 【④大気環境】 | | | | 衛生薬学Ⅲ | 環境薬学* | |
| 1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。 | | | 衛生化学実習 | | | |
| 2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能) | | | | | | |
| 3) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。 | | | | | | |
| 【⑤室内環境】 | | | | 衛生薬学Ⅲ | 環境薬学* | |
| 1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能) | | | 衛生化学実習 | | | |
| 2) 室内環境と健康との関係について説明できる。 | | | | | | |
| 【⑥廃棄物】 | | | | 衛生薬学Ⅲ | 環境薬学* | |
| 1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。 | | | | | | |
| 2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。 | | | | | | |
| 3) マニフェスト制度について説明できる。 | | | | | | |
| E 医療薬学 | | | | | | |
| E1 薬の作用と体の変化 | | | | | | |
| (1) 薬の作用 | | | | | | |
| 【①薬の作用】 | | | | | | |
| 1) 薬の用量と作用の関係の説明できる。 | 薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ | | | | | |
| 2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。 | 薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ 細胞生化学Ⅰ | | 薬理学Ⅲ 細胞生化学Ⅱ 薬理学Ⅳ | | | |
| 3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。 | 薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ | | | | | |
| 4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理応答を説明できる。 | 薬理学Ⅰ 薬理学Ⅱ 細胞生化学Ⅰ | | | | | |
| 5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理応答を説明できる。(C6(6)【②細胞内情報伝達】1.~5.参照) | 薬物動態学Ⅰ | | | | | |
| 6) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。 (E4(1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照) | | | | | | |
| 7) 薬物の選択(養育を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。 | | | 薬物投与設計学 薬理学Ⅳ | | | |
| 8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。 (E4(1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照) | | | 薬物投与設計学 | | | |
| 9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。 | | | 薬物治療学Ⅱ | | | |
| 【②動物実験】 | | | | | | |
| 1) 動物実験における倫理について配慮できる。(態度) | | | | | | |
| 2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能) | | | 薬理学実習 | | | |
| 3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能) | | | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs） | | 該当科目 | | | | |
|--|--|------|-------------------------------|--------------------|--------|---------|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
| 【③日本薬局方】 | | | | 日本薬局方概論 薬理学実習 | | |
| 1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。 | | | | | | |
| (2) 身体の病的変化を知る | | | | | | |
| 【①症状】 | | | | | | |
| 1) 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満、やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心浮亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳、痰、血痰、喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血、下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク尿、血尿、尿量・尿色の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害 | | | 臨床検査化学Ⅰ 臨床検査化学Ⅱ | | | 救急救命医学* |
| 【②病態・臨床検査】 | | | | | | |
| 1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。 | | | | | | |
| 2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。 | | | | | | |
| 3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。 | | | | | | |
| 4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。 | | | | | | |
| 5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。 | | | 臨床検査化学Ⅰ 臨床検査化学Ⅱ 臨床検査化学Ⅲ | | | |
| 6) 代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。 | | | | | | |
| 7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。 | | | | | | |
| 8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。 | | | | | | 救急救命医学* |
| (3) 薬物治療の位置づけ | | | | | | |
| 1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。 | | | | | 臨床薬理学Ⅰ | |
| 2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能） | | | | | | 実務実習演習 |
| (4) 医薬品の安全性 | | | | | | |
| 1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 薬物の副作用と有害事象の運いについて説明できる。 | | | | | | |
| 3) 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害、電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害 | | | | 医薬品安全性Ⅰ 医薬品安全性Ⅱ | | |
| 4) 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度） | | | | 医薬品安全性Ⅱ | | |
| E2 薬理・病態・薬物治療 | | | | | | |
| (1) 神経系の疾患と薬 | | | | | | |
| 【①自律神経系に作用する薬】 | | | | | | |
| 1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。 | | | 薬理学Ⅰ | 薬理学Ⅲ | | |
| 2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。 | | | | | | |
| 3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。 | | | | | | |
| 4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能） | | | | 薬理学実習 | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該 当 科 目 | | | | | |
|---|---------|--------|---------------------|-------|--------------------|-----------------------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【②】体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療 | | | | | | |
| 1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。 | | 薬理学 I | | | | |
| 2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。 | | | 薬理学実習 | | | |
| 3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能) | | | 臨床病態学 | | | |
| 4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré (ギラン・バレー) 症候群、重症筋無力症 (重複) | | | | | | |
| 【③】中枢神経系の疾患の薬、病態、治療 | | | | | | |
| 1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。 | | | | | 実務実習演習 | |
| 2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用 (WHO 三段階除痛ラダーを含む) を説明できる。 | | | | 応用薬理学 | | |
| 3) 中枢興奮薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。 | | | | | 臨床薬理学 III * | |
| 4) 統合失調症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | 臨床薬理学 I 応用薬理学 | |
| 5) うつ病、躁うつ病 (双極性障害) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | 実務実習演習 臨床薬理学 III * |
| 6) 不安神経症 (パニック障害) と全般的な不安障害、心身症、不眠症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 7) てんかんについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | 薬理学 II | | | | |
| 8) 脳血管疾患 (脳内出血、脳梗塞、脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | 臨床病態学 | | | |
| 9) Parkinson (パーキンソン) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | 臨床薬理学 I 病院薬学 | |
| 10) 認知症 (Alzheimer (アルツハイマー) 型認知症、脳血管性認知症等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | 臨床薬理学 I 臨床薬理学 I | |
| 11) 片頭痛について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) について説明できる。(技能) | | | | | | |
| 12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能) | | | 薬理学実習 | | | |
| 13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度) | | | | | | |
| 14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎、髄膜炎 (重複)、多発性硬化症 (重複)、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy (ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症 | | | 薬物治療学 II | | | |
| 【④】化学構造と薬物 | | | | | | |
| 1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。 | | 薬理学 I | | | | |
| (2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬 | | | | | | |
| 【⑤】抗炎症薬 | | | | | | |
| 1) 抗炎症薬 (ステロイド性および非ステロイド性) および解熱性鎮痛薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。 | | | 薬理学 III 細胞生化学 II | 応用薬理学 | | |
| 2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 創傷治癒の過程について説明できる。 | | | | | | |

| | 該 当 科 目 | | | | | |
|--|---------|---------|--------------------------------|-------|-------------|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | | | | | |
| 【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】 | | | | | | |
| 1) アレルギー治療薬 (抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。 | | 薬理学 I | 薬理学 III 細胞生化学 II | 応用薬理学 | | |
| 2) 免疫抑制薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。 | | | | | | |
| 3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息 (重複) | | 薬理学 I | 薬理学 III 薬物治療学 I 細胞生化学 II | | 臨床薬理学 III * | |
| 4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態 (病態生理、症状等) および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson (スティーブンス-ジョンソン) 症候群、中毒性表皮壊死症 (重複) 、薬剤性過敏症候群、蕁麻疹 | | | | | | |
| 5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | 細胞生化学 II | | 臨床薬理学 III * | |
| 6) 以下の疾患について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ペーチェット病 | | | | | | |
| 7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 ハセドウ病 (重複) 、橋本病 (重複) 、悪性貧血 (重複) 、アジソン病、1型糖尿病 (重複) 、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血 (重複) 、シェーグレン症候群 | | | | | | |
| 8) 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎/皮膚筋炎、関節リウマチ (重複) | | | 薬物治療学 I 細胞生化学 II | | | |
| 9) 臓器移植 (腎臓、肝臓、骨髄、膵臓、輸血) について、拒絶反応および移植片対宿主病 (GVHD) の病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | 薬物治療学 II | | | |
| 【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】 | | | | | | |
| 1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | 薬物治療学 I 薬理学 III 細胞生化学 II | | | |
| 2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | 細胞生化学 I | 薬物治療学 I 薬理学 IV | | | |
| 3) 変形性関節症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | 薬物治療学 I 臨床病態学 | | 実務実習演習 | |
| 4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患 (副甲状腺機能亢進 (低下) 症、骨軟化症 (くる病を含む) 、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | 薬物治療学 I 薬理学 IV | | | |
| 【④化学構造と薬効】 | | | | | | |
| 1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。 | | 薬理学 I | 薬理学 III 細胞生化学 II | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該 当 科 目 | | | | | |
|--|---------|-----------|---------------------------|----------------|----|-----------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| (3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬 | | | | | | |
| 【①循環器系疾患の薬、病態、治療】 | | | | | | |
| 1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。不整脈の明示:上室性期外収縮(PAC)、心室性期外収縮(PVC)、心房細動(AF)、発作性上室頻拍(PSVT)、WPW症候群、心室頻拍(VT)、心室細動(VF)、房室ブロック、QT延長症候群 | | | 薬物治療学I 薬理学III 臨床病態学 | 応用薬理学 | | 実務実習演習 |
| 2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 | | | | 応用薬理学 病院薬学 | | 実務実習演習 |
| 3) 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 | | | | | | |
| 4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む) | | | | | | |
| 5) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症(ASO)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患 | | | 薬物治療学II | | | |
| 6) 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能) | | | 薬理学実習 | | | |
| 【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】 | | | | | | |
| 1) 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。 | | | | | | 血清製剤学* |
| 2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。 | | 薬理学I | 細胞生化学II 薬物治療学II | | | |
| 3) 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血 | | | | | | 臨床薬理学III* |
| 4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 | | | | | | 血清製剤学* |
| 5) 以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病(重複)、悪性リンパ腫(重複)【⑥悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照(E2(7)) | | | 薬物治療学II | | | |
| 【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】 | | | | | | |
| 1) 利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。 | | | 薬理学III | 臨床薬理学I | | |
| 2) 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 | | | 臨床病態学 | 臨床薬理学I 病院薬学 | | |
| 3) 水ロローザ症候群について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 | | 臨床検査化学III | | | | |
| 4) 通汗動脈脱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 | | 薬理学I | 薬理学III 臨床病態学 | | | 臨床薬理学III* |
| 5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重複)、補腎病性腎症(重複)、薬剤性腎症(重複)、腎孟腎炎(重複)、膀胱炎(重複)、尿路感染症(重複)、尿路結石 | | 臨床検査化学III | 臨床病態学 | 臨床薬理学I | | |
| 6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。前立腺肥大症、子宮内膜炎、子宮筋腫 | | | | | | |
| 7) 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 | | | | | | |
| 8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。異常妊娠、異常分娩、不妊症 | | | 薬理学III | 応用薬理学 | | |

| | 該当科目 | | | | | |
|---|------|------------|------------------------------|------------------|----|-------------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | | | | | |
| 【④化学構造と薬効】 | | | | | | |
| 1) 循環系、泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。 | | 薬理学 I | 薬理学 III | | | |
| 【④呼吸器系・消化器系の疾患と薬】 | | | | | | |
| 【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】 | | | | | | |
| 1) 気管支喘息について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | 臨床病態学 | 臨床薬理学 II | | 臨床薬理学 III * |
| 2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患 (ニコチン依存症を含む) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。 | | | | | | |
| 【②消化器系疾患の薬、病態、治療】 | | | | | | |
| 1) 以下の上腹部消化器疾患について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 胃食道逆流症 (逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎 | | | 薬物治療学 I 細胞生化学 II 臨床病態学 | 応用薬理学 | | |
| 2) 炎症性腸疾患 (潰瘍性大腸炎、クローン病等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | 薬物治療学 II | | | |
| 3) 肝疾患 (肝炎、肝硬変 (ウイルス性を含む))、薬剤性肝障害) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | 薬理学 I | | | | 臨床薬理学 III * |
| 4) 膵炎について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 5) 胆道疾患 (胆石症、胆道炎) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 6) 機能性消化管障害 (過敏性腸症候群を含む) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 7) 便秘・下痢について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | 臨床検査化学 III | | | | |
| 8) 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物 (催吐薬) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | 薬理学 I | | | | |
| 9) 痔について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 【③化学構造と薬効】 | | | | | | |
| 1) 呼吸器系、消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。 | | 薬理学 I | | | | |
| 【⑤代謝系・内分泌系の疾患と薬】 | | | | | | |
| 【①代謝系疾患の薬、病態、治療】 | | | | | | |
| 1) 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | 臨床薬理学 I 病院薬学 | | 実務実習演習 |
| 2) 脂質異常症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | 薬理学 IV | 病院薬学 臨床薬理学 II | | |
| 3) 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該当科目 | | | | | |
|--|------|-----------------------|-------------------------------|------------------|----|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】 | | | | | | |
| 1) 性ホルモン関連薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。 | | 細胞生化学 I | 薬理学 II 臨床病態学 | 応用薬理学 | | |
| 2) Basedow (バセドウ) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | 臨床薬理学 I 応用薬理学 | | |
| 3) 甲状腺炎 (慢性 (橋本病)、亜急性) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 4) 虚脱症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | 細胞生化学 I 臨床検査化学 III | 臨床病態学 | | | |
| 5) 以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH不適合分泌症候群 (SIADH)、副甲状腺機能亢進症、低下症、Cushing (クッシング) 症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全 (急性、慢性)、子宮内腫症 (重複)、アジソン病 (重複) | | 細胞生化学 I | | | | |
| 【③化学構造と薬効】 | | | | | | |
| 1) 代謝系、内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。 | | | 薬理学 IV | | | |
| (6) 感覚器・皮膚の疾患と薬 | | | | | | |
| 【①眼疾患の薬、病態、治療】 | | | | | | |
| 1) 緑内障について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 2) 白内障について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | 薬理学 I | 薬物治療学 I | | | |
| 3) 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 4) 以下の疾患について概説できる。 網膜炎 (重複)、網膜症、ぶどう膜炎、網膜色素変性症 | | | | | | |
| 【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】 | | | | | | |
| 1) めまい (動揺病、Meniere (メニエール) 病等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | 臨床検査化学 III | 薬物治療学 I 薬理学 II | | | |
| 2) 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎 (重複)、花粉症 (重複)、副鼻腔炎 (重複)、中耳炎 (重複)、口内炎・咽喉炎、扁桃腺炎 (重複)、喉頭蓋炎 | | | 薬物治療学 I | 実務実習演習 | | |
| 【③皮膚疾患の薬、病態、治療】 | | | | | | |
| 1) アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (E2 (2)) (2) 免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療 (参照) | | | 薬物治療学 I 細胞生化学 II 薬理学 II | | | |
| 2) 皮膚真菌症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (E2 (7)) (5) 真菌感染症の薬、病態、治療 (参照) | | | 薬理学 II 薬理学 IV | | | |
| 3) 褥瘡について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等)・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | 薬理学 II 薬理学 IV | | | |
| 4) 以下の疾患について概説できる。 尋常性乾癬 (重複)、薬疹 (重複)、水疱症 (重複)、乾燥性皮膚炎 (重複)、光線過敏症 (重複) | | | 薬物治療学 I 細胞生化学 II | | | |
| 【④化学構造と薬効】 | | | | | | |
| 1) 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。 | | | 薬理学 IV | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該当科目 | | | | | |
|--|------|--------|------------------|----|----|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| (7) 病原微生物 (感染症)・悪性新生物 (がん) と薬 | | | | | | |
| 【①抗菌薬】 | | | | | | |
| 1) 以下の抗菌薬の薬理 (薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床応用を説明できる。 β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体 (アミノグリコシド) 系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤 (S1剤を含む)、その他の抗菌薬 | | 微生物学II | 感染症予防学 薬理学IV | | | |
| 2) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤 (ワクチン等) を挙げ、その作用機序を説明できる。 | | | | | | |
| 【②抗菌薬の耐性】 | | | | | | |
| 1) 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。 | | 微生物学II | 感染症予防学 薬理学IV | | | |
| 【③細菌感染症の薬、病態、治療】 | | | | | | |
| 1) 以下の呼吸器感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 上気道炎 (かぜ症候群 (大部分がウイルス感染症) を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎 | | | | | | |
| 2) 以下の消化器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎 | | | | | | |
| 3) 以下の感覚器感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎 | | | | | | |
| 4) 以下の尿路感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎 | | | 薬理学IV | | | |
| 5) 以下の性感染症について、病態 (病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等 | | | | | | |
| 6) 脳炎、髄膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 7) 以下の皮膚細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病 | | | | | | |
| 8) 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 9) 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態 (病態生理、症状等) および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等 | | | 薬物治療学II 薬理学IV | | | |
| 10) 以下の全身性細菌感染症について、病態 (病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 ジフテリア、副症型A群β溶血性連鎖球菌感染症、新生児B群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症 | | | 薬理学IV | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該当科目 | | | | | |
|--|-------|---------|--------|-----------|----|---------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】 | | | | | | |
| 1) ヘルペスウイルス感染症 (単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 2) サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | 微生物学 II | | | | |
| 3) インフルエンザについて、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | 臨床薬理学 II | | |
| 4) ウイルス性肝炎 (HAV, HBV, HCV) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理 (急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。(重複) | | | 薬理学 IV | | | |
| 5) 後天性免疫不全症候群 (AIDS) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 6) 以下のウイルス感染症 (プリオン病を含む) について、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性紅斑 (リンゴ病)、伝染性単核球症、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob (クロイツフェルト-ヤコブ) 病 | | | | | | |
| 【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】 | | | | | | |
| 1) 抗真菌薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。 | | | 薬理学 IV | | | 臨床診療学 * |
| 2) 以下の真菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症 | | | | | | |
| 【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】 | | | | | | |
| 1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢 | | | | | | |
| 2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 回虫症、蟻虫症、アニサキス症 | | | 薬理学 IV | | | 臨床診療学 * |
| 【⑦悪性腫瘍】 | | | | | | |
| 1) 腫瘍の定義 (良性腫瘍と悪性腫瘍の違い) を説明できる。 | 細胞生物学 | | | バイオ医薬品学 * | | |
| 2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 網膜型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査 (細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー (腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む))、悪性腫瘍の疫学 (がん罹患の現状およびがん死亡の現状)、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因 | | | 薬理学 IV | | | 臨床診療学 * |
| 3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。 | 細胞生物学 | | | バイオ医薬品学 * | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該当科目 | | | | | |
|---|-------|---------|--------------------|-------------------|----|---------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】 | | | | | | |
| 1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン阻害薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬 | | 細胞生化学 I | 薬理学 IV | バイオ医薬品 * | | |
| 2) 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。 | | | | | | |
| 3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用 (下痢、悪心、嘔吐、白血球減少、皮膚障害 (手足症候群を含む)、血小板減少等) の軽減のための対処法を説明できる。 | | | | | | |
| 4) 代表的ながん化学療法法のレジメン (FOLFOX等) について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。 | | | 薬物治療学 I 薬理学 IV | | | |
| 5) 以下の白血病について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 急性 (慢性) 骨髄性白血病、急性 (慢性) リンパ性白血病、成人 T細胞白血病 (ATL) | | | 薬物治療学 II 薬理学 IV | | | 臨床診療学 * |
| 6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 7) 骨肉腫について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | 薬理学 IV | | | |
| 8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌 | | | 薬物治療学 I 薬理学 IV | | | |
| 9) 肺癌について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | 臨床薬理学 II | | 臨床診療学 * |
| 10) 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔、副鼻腔、口腔の悪性腫瘍 | | | | | | |
| 11) 以下の生殖系の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 前立腺癌、子宮癌、卵巣癌 | | | 薬理学 IV | 臨床薬理学 I | | |
| 12) 腎・尿路系の悪性腫瘍 (腎癌、膀胱癌) について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 13) 乳癌について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | 臨床薬理学 II | | 臨床診療学 * |
| 【⑨がん終末期医療と緩和ケア】 | | | | | | |
| 1) がん終末期の病態 (病態生理、症状等) と治療を説明できる。 | | | 薬物治療学 II | | | |
| 2) がん性疼痛の病態 (病態生理、症状等) と薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 | | | | | | |
| 【⑩化学構造と薬効】 | | | | | | |
| 1) 病原微生物・悪性新生物が関与する疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。 | | | 薬理学 IV | | | |
| (8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報 | | | | | | |
| 【⑪組織体医薬品】 | | | | | | |
| 1) 組織体医薬品の特徴と有用性を説明できる。 | | | 細胞生化学 II 薬理学 IV | バイオ医薬品 * | | |
| 2) 代表的な組織体医薬品を列挙できる。 | | | | | | |
| 3) 組織体医薬品の安全性について概説できる。 | 細胞生物学 | | | | | |
| 【⑫遺伝子治療】 | | | | | | |
| 1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度) | | | | 医薬倫理学 バイオ医薬品 * | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | | | |
|--|----|-----------------|----------------------|--------|
| 該当科目 | | | | |
| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 |
| 6年 | | | | |
| 【③細胞、組織を利用した移植医療】 | | | | |
| 1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度) | | | | |
| | | | 医薬倫理学 バイオ医薬品学* | |
| 2) 挿入および培養組織を用いた移植医療について説明できる。 | | | | |
| | | 薬物治療学II | 医薬倫理学 | |
| 3) 脐帯血、末梢血および骨髄由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。 | | | | |
| | | | 医薬倫理学 | |
| 4) 胚性幹細胞 (ES細胞)、人工多能性幹細胞 (iPS細胞) を用いた細胞移植医療について概説できる。 | | | | |
| | | | バイオ医薬品学* | |
| (9) 要指適医薬品・一般用医薬品とセルフレイケーション | | | | |
| 1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。 | | | | |
| | | | 実務実習事前学習I 薬局管理学 | 未病治療学* |
| 2) 要指適医薬品および一般用医薬品 (リススクの程度に応じた区分 (第一類、第二類、第三類) も含む) について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。 | | | | |
| | | | 薬局管理学 | |
| 3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはならない疾患を列挙できる。 | | | | |
| | | | 実務実習事前学習IIa 薬局管理学 | |
| 4) 要指適医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧誘の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能) | | | | |
| | | | 薬局管理学 | |
| 5) 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指適医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病等 | | | | |
| | | | 実務実習事前学習I 薬局管理学 | 未病治療学* |
| 6) 主な養生法 (運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む) とその健康の保持・促進における意義を説明できる。 | | | | |
| | | | 実務実習事前学習IIb 薬局管理学 | |
| 7) 要指適医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。 | | | | |
| | | | | |
| 8) 要指適医薬品・一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能) | | | | |
| | | | | |
| (10) 医療中の漢方薬 | | | | |
| 【①漢方薬の基礎】 | | | | |
| | | | | |
| 1) 漢方の特徴について概説できる。 | | | | |
| | | 漢方概論 | | |
| 2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証 | | | | |
| | | | | |
| 3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。 | | | | |
| | | | | |
| 4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などの相違について説明できる。 | | | | |
| | | | | 未病治療学* |
| 【②漢方薬の応用】 | | | | |
| | | | | |
| 1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。 | | | | |
| | | 漢方概論 | | 未病治療学* |
| 2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。 | | | | |
| | | 日本薬局方概論 漢方概論 | | |
| 3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。 | | | | |
| | | 漢方概論 | | 天然薬物学* |
| 【③漢方薬の注意点】 | | | | |
| | | | | |
| 1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。 | | | | |
| | | 漢方概論 | | 天然薬物学* |
| (11) 薬物治療の最適化 | | | | |
| 【①総合演習】 | | | | |
| 1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度) | | | | |
| | | | | 実務実習演習 |
| 2) 通剰量の医薬品による副作用への対応 (解毒薬を含む) を討議する。(知識・態度) | | | | |
| | | 臨床検査化学II | | |
| 3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度) | | | | |
| | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該 当 科 目 | | | | | |
|---|---------|----|---------|------------|----|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| E3 薬物治療に役立つ情報 | | | | | | |
| (1) 医薬品情報 | | | | | | |
| 【①情報】 | | | | | | |
| 1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。 | | | | | | |
| 2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。 | | | | | | |
| 3) 医薬品情報(後発医薬品等を含む)の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。 | | | | 実務実習事前学習 I | | |
| 4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。 | | | | | | |
| 5) 医薬品情報に關する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GMP、GVP、GPSP、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。 | | | | | | |
| 【②情報源】 | | | | | | |
| 1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。 | | | | | | |
| 2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。 | | | | | | |
| 4) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけについて説明できる。 | | | | | | |
| 5) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の記載項目(警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など)を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。 | | | | | | |
| 6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。 | | | | | | |
| 【③収集・評価・加工・提供・管理】 | | | | | | |
| 1) 目的(効能効果、副作用、相互作用、薬物鑑別、妊婦への授与、中毒など)に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能) | | | | | | |
| 2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能) | | | | | | |
| 3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。 | | | | | | |
| 4) 臨床試験などの原書論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能) | | | | | | |
| 5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点(知的所有権、著作権など)について説明できる。 | | | | | | |
| 【④EBM (Evidence-based Medicine)】 | | | | | | |
| 1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。 | | | | | | |
| 2) 代表的な臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。 | | | | | | |
| 3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内の妥当性(研究結果の正確度や再現性)と外的妥当性(研究結果の一般化の可能性)について概説できる。(E3 (1) 【③収集・加工・提供・管理】参照) | | | 医療統計処理学 | | | |
| 4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。 | | | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該 当 科 目 | | | | | |
|--|---------|----|----------|----|----|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【⑤生物統計】 | | | 医療統計+処理学 | | | |
| 1) 臨床研究における基本的な統計量 (平均値、中央値、標準偏差、信頼区間など) の意味と違いを説明できる。 | | | | | | |
| 2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。 | | | | | | |
| 3) 代表的な分布 (正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 χ^2 分布、F分布) について概説できる。 | | | | | | |
| 4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。 | | | | | | |
| 5) 二群間の差の検定 (t検定、 χ^2 検定など) を実施できる。(技能) | | | | | | |
| 6) 主な回帰分析 (直線回帰、ロジスティック回帰など) と相関係数の検定について概説できる。 | | | | | | |
| 7) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier 曲線など) について概説できる。 | | | | | | |
| 【⑥臨床研究デザインと解析】 | | | 医療統計+処理学 | | | |
| 1) 臨床研究 (治療を含む) の代表的な手法 (介入研究、観察研究) を列挙し、それらの特徴を概説できる。 | | | | | | |
| 2) 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。 | | | | | | |
| 3) 観察研究での主な疫学研究デザイン (症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など) について概説できる。 | | | | | | |
| 4) 副作用の因果関係を評価するための方法 (副作用判定アルゴリズムなど) について概説できる。 | | | | | | |
| 5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。 | | | | | | |
| 6) 介入研究の計画上の技法 (症例数設定、ランダム化、盲検化など) について概説できる。 | | | | | | |
| 7) 統計解析時の注意点について概説できる。 | | | | | | |
| 8) 介入研究の効果指標 (真のエンドポイントと代替のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント) の違いを、例を挙げて説明できる。 | | | | | | |
| 9) 臨床研究の結果 (有効性、安全性) の主なパラメータ (相対リスク、絶対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合) を説明し、計算できる。(知識・技能) | | | | | | |
| 【⑦医薬品の比較・評価】 | | | 医療統計+処理学 | | | |
| 1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。 | | | | | | |
| 2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。(技能) | | | | | | |
| 3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。(技能) | | | | | | |
| (2) 患者情報 | | | | | | |
| 【⑧情報と情報源】 | | | | | | |
| 1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。 | | | | | | |
| 2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。 | | | | | | |
| 【⑨収集・評価・管理】 | | | | | | |
| 1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。 | | | | | | |
| 2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。 | | | | | | |
| 4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。(A (2) 【③患者の権利】参照) | | | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs） | | | | | |
|--|---------|---------|------------|----|----|
| 該当科目 | | | | | |
| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| (3) 個別化医療 | | | | | |
| 【①遺伝的素因】 | | | | | |
| 1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。 | | | | | |
| 2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因（薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など）について、例を挙げて説明できる。 | 薬物動態学 I | 薬物投与設計学 | | | |
| 3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。 | | | | | |
| 【②年齢的素因】 | | | | | |
| 1) 低出生体重児、新生児、乳児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。 | | | 実務実習事前学習 I | | |
| 2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。 | | | | | |
| 【③臓器機能低下】 | | | | | |
| 1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。 | | | | | |
| 2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。 | | | | | |
| 3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。 | | | | | |
| 【④その他の素因】 | | | | | |
| 1) 薬物の効果に影響する生理的要因（性差、閉経、日内変動など）を列挙できる。 | | | | | |
| 2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。 | | | | | |
| 3) 栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、脱水など）における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。 | | | | | |
| 【⑤個別化医療の計画・立案】 | | | | | |
| 1) 個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的素因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。（技能） | | | | | |
| 2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。 | 細胞生化学 I | | | | |
| E4 薬の生体内運命 | | | | | |
| (1) 薬物の体内動態 | | | | | |
| 【①生体膜透過】 | | | | | |
| 1) 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。 | 細胞生物学 | | | | |
| 2) 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。 | 薬物動態学 I | | | | |
| 【②吸収】 | | | | | |
| 1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。 | | | | | |
| 2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。 | | | | | |
| 3) 薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因など）を列挙し、説明できる。 | 薬物動態学 I | 薬物投与設計学 | | | |
| 4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。 | | | | | |
| 5) 初回通過効果について説明できる。 | | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該当科目 | | | | | |
|--|------|----------|---------------------|---------------------|----|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【③分布】 | | | | | | |
| 1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。 | | 薬物動態学 I | | | | |
| 2) 薬物の組織移行性 (分布容積) と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。 | | | | | | |
| 3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。 | | | | | | |
| 4) 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。 | | | | | | |
| 5) 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。 | | | | | | |
| 6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。 | | | | 薬物投与設計学 | | |
| 【④代謝】 | | | | | | |
| 1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。 | | 薬物動態学 I | | | | |
| 2) 薬物代謝の第 I 相反応 (酸化・還元・加水分解)、第 II 相反応 (抱合) について、例を挙げて説明できる。 | | | | | | |
| 3) 代表的な薬物代謝酵素 (分子種) により代謝される薬物を列挙できる。 | | | | | | |
| 4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。 | | | | | | |
| 5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。 | | | | 薬物投与設計学 | | |
| 【⑤排泄】 | | | | | | |
| 1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。 | | 薬物動態学 I | | | | |
| 2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。 | | 薬物動態学 II | | | | |
| 3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。 | | | | | | |
| 4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。 | | 薬物動態学 I | | | | |
| 5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。 | | | 薬物投与設計学 | | | |
| (2) 薬物動態の解析 | | | | | | |
| 【①薬物速度論】 | | | | | | |
| 1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ (全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など) の概念を説明できる。 | | | 製剤・薬剤学実習 | | | |
| 2) 線形 1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる (急速静注・経口投与 [単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能) | | 薬物動態学 II | | | | |
| 3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能) | | | | | | |
| 4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。 | | | | | | |
| 5) 組織クリアランス (肝、腎) および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。 | | | | | | |
| 6) 薬物動態学-薬力学解析 (PK-PD解析) について概説できる。 | | | | 薬物投与設計学 製剤・薬剤学実習 | | |
| 【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】 | | | | | | |
| 1) 治療薬物モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。 | | | 薬物投与設計学 製剤・薬剤学実習 | | | |
| 2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能) | | | | | | |
| 4) ポピュレーションファーマコキネティクス概念と応用について概説できる。 | | | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該当科目 | | | | | |
|--|------|----|--------|----|----|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| E5 製剤化のサイエンス | | | | | | |
| (1) 製剤の性質 | | | | | | |
| 【①固形材料】 | | | 製剤学 I | | | |
| 1) 粉体の性質について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 結晶 (安定形および準安定形) や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 固形材料の溶解現象 (溶解度、溶解平衡など) や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。 (C2) (2) 【①酸・塩基平衡】 1. 及び 【②各種の化学平衡】 2. 参照 | | | | | | |
| 4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子 (pHや温度など) について説明できる。 | | | | | | |
| 5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。 | | | | | | |
| 【②半固形・液状材料】 | | | 製剤学 I | | | |
| 1) 流動と変形 (レオロジー) について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 高分子の構造と高分子溶液の性質 (粘度など) について説明できる。 | | | | | | |
| 【③分散系材料】 | | | | | | |
| 1) 界面の性質 (界面張力、分配平衡、吸着など) や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。 (C2) (2) 【②各種の化学平衡】 4. 参照 | | | | | | |
| 2) 代表的な分散系 (分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など) を列挙し、その性質について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 分散した粒子の安定性と分離現象 (沈降など) について説明できる。 | | | | | | |
| 4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。 | | | | | | |
| 【④薬物及び製剤材料の物性】 | | | 製剤学 I | | | |
| 1) 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 薬物の安定性 (反応速度、複合反応など) や安定性に影響を及ぼす因子 (pH、温度など) について説明できる。 (C1) (3) 【①反応速度】 1. ~7. 参照 | | | | | | |
| 3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。 | | | | | | |
| (2) 製剤設計 | | | | | | |
| 【①代表的な製剤】 | | | 製剤学 I | | | |
| 1) 製剤化の概要と意義について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 粘膜に適用する製剤 (点眼剤、吸入剤など) の種類とその特性について説明できる。 | | | | | | |
| 4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。 | | | | | | |
| 5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。 | | | | | | |
| 6) その他の製剤 (生薬関連製剤、透析に用いる製剤など) の種類と特性について説明できる。 | | | | | | |
| 【②製剤化と製剤試験法】 | | | 製剤学 II | | | |
| 1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。 | | | | | | |
| 4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。 | | | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該当科目 | | | | | |
|--|--------|--------|----|------------------|---------|------------------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【③生物学的同索性】 | | | | | | |
| 1) 製剤の特性 (適用部位、製剤からの薬物の放出性など) を理解した上で、生物学的同索性について説明できる。 | | 薬物動態学Ⅱ | | 製剤学Ⅲ | | |
| (3) DDS (Drug Delivery System : 薬物送達システム) | | | | | | |
| 【①DDS の必要性】 | | | | | | |
| 1) DDSの概念と有用性について説明できる。 | | | | 製剤学Ⅲ | | |
| 2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 (プロドラッグについては、E4(1)【④代謝】4.も参照) | | | | | | |
| 【②コントロールリリース (放出制御)】 | | | | | | |
| 1) コントロールリリースの概要と意義について説明できる。 | | | | 製剤学Ⅲ | | |
| 2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。 | | | | | | |
| 3) コントロールリリース技術を用いた代表的な医薬品を列挙できる。 | | | | | | |
| 【③ターゲティング (標的指向化)】 | | | | | | |
| 1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。 | | | | 製剤学Ⅲ バイオ医薬品学* | | |
| 2) 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。 | | | | 製剤学Ⅲ | | |
| 3) ターゲティング技術を用いた代表的な医薬品を列挙できる。 | | | | 製剤学Ⅲ バイオ医薬品学* | | |
| 【④吸収改善】 | | | | | | |
| 1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。 | | | | 製剤学Ⅲ | | |
| 2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 吸収改善技術を用いた代表的な医薬品を列挙できる。 | | | | | | |
| F 薬学臨床 | | | | | | |
| 前) : 病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項 | | | | | | |
| (1) 薬学臨床の基礎 | | | | | | |
| 【①早期臨床体験】 ※原則として2年次修了までに学習する事項 | | | | | | |
| 1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度) | 早期臨床学習 | | | | | |
| 2) 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度) | | | | | | |
| 3) 一次救命処置(心肺蘇生、外傷対応等)を説明し、シミュレータを用いて実施できる。(知識・技能) | | | | | 救急救命医学* | |
| 【②臨床における心構え】 [A (1)、(2) 参照] | | | | | | |
| 1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度) | | | | 実務実習事前学習Ⅰc | | |
| 2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度) | | | | 実務実習事前学習Ⅱa | | |
| 3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度) | | | | 実務実習事前学習Ⅱc | | |
| 4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度) | | | | | | |
| 5) 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。(態度) | | | | | | |
| 6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度) | | | | | | 薬局実務実習 病院実務実習 |
| 7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度) | | | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該当科目 | | | | | |
|--|------|----|----|----|----|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【③臨床実習の基礎】 | | | | | | |
| 1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。 | | | | | | |
| 2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実施する薬学的管理の重要性について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 前) 病院薬剤師部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。 | | | | | | |
| 4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。 | | | | | | |
| 5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度 (医療、福祉、介護) の概略を説明できる。 [B (3) ①参照] | | | | | | |
| 6) 病院における薬剤師部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。 | | | | | | |
| 7) 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。 | | | | | | |
| 8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。(態度) | | | | | | |
| 9) 急性期医療 (救急医療・集中治療・外傷治療等) や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。 | | | | | | |
| 10) 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。 | | | | | | |
| 11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。 | | | | | | |
| 12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。 | | | | | | |
| 13) 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。 | | | | | | |
| 14) 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。 | | | | | | |
| 15) 薬局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることをできる。(知識・態度) | | | | | | |
| (2) 処方せんに基づく調剤 | | | | | | |
| 【①法令・規則等の理解と遵守】 [B (2)、(3) 参照] | | | | | | |
| 1) 前) 調剤業務に関わる事項 (処方せん、調剤録、疑義照会等) の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。 | | | | | | |
| 2) 調剤業務に関わる法的文書 (処方せん、調剤録等) の適切な記載と保存・管理ができる。 (知識・技能) | | | | | | |
| 3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度) | | | | | | |
| 4) 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。 | | | | | | |
| 【②処方せんと疑義照会】 | | | | | | |
| 1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。 | | | | | | |
| 2) 前) 処方オーダーリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。 | | | | | | |
| 3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。 | | | | | | |
| 4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。 | | | | | | |
| 5) 前) 処方せんに監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。 | | | | | | |
| 6) 前) 処方せん等に基づき疑義照会ができる。(技能・態度) | | | | | | |
| 7) 処方せんの記載事項 (医薬品名、分量、用法・用量等) が適切であるか確認できる。 (知識・技能) | | | | | | |
| 8) 注釈薬処方せんの記載事項 (医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等) が適切であるか確認できる。 (知識・技能) | | | | | | |
| 9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能) | | | | | | |
| 10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方者が妥当であるか判断できる。(知識・技能) | | | | | | |
| 11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。(技能・態度) | | | | | | |

| | 該当科目 | | | | | |
|---|------|----|----|-------------|------------------|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | | | | | |
| 【③処方せんに基づく医薬品の調製】 | | | | | | |
| 1) 前) 薬袋、薬札 (ラベル) に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能) | | | | 実務実習事前学習IIa | | |
| 2) 前) 主な医薬品の成分 (一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。 | | | | 実務実習事前学習I | | |
| 3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能) | | | | 実務実習事前学習IIa | | |
| 4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。 | | | | 実務実習事前学習I | | |
| 5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。 | | | | 薬剤師業務概論 | | |
| 6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能) | | | | 実務実習事前学習IIa | | |
| 7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いににおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能) | | | | 実務実習事前学習IIa | | |
| 8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能) | | | | 実務実習事前学習I | | |
| 9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。(技能) | | | | 実務実習事前学習IIa | | |
| 10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能) | | | | | | |
| 11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能) | | | | | | |
| 12) 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能) | | | | | | |
| 13) 一回量 (一包化) 調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能) | | | | | | |
| 14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能) | | | | | | |
| 15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。 | | | | | | |
| 16) 注射剤 (高カロリー輸液等) の無菌的混合操作を実施できる。(技能) | | | | | | |
| 17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いににおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能) | | | | | | |
| 18) 特別な注意を要する医薬品 (劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等) の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能) | | | | | | |
| 19) 調剤された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能) | | | | | 薬局実務実習 病院実務実習 | |

| 1年 | 該当科目 | | | | 6年 |
|---|------|----|--|------------------|----|
| | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | |
| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | | | | | |
| 【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】 | | | | | |
| 1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と対応できる。(態度) | | | 実務実習事前学習 IIa 薬局管理学 | | |
| 2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの対応や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。 | | | | | |
| 3) 前) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度) | | | | | |
| 4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度) | | | 実務実習事前学習 I 実務実習事前学習 IIa 薬局管理学 | | |
| 5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。 | | | | | |
| 6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤(眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等)の取扱い方法を説明できる。(技能・態度) | | | | | |
| 7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。 | | | 実務実習事前学習 I 実務実習事前学習 IIa 薬剤師業務概論 | | |
| 8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能) | | | 実務実習事前学習 I 実務実習事前学習 IIa | | |
| 9) 患者・来局者に合わせて適切な対応ができる。(態度) | | | | | |
| 10) 患者・来局者から、必要な情報(症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等)を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度) | | | | | |
| 11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度) | | | | | |
| 12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度) | | | | | |
| 13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度) | | | | | |
| 14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度) | | | | | |
| 15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能) | | | | | |
| 【⑤医薬品の供給と管理】 | | | | | |
| 1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。 | | | 実務実習事前学習 I 実務実習事前学習 I 実務実習事前学習 IIb | | |
| 2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。 | | | | | |
| 3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。 | | | | | |
| 4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。 | | | | | |
| 5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管方法を説明できる。 | | | 実務実習事前学習 I 放射線薬理学 | | |
| 6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。 | | | | | |
| 7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。 | | | | | |
| 8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。 | | | 実務実習事前学習 I 実務実習事前学習 IIb | | |
| 9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能) | | | | | |
| 10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能) | | | | | |
| 11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。 | | | | | |
| 12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能) | | | | | |
| 13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能) | | | | | |
| | | | | 薬局実務実習 病院実務実習 | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該当科目 | | | | | |
|--|------|----|----|--------------|----|-------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| | | | | | | |
| 【⑥安全管理】 | | | | | | |
| 1) 前) 処方から服薬 (投薬) までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。 | | | | 実務実習事前学習 I | | |
| 2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品 (抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等) の特徴と注意点を列挙できる。 | | | | | | |
| 3) 前) 代表的なインシデント (ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度) | | | | 実務実習事前学習 IIc | | |
| 4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。 | | | | 実務実習事前学習 I | | |
| 5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能) | | | | 実務実習事前学習 IIa | | |
| 6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。 | | | | 実務実習事前学習 I | | |
| 7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。 | | | | | | |
| 8) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品 (抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等) の安全管理を体験する。(知識・技能・態度) | | | | | | |
| 9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。 | | | | | | |
| 10) 施設内のインシデント (ヒヤリハット)、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度) | | | | | | |
| 11) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度) | | | | | | |
| 12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能) | | | | | | |
| 13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度) | | | | | | |
| 14) 院内での感染対策 (予防・蔓延防止など) について具体的な提案ができる。(知識・態度) | | | | | | |
| (3) 薬物療法の実践 | | | | | | |
| 【①患者情報の把握】 | | | | | | |
| 1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。 | | | | 実務実習事前学習 I | | |
| 2) 前) 患者および種々の情報源 (診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等) から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) 【E3 (2) ①参照】 | | | | 実務実習事前学習 IIa | | |
| 3) 前) 身体所見の観察・測定 (フィジカルアセスメント) の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。 | | | | | | |
| 4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能) | | | | 実務実習事前学習 IIb | | 臨床診療* |
| 5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度) | | | | | | |
| 6) 患者・来局者および種々の情報源 (診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等) から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) | | | | | | |
| 7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度) | | | | | | |
| 【②医薬品情報の収集と活用】 【E3 (1) 参照】 | | | | | | |
| 1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能) | | | | 実務実習事前学習 IIb | | |
| 2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能) | | | | | | |
| 3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能) | | | | | | |
| 4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度) | | | | | | |
| 5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能) | | | | | | |
| 6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度) | | | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該当科目 | | | | | |
|---|------|-----------|----|------------------------------|--------|------------------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【③処方設計と薬物療法の実践 (処方設計と提案)】 | | | | | | |
| 1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。 | | | | 実務実習事前学習 I | | |
| 2) 前) 病態 (肝・腎障害など) や生理的特性 (妊婦・授乳婦、小児、高齢者など) 等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。 | | | | | | |
| 3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。 | | | | | | |
| 4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。 | | | | 実務実習事前学習 IIa 実務実習事前学習 IIb | | |
| 5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。 | | | | 薬剤師業務概論 | | |
| 6) 前) 患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。 | | | | | | |
| 7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。 | | | | 病院薬学 | | |
| 8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。 | | | | | | |
| 9) 患者の状態 (疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等) や薬剤の特徴 (作用機序や製剤的性質等) に基づき、適切な処方提案ができる。 (知識・態度) | | | | | | |
| 10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。 (知識・態度) | | | | | | 薬局実務実習 病院実務実習 |
| 11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。 (知識・態度) | | | | | | |
| 12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。 (知識・態度) | | | | | | |
| 13) 処方提案に際し、医薬品の経済性を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。 | | | | | | |
| 14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。 (知識・態度) | | | | | | |
| 【④処方設計と薬物療法の実践 (薬物療法における効果と副作用の評価)】 | | | | | | |
| 1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。 | | | | 病院薬学 | | |
| 2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。 (知識・技能) | | | | 病院薬学 実務実習事前学習 IIa | 実務実習演習 | |
| 3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。 (知識・技能) | | | | | | |
| 4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。 (知識・態度) | | | | | | |
| 5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の方法を提案できる。 (知識・態度) | | | | | | |
| 6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。 (知識・技能) | | | | | | |
| 7) 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。 | | | | | | |
| 8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。 | | 臨床検査化学 II | | 病院薬学 | | |
| 9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。 | | | | | | |
| 10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。 (知識・態度) | | | | | | |
| 11) 報告に必要な要素 (GWIH) に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。 (技能) | | | | | | |
| 12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記載する。 (知識・技能) | | | | | | |
| 13) 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。 (知識・技能) | | | | | | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs） | 該 当 科 目 | | | | | |
|---|---------|----|----|---------------------|------------------|----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| (4) チーム医療への参画 [A(4)参照] | | | | | | |
| 【①医療機関におけるチーム医療】 | | | | 実務実習事前学習 I | | |
| 1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。 | | | | | | |
| 3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。 | | | | | | |
| 4) 薬物療法上の問題を解決するために、他の薬剤師および医師、看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度) | | | | | | |
| 5) 医師、看護師等の他職種と患者の状態（病状、検査値、アレレルギ歴、心理、生活環境等）、治療開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL等）の情報を共有する。(知識・態度) | | | | | | |
| 6) 医療チームの一員として、医師、看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議（カンファレンスや患者回診への参加等）する。(知識・態度) | | | | | | |
| 7) 医師、看護師等の医療スタッフと連携、協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度) | | | | | 薬局実務実習 病院実務実習 | |
| 8) 医師、看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度) | | | | | | |
| 9) 病院内の多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。(知識・態度) | | | | | | |
| 【②地域におけるチーム医療】 | | | | | | |
| 1) 前) 地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。 | | | | 実務実習事前学習 I | | |
| 2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度) | | | | 実務実習事前学習 II c | | |
| 3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度) | | | | | 薬局実務実習 病院実務実習 | |
| 4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度) | | | | | | |
| (5) 地域の保健・医療・福祉への参画 [B(4)参照] | | | | | | |
| 【①在宅（訪問）医療・介護への参画】 | | | | | | |
| 1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。 | | | | 実務実習事前学習 I | | |
| 2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。 | | | | | | |
| 3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。 | | | | | | |
| 4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。(知識・態度) | | | | | | |
| 5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度) | | | | | 薬局実務実習 病院実務実習 | |
| 6) 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度) | | | | | | |
| 【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】 | | | | | | |
| 1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。 | | | | 実務実習事前学習 I 薬局管理学 | | |
| 2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染予防対策を説明できる。 | | | | 実務実習事前学習 I | | |
| 3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能) | | | | | | |
| 4) 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。(知識・技能) | | | | | 薬局実務実習 病院実務実習 | |

| 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs) | 該当科目 | | | | | |
|--|------|----|----|-------------|---------|-----------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 【③】ブライマリアケ、セルフメディケーションの実践 [E.2 (9) 参照] | | | | 薬剤師業務概論 | | |
| 1) 現在の医療システムの中でのブライマリアケ、セルフメディケーションの重要性を討議する。(態度) | | | | | | |
| 2) 前) 代表的な症候(頭痛・腰痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。(知識・態度) | | | | | | |
| 3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度) | | | | 実務実習事前学習IIa | 実務実習演習 | |
| 4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度) | | | | | | |
| 5) 薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等リスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。(技能・態度) | | | | | | |
| 6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状(疾患、重症度等)や体調を推測できる。(知識・態度) | | | | | | |
| 7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・態度) | | | | | | |
| 8) 選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を来局者に適切に判りやすく説明できる。(知識・態度) | | | | | | |
| 9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度) | | | | | | |
| 【④】災害時医療と薬剤師 | | | | | | |
| 1) 前) 災害時医療について概説できる。 | | | | 実務実習事前学習I | | |
| 2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。 | | | | | | |
| 3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度) | | | | | | |
| g 薬学研究 | | | | | | |
| (1) 薬学における研究の位置づけ | | | | | | |
| 1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。 | | | | | | |
| 2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。 | | | | 総合薬学研究I | 総合薬学研究I | |
| 3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度) | | | | | | |
| 4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度) | | | | | | |
| (2) 研究に必要な法規範と倫理 | | | | | | |
| 1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。 | | | | | | |
| 2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 | | | | 総合薬学研究I | 総合薬学研究I | |
| 3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲 | | | | | | |
| (3) 研究の実践 | | | | | | |
| 1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能) | | | | | | |
| 2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能) | | | | | | |
| 3) 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度) | | | | | | |
| 4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) | | | | | | |
| 5) 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度) | | | | 総合薬学研究I | 総合薬学研究I | 総合薬学研究II* |
| 6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) | | | | | | |

(基礎資料3-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

| 学年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|-------------------------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 入学年度の入学定員 ¹⁾ | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 |
| 入学時の学生数 ²⁾ | 140 | 133 | 126 | 132 | 153 | 136 |
| 在籍学生数 ³⁾ | 149 | 146 | 118 | 134 | 135 | 142 |
| 過年度在籍者数 ⁴⁾ | 留年による者 | 20 | 13 | 20 | 13 | 29 |
| | 休学による者 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 編入学などによる在籍者数 | - | - | - | - | - | - |
| ストレート在籍者数 ⁵⁾ | 140 | 126 | 105 | 114 | 122 | 113 |
| ストレート在籍率 ⁶⁾ | 100% | 95% | 83% | 86% | 80% | 83% |
| 過年度在籍率 ⁷⁾ | 7% | 14% | 11% | 15% | 10% | 20% |
| | (C+D)/B | | | | | |

- 1) 各学年が入学した年度の入学選抜で設定されていた入学定員を記載してください。
- 2) 当該学年が入学した時点での実入学者数を記載してください。
- 3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。
- 4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。
- 5) (在籍学生数) - [(過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数)] を記載してください。
ストレート在籍者数 [B-(C+D+E)]
- 6) (ストレート在籍者数) / (入学時の学生数) の値を%で記載してください。
- 7) (過年度在籍者数) / (在籍学生数) の値を%で記載してください。

(基礎資料3-2) 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別進級状況

| | | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|-----|--------------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1年次 | 在籍者数 ¹⁾ | 168 | 148 | 134 | 142 | 149 |
| | 休学者数 ²⁾ | 0 | 2 | 0 | 1 | 2 |
| | 退学者数 ²⁾ | 8 | 6 | 2 | 2 | 2 |
| | 留年者数 ²⁾ | 16 | 6 | 9 | 8 | 15 |
| | 進級率 ³⁾ | 86% | 91% | 91% | 92% | 87% |
| 2年次 | 在籍者数 ¹⁾ | 139 | 156 | 149 | 133 | 146 |
| | 休学者数 ²⁾ | 0 | 1 | 2 | 2 | 1 |
| | 退学者数 ²⁾ | 5 | 5 | 5 | 6 | 4 |
| | 留年者数 ²⁾ | 12 | 14 | 8 | 13 | 9 |
| | 進級率 ³⁾ | 88% | 87% | 89% | 84% | 90% |
| 3年次 | 在籍者数 ¹⁾ | 132 | 129 | 140 | 140 | 118 |
| | 休学者数 ²⁾ | 2 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| | 退学者数 ²⁾ | 1 | 0 | 0 | 2 | 1 |
| | 留年者数 ²⁾ | 5 | 2 | 6 | 6 | 5 |
| | 進級率 ³⁾ | 94% | 97% | 96% | 94% | 93% |
| 4年次 | 在籍者数 ¹⁾ | 122 | 124 | 125 | 137 | 134 |
| | 休学者数 ²⁾ | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| | 退学者数 ²⁾ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 留年者数 ²⁾ | 0 | 0 | 3 | 1 | 4 |
| | 進級率 ³⁾ | 100% | 100% | 98% | 99% | 97% |
| 5年次 | 在籍者数 ¹⁾ | 126 | 122 | 127 | 123 | 135 |
| | 休学者数 ²⁾ | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | 退学者数 ²⁾ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 留年者数 ²⁾ | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 |
| | 進級率 ³⁾ | 100% | 98% | 99% | 100% | 99% |

- 1) 在籍者数は、当該年の5月1日における1年次から5年次に在籍していた学生数を記載してください。
- 2) 休学者数、退学者数、留年者数については、各年度の年度末に、それぞれの学年から次の学年に進級できなかった学生数を、その理由となった事象に分けて記載してください。
- 3) 進級率は、次式で計算し、%で記入してください。

$$\{(\text{在籍者数}) - (\text{休学者数} + \text{退学者数} + \text{留年者数})\} / \text{在籍者数}$$

(基礎資料3-3) 評価実施年度の直近5年間に於ける学士課程修了(卒業)状況の実態

| | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
|--|--------|--------|--------|--------|--------|
| 卒業判定時(年度末)の在籍学生数 ¹⁾ A | 138 | 126 | 119 | 126 | 123 |
| 学士課程修了(卒業)者数 ¹⁾ B | 115 | 107 | 100 | 107 | 107 |
| 卒業率 ²⁾ B/A | 83% | 85% | 84% | 85% | 87% |
| 卒業までに要した 在学期間別の 内訳 ³⁾ | 6年 C | 103 | 94 | 94 | 103 |
| | 7年 | 9 | 11 | 6 | 4 |
| | 8年 | 2 | 2 | 0 | 0 |
| | 9年以上 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 入学時の学生数(実入学者数) ⁴⁾ D | 140 | 129 | 129 | 136 | 136 |
| ストレート卒業率 ⁵⁾ C/D | 74% | 73% | 73% | 76% | 74% |

1) 当該年度の9月に卒業した学生は、「在籍学生数」(A)にも、「卒業者数」(B)にも含まれません。

なお、卒業者数は、当該年度の卒業判定会議(年度末)における卒業認定者数を記載してください。

2) 卒業率 = (学士課程修了者数) / (6年次の在籍者数) の値 (B/A) を % で記載してください。

3) 「編入者を除いた卒業者数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。

4) それぞれの年度の6年次学生(C)が入学した年度の実入学者数(編入者を除く)を記載してください。

5) ストレート卒業率 = (卒業までに要した在学期間が6年間の学生数) / (入学時の学生数) の値 (C/D) を % で記載してください。

(基礎資料3-4) 直近6年間の定員充足状況と編入学者の動向

| 入学年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 | 平均値 ⁵⁾ |
|---------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------------|
| 入学定員 A | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 | |
| 実入学者数 ¹⁾ B | 136 | 153 | 132 | 126 | 133 | 140 | 137 |
| 入学定員充足率 ²⁾ B/A | 113% | 128% | 110% | 105% | 111% | 117% | 114% |
| 編入学定員 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 編入学者数 ³⁾ C+D+E | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 編入学した学年別の内数 ⁴⁾ | 2年次 C | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 3年次 D | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 4年次 E | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。

2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値を%で記載してください。

3) その年度に受け入れた編入学者(転学部、転学科などを含む)の合計数を記載してください。

4) 編入(転入)学による入学者の受け入れ学年別の内数を記入してください。

5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については%で記入してください。

(基礎資料4) 学生受入れ状況 (入学試験種類別)

| 学科名 | 入試の種類 | 2018年度入試 (2017年度実施) | 2019年度入試 (2018年度実施) | 2020年度入試 (2019年度実施) | 2021年度入試 (2020年度実施) | 2022年度入試 (2021年度実施) | 2023年度入試 (2022年度実施) | 募集定員数に対する 入学者数の比率 (6年間の平均) | |
|------------|------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|----------------------------------|--|
| 薬学部 | 一般選抜 | 受験者数 | 1,035 | 1,111 | 856 | 729 | 719 | 726 | |
| | | 合格者数 | 377 | 388 | 348 | 303 | 289 | 315 | |
| | 共通テスト利用選抜 | 入学者数(A) | 101 | 85 | 87 | 82 | 91 | 77 | |
| | | 募集定員数(B) | 80 | 74 | 74 | 74 | 74 | 74 | |
| | | A/B*100(%) | 126.3% | 114.9% | 117.6% | 110.8% | 123.0% | 104.10% | |
| | | 受験者数 | 236 | 304 | 231 | 232 | 178 | 202 | |
| | 専願推薦選抜 | 合格者数 | 101 | 131 | 129 | 140 | 107 | 79 | |
| | | 入学者数(A) | 3 | 2 | 4 | 6 | 4 | 2 | |
| | | 募集定員数(B) | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | |
| | | A/B*100(%) | 30.0% | 20.0% | 40.0% | 60.0% | 40.0% | 20.00% | |
| 受験者数 | | 100 | 118 | 87 | 74 | 66 | 53 | | |
| 合格者数 | | 50 | 35 | 33 | 40 | 40 | 36 | | |
| 薬学科 | 一般公募制推薦選抜 | 入学者数(A) | 29 | 22 | 18 | 22 | 18 | 20 | |
| | | 募集定員数(B) | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | |
| | A/B*100(%) | 145.0% | 110.0% | 90.0% | 110.0% | 90.0% | 100.00% | | |
| | 受験者数 | 56 | 60 | 60 | 46 | 47 | 47 | | |
| | 合格者数 | 20 | 23 | 17 | 23 | 27 | 25 | | |
| | 入学者数(A) | 20 | 23 | 17 | 23 | 27 | 25 | | |
| | 募集定員数(B) | 10 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | | |
| | A/B*100(%) | 200.0% | 153.3% | 113.3% | 153.3% | 180.0% | 166.70% | | |
| | 学科計 | 受験者数 | 1,427 | 1,593 | 1,234 | 1,081 | 1,010 | 1,028 | |
| | | 合格者数 | 548 | 577 | 527 | 506 | 463 | 455 | |
| 入学者数(A) | | 153 | 132 | 126 | 133 | 140 | 124 | 112.2% | |
| 募集定員数(B) | | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 | | |
| A/B*100(%) | 127.5% | 110.0% | 105.0% | 110.8% | 116.7% | 103.3% | | | |

- [注] 1 入学者数は、実施した入試により**5月1日** (評価対象年度に実施した入試のデータは調書提出時) に新入学者となっている学生数を記入してください。
2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、通算欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合 [A/B*100(%)] を算出してください。
4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
5 各入学 (募集) 定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考) ○年次に」を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料5) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

| 教授 | 准教授 | 専任講師 | 助教 | 合計 | 基準数 ¹⁾ |
|----------------------|-----|------|----|-----|-------------------|
| 18名 | 12名 | 6名 | 4名 | 40名 | 30名 |
| 上記における臨床実務経験を有する者の内数 | | | | | |
| 教授 | 准教授 | 専任講師 | 助教 | 合計 | 必要数 ²⁾ |
| 4名 | 1名 | 1名 | 0名 | 6名 | 5名 |

1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数/別表2は含まない

2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1. 以外の薬学部教員

| 助手 ¹⁾ | 兼任教員 ²⁾ |
|------------------|--------------------|
| 0名 | 0名 |

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者

2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

| TA | SA | その他 ¹⁾ | 合計 |
|----|----|-------------------|----|
| 0名 | 0名 | 0名 | 0名 |

自己点検・評価を実施した年度の実績を記入

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員¹⁾

| 事務職員 | 技能職員 ²⁾ | その他 ³⁾ | 合計 |
|------|--------------------|-------------------|----|
| 2名 | 1名 | 0名 | 3名 |

1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤数は()に内数で記入。複数学部の兼任は含まないこと。)

2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

3) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料6) 専任教員(基礎資料5の表1)の年齢構成

| | 教授 | 准教授 | 専任講師 | 助教 | 合計 | 比率(%) |
|-----|-----|-----|------|----|-----|-------|
| 70代 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | 0名 | 0% |
| 60代 | 5名 | 0名 | 0名 | 0名 | 5名 | 12.5% |
| 50代 | 9名 | 3名 | 1名 | 0名 | 13名 | 32.5% |
| 40代 | 4名 | 9名 | 1名 | 0名 | 14名 | 35.0% |
| 30代 | 0名 | 0名 | 4名 | 3名 | 7名 | 17.5% |
| 20代 | 0名 | 0名 | 0名 | 1名 | 1名 | 2.5% |
| 合計 | 18名 | 12名 | 6名 | 4名 | 40名 | |

専任教員の定年年齢:(65 歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料5の表1)の男女構成

| | 教授 | 准教授 | 専任講師 | 助教 | 合計 | 比率(%) |
|----|-----|-----|------|----|-----|-------|
| 男性 | 16名 | 10名 | 3名 | 2名 | 31名 | 77.5% |
| 女性 | 2名 | 2名 | 3名 | 2名 | 9名 | 22.5% |

(基礎資料 7) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任 年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾ |
|--------------------|------------------|------|----|----|------|-------------|-------------------------|--------------------|----------------------------------|
| 薬学科 | 准教授 | | | | | | 薬学基礎化学 | 3.00 | 0.10 |
| | | | | | | | 薬学基礎化学演習 | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 薬理学 I | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 薬理学 III | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 薬理学 III (再履修) | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 生物医薬化学 II | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 生物医薬化学 II (再履修) | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 総合薬学演習 I / 総合薬学特別演習 | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 総合薬学演習 II / 総合薬学特別演習 | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 薬品製造化学 (6年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 薬学演習 I・II / 薬学特別演習 (前期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 薬化学・生薬学実習 A | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 薬化学・生薬学実習 B | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 生物医薬化学 I | 22.50 | 0.75 |
| | | | | | | | プロセス化学 | 12.00 | 0.40 |
| 生物医薬化学 I (再履修) | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| 薬品製造化学 (5年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 192.00 | 6.40 |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ | | | | | | |
|-------------------|------------------|------|----|----|------|---------|----------------------|--------------------|------------------------------|--|--|--|--|--------|------|
| 薬学科 | 教授 | | | | | | 有機化学Ⅲ | 12.00 | 0.40 | | | | | | |
| | | | | | | | 創薬概論 | 9.00 | 0.30 | | | | | | |
| | | | | | | | 有機化学Ⅲ(再履修) | 12.00 | 0.40 | | | | | | |
| | | | | | | | 薬化学・生薬学実習 A | 33.00 | 1.10 | | | | | | |
| | | | | | | | 薬化学・生薬学実習 B | 33.00 | 1.10 | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(前期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | |
| | | | | | | | 有機化学Ⅱ | 22.50 | 0.75 | | | | | | |
| | | | | | | | 基礎科学英語 | 6.00 | 0.20 | | | | | | |
| | | | | | | | 有機化学Ⅱ(再履修) | 22.50 | 0.75 | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(後期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | |
| | | | | | | | 応用有機化学特論Ⅰ | 22.50 | 0.75 | | | | | | |
| | | | | | | | 医薬分子設計学特論 | 22.50 | 0.75 | | | | | | |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | | | | | | | 159.00 | 5.30 |
| | | | | | | | 薬学科 | 教授 | | | | | | 薬学基礎化学 | 6.00 |
| 薬学基礎化学演習 | 10.50 | 0.35 | | | | | | | | | | | | | |
| 基礎情報処理演習(Aクラス) | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | | | | | | |
| 基礎情報処理演習(Bクラス) | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | | | | | | |
| 医薬品合成化学 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | | | | | | | |
| 総合薬学演習Ⅱ/総合薬学特別演習 | 4.50 | 0.15 | | | | | | | | | | | | | |
| 有機軌道論(6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | | | | | | | |
| 病院実務実習・薬局実務実習(前期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | | | | | | | |
| 有機軌道論(5年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | | | | | | | |
| 総合薬学演習Ⅲ | 3.00 | 0.10 | | | | | | | | | | | | | |
| 医薬品化学実習 A | 33.00 | 1.10 | | | | | | | | | | | | | |
| 医薬品化学実習 B | 33.00 | 1.10 | | | | | | | | | | | | | |
| 病院実務実習・薬局実務実習(後期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | | | | | | | |
| 早期体験学習 | 3.00 | 0.10 | | | | | | | | | | | | | |
| 医薬分子設計学特論 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | | | | | | | |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | 183.00 | 6.10 | | | | | | | |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ | | | | | | | |
|--------------------|------------------|------|----|----|------|---------|-------------------------|--------------------|------------------------------|--|--|--|--|--------|--------|------|
| 薬学科 | 准教授 | | | | | | 有機化学 I | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 基礎情報処理演習 (Aクラス) | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 基礎情報処理演習 (Bクラス) | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬学演習 I・II / 薬学特別演習 (前期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬学演習 I・II / 薬学特別演習 (後期) | 1.50 | 0.05 | | | | | | | |
| | | | | | | | 有機軌道論 (6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 医薬品化学 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 有機軌道論 (5年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 医薬品化学実習 A | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 医薬品化学実習 B | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 151.50 | 5.05 |
| | | | | | | | 薬学科 | 教授 | | | | | | 生薬学 I | 16.50 | 0.55 |
| 生薬学 I (再履修) | 16.50 | 0.55 | | | | | | | | | | | | | | |
| 天然薬物学 (6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | | | | | | | | |
| 薬化学・生薬学実習 A | 33.00 | 1.10 | | | | | | | | | | | | | | |
| 薬化学・生薬学実習 B | 33.00 | 1.10 | | | | | | | | | | | | | | |
| 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | | | | | | | | |
| 分子構造解析学 | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | | | | | | | |
| 分子構造解析学 (再履修) | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | | | | | | | |
| 天然薬物学 (5年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | | | | | | | | |
| 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | | | | | | | | |
| 未病医薬学演習 I | 22.50 | 0.75 | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | | | | | | | | 166.50 | 5.55 | |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ |
|------------------|------------------|----|----|----|------|---------|-------------------------|--------------------|------------------------------|
| 薬学科 | 准教授 | | | | | | 生薬学 I | 7.50 | 0.25 |
| | | | | | | | 天然物化学 | 7.50 | 0.25 |
| | | | | | | | 生薬学 I (再履修) | 7.50 | 0.25 |
| | | | | | | | 日本薬局方概論 | 3.00 | 0.10 |
| | | | | | | | 薬学演習 I・II / 薬学特別演習 (前期) | 3.00 | 0.10 |
| | | | | | | | 総合薬学演習 II / 総合薬学特別演習 | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 天然薬物学 (6年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 薬化学・生薬学実習 A | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 薬化学・生薬学実習 B | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 天然薬物学 (選択必修☆) (5年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 総合薬学演習 III | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | | |
| 薬学科 | 教授 | | | | | | 天然物化学 | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 植物資源学 (6年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 薬化学・生薬学実習 A | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 薬化学・生薬学実習 B | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 生薬学 II | 22.50 | 0.75 |
| | | | | | | | 漢方概論 | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 薬学英語 | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 植物資源学 (5年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 薬学演習 I・II / 薬学特別演習 (前期) | 3.00 | 0.10 |
| | | | | | | | 薬学概論 | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 実用薬学英語 | 3.00 | 0.10 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 未病医薬学演習 I | 22.50 | 0.75 |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 162.00 | 5.40 |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ |
|------------------|------------------|------|----|----|------|---------|----------------------|--------------------|------------------------------|
| 薬学科 | 助教 | | | | | | 薬化学・生薬学実習 A | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 薬化学・生薬学実習 B | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(前期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(後期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 早期体験学習 | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | 76.50 | 2.55 |
| 薬学科 | 教授 | | | | | | 生化学 II | 10.50 | 0.35 |
| | | | | | | | 分子生物学 | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 生命情報科学(6年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 生化学実習 A | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 生化学実習 B | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(前期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 生化学 I | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 生化学 I(再履修) | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 総合薬学演習 I/総合薬学特別演習 | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 生命情報科学(5年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(後期) | 4.50 | 0.15 |
| 授業担当時間の合計 | 135.00 | 4.50 | | | | | | | |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ |
|------------------|------------------|------|----|----|------|---------|----------------------|--------------------|------------------------------|
| 薬学科 | 教授 | | | | | | 解剖学概論 | 10.50 | 0.35 |
| | | | | | | | 薬学基礎生物学 | 22.50 | 0.75 |
| | | | | | | | 生化学Ⅱ | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 薬学演習Ⅰ・Ⅱ／薬学特別演習(前期) | 3.00 | 0.10 |
| | | | | | | | 総合薬学演習Ⅱ／総合薬学特別演習 | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 薬学概論 | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 解剖学概論(再履修) | 10.50 | 0.35 |
| | | | | | | | 生化学実習 A | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 生化学実習 B | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(前期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 生化学Ⅰ | 10.50 | 0.35 |
| | | | | | | | 生化学Ⅰ(再履修) | 10.50 | 0.35 |
| | | | | | | | 基礎免疫学 | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 基礎免疫学(再履修) | 12.00 | 0.40 |
| 薬学科 | 講師 | | | | | | 総合薬学演習Ⅰ／総合薬学特別演習 | 3.00 | 0.10 |
| | | | | | | | 総合薬学演習Ⅲ | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(後期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 未病医薬学演習Ⅲ | 22.50 | 0.75 |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | 193.50 | 6.45 |
| | | | | | | | 生化学実習 A | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 生化学実習 B | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(前期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 早期体験学習 | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(後期) | 4.50 | 0.15 |
| 創薬概論 | 3.00 | 0.10 | | | | | | | |
| 授業担当時間の合計 | 76.50 | 2.55 | | | | | | | |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ |
|------------------|------------------|----|----|----|------|---------|-------------------------|--------------------|------------------------------|
| 薬学科 | 教授 | | | | | | 薬理学 I | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 薬理学 III | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 薬理学 III (再履修) | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 応用薬理学 | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 医用生理学 (6年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 薬理学 II | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 薬学演習 I・II / 薬学特別演習 (後期) | 3.00 | 0.10 |
| | | | | | | | 医用生理学 (5年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 臨床薬理学 III | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 |
| 薬学科 | 講師 | | | | | | 薬理学 I | 9.00 | 0.30 |
| | | | | | | | 薬理学 III | 9.00 | 0.30 |
| | | | | | | | 薬理学 III (再履修) | 9.00 | 0.30 |
| | | | | | | | 総合薬学演習 II / 総合薬学特別演習 | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 基礎科学英語 | 3.00 | 0.10 |
| | | | | | | | 総合薬学演習 III | 3.00 | 0.10 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 薬理学実習 A | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 薬理学実習 B | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 化学反応工学特論 I B | 22.50 | 0.75 |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 174.00 | 5.80 |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 112.50 | 3.75 |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ | | | | | | | |
|------------------|------------------|----|----|----|------|---------|----------------------|--------------------|------------------------------|--|--|--|--|--|--------|------|
| 薬学科 | 教授 | | | | | | 微生物学 II | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 微生物学 II (再履修) | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 化学療法学 (6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 微生物学実習 A | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 微生物学実習 B | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 微生物学 I | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 未病治療学 | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 未病治療学 (再履修) | 10.50 | 0.35 | | | | | | | |
| | | | | | | | 総合薬学演習 I / 総合薬学特別演習 | 3.00 | 0.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 化学療法学 (5年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 環境保健学特論 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 未病医薬学演習 I | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 214.50 | 7.15 | | | | | | | |
| 薬学科 | 准教授 | | | | | | 細胞生物学 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 細胞生物学 (再履修) | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 化学療法学 (6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 微生物学実習 A | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 微生物学実習 B | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 微生物学 I | 10.50 | 0.35 | | | | | | | |
| | | | | | | | バイオ医薬品学 | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 化学療法学 (5年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 未病医薬学演習 I | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 177.00 | 5.90 |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ |
|------------------|------------------|------|----|----|------|---------|----------------------|--------------------|------------------------------|
| 薬学科 | 講師 | | | | | | 微生物学実習 A | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 微生物学実習 B | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(前期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 化学療法学(6年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 化学療法学(5年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 総合薬学演習Ⅱ/総合薬学特別演習 | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(後期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 早期体験学習 | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 薬理学実習 A | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 薬理学実習 B | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | | |
| 薬学科 | 教授 | | | | | | 細胞生化学Ⅱ | 22.50 | 0.75 |
| | | | | | | | 細胞生化学Ⅱ(再履修) | 22.50 | 0.75 |
| | | | | | | | 総合薬学演習Ⅱ・総合薬学特別演習 | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 分子薬効解析学(6年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 薬学概論 | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(前期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 薬理学Ⅳ | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 分子薬効解析学(5年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(後期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 薬理学実習 A | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 薬理学実習 B | 33.00 | 1.10 |
| 機能性高分子化学特論Ⅰ | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| 未病医療学演習Ⅱ | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 195.00 | 6.50 |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ | | | | | | | |
|-------------------------|------------------|-------|------|----|------|---------|----------------------|--------------------|------------------------------|------|--|--|--|----------|--------|------|
| 薬学科 | 准教授 | | | | | | 分子薬効解析学 (6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | ◎ | 4.50 | 0.15 | | | | | | |
| | | | | | | | 細胞生化学 I | | 22.50 | 0.75 | | | | | | |
| | | | | | | | 総合薬学演習 I / 総合薬学特別演習 | | 3.00 | 0.10 | | | | | | |
| | | | | | | | 分子薬効解析学 (5年) | | 6.00 | 0.20 | | | | | | |
| | | | | | | | 細胞生化学 I (再履修) | | 22.50 | 0.75 | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | ◎ | 4.50 | 0.15 | | | | | | |
| | | | | | | | 薬理学実習 A | ◎ | 33.00 | 1.10 | | | | | | |
| | | | | | | | 薬理学実習 B | ◎ | 33.00 | 1.10 | | | | | | |
| | | | | | | | 早期体験学習 | ◎ | 3.00 | 0.10 | | | | | | |
| | | | | | | | 未病医療学演習 II | 院 | 22.50 | 0.75 | | | | | | |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 160.50 | 5.35 |
| | | | | | | | 薬学科 | 教授 | | | | | | 薬学基礎化学演習 | 3.00 | 0.10 |
| 衛生薬学 III | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | | | | | | | |
| 薬学演習 I・II / 薬学特別演習 (前期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | | | | | | | | |
| 環境薬学 (6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | | | | | | | | |
| 総合薬学演習 II・総合薬学特別演習 | 4.50 | 0.15 | | | | | | | | | | | | | | |
| 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | ◎ | 4.50 | 0.15 | | | | | | | | | | | | | |
| 公衆衛生学 | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | | | | | | | |
| 薬学演習 I・II / 薬学特別演習 (後期) | | 1.50 | 0.05 | | | | | | | | | | | | | |
| 環境薬学 (5年) | | 6.00 | 0.20 | | | | | | | | | | | | | |
| 総合薬学演習 III | | 3.00 | 0.10 | | | | | | | | | | | | | |
| 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | ◎ | 4.50 | 0.15 | | | | | | | | | | | | | |
| 衛生化学実習 A | ◎ | 33.00 | 1.10 | | | | | | | | | | | | | |
| 衛生化学実習 B | ◎ | 33.00 | 1.10 | | | | | | | | | | | | | |
| 化学反応工学特論 II B | 院 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | | | | | | | |
| 環境保健学特論 | 院 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | | | | | | | |
| 未病医療学演習 III | 院 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | | | | | | | |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 195.00 | 6.50 | | | | | | | |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ | | |
|--------------------|------------------|-------|------|----|------|---------|----------------------|--------------------|------------------------------|--------|------|
| 薬学科 | 講師 | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(前期) | ◎ | 4.50 | 0.15 | |
| | | | | | | | 基礎科学英語 | | 3.00 | 0.10 | |
| | | | | | | | 環境衛生化学 | | 22.50 | 0.75 | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(後期) | ◎ | 4.50 | 0.15 | |
| | | | | | | | 衛生化学実習 A | ◎ | 33.00 | 1.10 | |
| | | | | | | | 衛生化学実習 B | ◎ | 33.00 | 1.10 | |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | | | 100.50 | 3.35 |
| | | | | | | | 薬学科 | 教授 | | | |
| 衛生薬学Ⅱ | | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | |
| 衛生薬学Ⅱ(再履修) | | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | |
| 総合薬学演習Ⅱ/総合薬学特別演習 | | 4.50 | 0.15 | | | | | | | | |
| 環境分析学(6年) | | 6.00 | 0.20 | | | | | | | | |
| 病院実務実習・薬局実務実習(前期) | ◎ | 4.50 | 0.15 | | | | | | | | |
| 衛生薬学Ⅰ | | 22.50 | 0.75 | | | | | | | | |
| 放射薬品学 | | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | |
| 衛生薬学Ⅰ(再履修) | | 22.50 | 0.75 | | | | | | | | |
| 薬学英語 | | 4.50 | 0.15 | | | | | | | | |
| 環境分析学(5年) | | 6.00 | 0.20 | | | | | | | | |
| 薬学演習Ⅰ・Ⅱ/薬学特別演習(後期) | | 3.00 | 0.10 | | | | | | | | |
| 実用薬学英語 | | 4.50 | 0.15 | | | | | | | | |
| 薬学科 | 教授 | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(後期) | ◎ | 4.50 | 0.15 | |
| | | | | | | | 衛生化学実習 A | ◎ | 33.00 | 1.10 | |
| | | | | | | | 衛生化学実習 B | ◎ | 33.00 | 1.10 | |
| | | | | | | | 分子イメージング | 院 | 22.50 | 0.75 | |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | | | 208.50 | 6.95 |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任 年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した 週当り授業時間 ⁵⁾ |
|-------------------------|------------------|------|----|----|------|-------------|----------------------|--------------------|----------------------------------|
| 薬学科 | 准教授 | | | | | | 環境分析学 (6年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 衛生薬学 II | 10.50 | 0.35 |
| | | | | | | | 衛生薬学 II (再履修) | 10.50 | 0.35 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 環境分析学 (5年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | 衛生化学実習 A | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 衛生化学実習 B | 33.00 | 1.10 |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | 108.00 | 3.60 |
| | | | | | | | 薬学科 | 教授 | |
| 薬学基礎化学演習 | 9.00 | 0.30 | | | | | | | |
| 物理化学 II | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| 物理化学 II (再履修) | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| 総合薬学演習 II / 総合薬学特別演習 | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| 立体構造解析学 (6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| 薬学演習 I・II / 薬学特別演習 (前期) | 3.00 | 0.10 | | | | | | | |
| 分析・物理化学実習 A | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| 分析・物理化学実習 B | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| 物理化学 I | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| 物理化学 III | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| 物理化学 I (再履修) | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| 物理化学 III (再履修) | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| 立体構造解析学 (5年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| 分子イメージング | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| 授業担当時間の合計 | 267.00 | 8.90 | | | | | | | |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ | | | | | | | |
|------------------|------------------|----|----|----|------|---------|-------------------------|--------------------|------------------------------|--|--|--|--|--|--------|------|
| 薬学科 | 准教授 | | | | | | 分析化学 II | 10.50 | 0.35 | | | | | | | |
| | | | | | | | 分析化学 II (再履修) | 10.50 | 0.35 | | | | | | | |
| | | | | | | | 総合薬学演習 II / 総合薬学特別演習 | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 生体分析科学 (6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 日本薬局方概論 | 3.00 | 0.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 分析・物理化学実習 A | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 分析・物理化学実習 B | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 機器分析学 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 生体分析科学 (5年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 総合薬学演習 III | 3.00 | 0.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 分析化学 I | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 分析化学 I (再履修) | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 186.00 | 6.20 | | | | | | | |
| 薬学科 | 助教 | | | | | | 分析・物理化学実習 A | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 分析・物理化学実習 B | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 生体分析科学 (6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬学演習 I・II / 薬学特別演習 (前期) | 3.00 | 0.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬学基礎化学演習 | 3.00 | 0.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 分析化学 II | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 分析化学 II (再履修) | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 生体分析科学 (5年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 早期体験学習 | 1.50 | 0.05 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 118.50 | 3.95 |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ |
|------------------|------------------|------|----|----|------|---------|-------------------------|--------------------|------------------------------|
| 薬学科 | 教授 (実務) | | | | | | 薬学概論 | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 薬物動態学 I | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 薬物動態学 I (再履修) | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 薬物投与設計学 | 22.50 | 0.75 |
| | | | | | | | 薬物投与設計学 (再履修) | 22.50 | 0.75 |
| | | | | | | | 薬事関連法規 | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 日本薬局方概論 | 3.00 | 0.10 |
| | | | | | | | 薬物動態システム学 (6年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 9.00 | 0.30 |
| | | | | | | | 薬学演習 I・II / 薬学特別演習 (後期) | 3.00 | 0.10 |
| | | | | | | | 薬物動態システム学 (5年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 応用社会学 | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 9.00 | 0.30 |
| | | | | | | | 早期体験学習 | 1.50 | 0.05 |
| 製剤・薬剤学実習 A | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| 製剤・薬剤学実習 B | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| 薬物治療設計学演習 I | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| 薬物動態制御学特論 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 226.50 | 7.55 |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ | | | | | | | |
|------------------|------------------|------|----|----|------|---------|----------------------|--------------------|------------------------------|--|--|--|--|--|-------|------|
| 薬学科 | 准教授 | | | | | | 薬物動態学 I | 10.50 | 0.35 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬物動態学 I (再履修) | 10.50 | | | | | | | | |
| | | | | | | | 総合薬学演習 II / 総合薬学特別演習 | 3.00 | 0.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬物動態システム学 (6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬物動態学 II | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬学英語 | 3.00 | 0.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬物動態学 II (再履修) | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬物動態システム学 (5年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 実用薬学英語 | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 製剤・薬剤学実習 A | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 製剤・薬剤学実習 B | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 早期体験学習 | 1.50 | 0.05 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬物動態制御学特論 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| 薬物治療設計学演習 I | 22.50 | 0.75 | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 210.00 | 6.65 | | | | | | | |
| 薬学科 | 講師 | | | | | | 薬学基礎化学演習 | 3.00 | 0.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 総合薬学演習 II / 総合薬学特別演習 | 1.50 | 0.05 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 早期体験学習 | 1.50 | 0.05 | | | | | | | |
| | | | | | | | 製剤・薬剤学実習 A | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 製剤・薬剤学実習 B | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 81.00 | 2.70 |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ | | | | | | | |
|------------------|------------------|----|----|----|------|---------|-------------------------|--------------------|------------------------------|--|--|--|--|--|--------|------|
| 薬学科 | 教授 | | | | | | 製剤学 I | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 日本薬局方概論 | 3.00 | 0.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 製剤設計学 (6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 製剤学 II | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 製剤設計学 | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬学演習 I・II / 薬学特別演習 (後期) | 3.00 | 0.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 総合薬学演習 III | 3.00 | 0.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 早期体験学習 | 1.50 | 0.05 | | | | | | | |
| | | | | | | | 製剤・製剤学実習 A | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 製剤・製剤学実習 B | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 応用無機化学特論 II | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | DDS特論 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬物治療設計学演習 I | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 199.50 | 6.65 | | | | | | | |
| 薬学科 | 准教授 | | | | | | 製剤設計学 (6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 製剤学 II | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 製剤設計学 (5年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 4.50 | 0.15 | | | | | | | |
| | | | | | | | 早期体験学習 | 1.50 | 0.05 | | | | | | | |
| | | | | | | | 製剤・製剤学実習 A | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 製剤・製剤学実習 B | 33.00 | 1.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 機能性高分子化学特論 II | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | DDS特論 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬物治療設計学演習 I | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 178.50 | 5.95 |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ |
|------------------|------------------|----|----|----|------|---------|-------------------------|--------------------|------------------------------|
| 薬学科 | 教授 (実務) | | | | | | 臨床検査化学 I | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 臨床薬理学 I | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 実務実習演習 | 13.50 | 0.45 |
| | | | | | | | 医療薬剤学 (6年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 9.00 | 0.30 |
| | | | | | | | 臨床検査化学 II | 12.00 | 0.40 |
| | | | | | | | 臨床薬理学 II | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 医療薬剤学 (5年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 薬学演習 I・II / 薬学特別演習 (後期) | 3.00 | 0.10 |
| | | | | | | | 総合薬学演習 III | 3.00 | 0.10 |
| | | | | | | | 医療経済論 | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 早期体験学習 | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 実務実習事前学習 II | 67.50 | 2.25 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 9.00 | 0.30 |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 166.50 | 5.55 |
| 薬学科 | 助教 | | | | | | 実務実習演習 | 13.50 | 0.45 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 9.00 | 0.30 |
| | | | | | | | 医療経済論 | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 医療薬剤学 | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 9.00 | 0.30 |
| | | | | | | | 早期体験学習 | 1.50 | 0.05 |
| | | | | | | | 実務実習事前学習 II | 54.00 | 1.80 |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | | |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ | | | | | | | |
|-------------------------|------------------|------|----|----|------|---------|----------------------|--------------------|------------------------------|--|--|--|--|------------|--------|------|
| 薬学科 | 教授 (実務) | | | | | | 実務実習事前学習 I | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 実務実習演習 | 16.50 | 0.55 | | | | | | | |
| | | | | | | | 臨床薬学 (6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 医薬品安全性学 I | 9.00 | 0.30 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬学概論 | 1.50 | 0.05 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 9.00 | 0.30 | | | | | | | |
| | | | | | | | 臨床薬学 (5年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院薬学 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 医薬品安全性学 II | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 早期体験学習 | 3.00 | 0.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 実務実習事前学習 II | 67.50 | 2.25 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 9.00 | 0.30 | | | | | | | |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 184.50 | 6.15 |
| | | | | | | | 薬学科 | 准教授 (実務) | | | | | | コミュニケーション論 | 6.00 | 0.20 |
| 生命倫理学 | 4.50 | 0.15 | | | | | | | | | | | | | | |
| 薬剤師業務概論 | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務実習演習 | 13.50 | 0.45 | | | | | | | | | | | | | | |
| 臨床薬学 (6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | | | | | | | | |
| 医薬品安全性学 I | 9.00 | 0.30 | | | | | | | | | | | | | | |
| 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 9.00 | 0.30 | | | | | | | | | | | | | | |
| 薬学演習 I・II / 薬学特別演習 (後期) | 3.00 | 0.10 | | | | | | | | | | | | | | |
| 総合薬学演習 III | 3.00 | 0.10 | | | | | | | | | | | | | | |
| 臨床薬学 (5年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | | | | | | | | |
| 医薬品安全性学 II | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | | | | | | | |
| 早期体験学習 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務実習事前学習 II | 67.50 | 2.25 | | | | | | | | | | | | | | |
| 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 9.00 | 0.30 | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 183.00 | 6.10 | | | | | | | |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ | | | | | | | |
|----------------------|------------------|------|----|----|------|---------|----------------------|--------------------|------------------------------|--|--|--|--|-------|--------|------|
| 薬学科 | 講師 (実務) | | | | | | 基礎情報処理演習 (Aクラス) | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 基礎情報処理演習 (Bクラス) | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 実務実習演習 | 13.50 | 0.45 | | | | | | | |
| | | | | | | | 臨床薬学 (6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 9.00 | 0.30 | | | | | | | |
| | | | | | | | 医薬品安全性学 I | 10.50 | 0.35 | | | | | | | |
| | | | | | | | 医薬品安全性学 II | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 感染症予防学 | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 臨床薬学 (5年) | 3.00 | 0.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 9.00 | 0.30 | | | | | | | |
| | | | | | | | 早期体験学習 | 1.50 | 0.05 | | | | | | | |
| | | | | | | | 実務実習事前学習 II | 67.50 | 2.25 | | | | | | | |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 168.00 | 5.60 |
| | | | | | | | 薬学科 | 教授 | | | | | | 解剖学概論 | 12.00 | 0.40 |
| 解剖学概論 (再履修) | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | | | | | | | |
| 総合薬学演習 II / 総合薬学特別演習 | 4.50 | 0.15 | | | | | | | | | | | | | | |
| 臨床診療学 | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | | | | | | | |
| 病院実務実習・薬局実務実習 (前期) | 9.00 | 0.30 | | | | | | | | | | | | | | |
| 機能形態学 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | | | | | | | | |
| 機能形態学 (再履修) | 22.50 | 0.75 | | | | | | | | | | | | | | |
| 医学英語 (6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | | | | | | | | |
| 臨床病態学 | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | | | | | | | |
| 臨床薬理学 III | 7.50 | 0.25 | | | | | | | | | | | | | | |
| 臨床検査化学 III | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | | | | | | | |
| 臨床検査化学 III (再履修) | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | | | | | | | |
| 医学英語 (5年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | | | | | | | | |
| 救急救命医学 | 12.00 | 0.40 | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務実習事前学習 II | 54.00 | 1.80 | | | | | | | | | | | | | | |
| 病院実務実習・薬局実務実習 (後期) | 9.00 | 0.30 | | | | | | | | | | | | | | |
| 早期体験学習 | 1.50 | 0.05 | | | | | | | | | | | | | | |
| 薬物治療学特論 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | | | | | | | | |
| 臨床薬学演習 I | 22.50 | 0.75 | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | | 271.50 | 9.05 | | | | | | | |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ | | | | | | | |
|--------------------|------------------|------|----|----|------|---------|----------------------|--------------------|------------------------------|--|--|--|--|-------------------|-------|------|
| 薬学科 | 准教授 | | | | | | 医療統計処理学 | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬物治療学Ⅰ | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(前期) | 9.00 | 0.30 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬物治療学Ⅱ | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 医薬倫理学 | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 医学英語(6年) | 6.00 | 0.20 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬物治療学Ⅱ(再履修) | 12.00 | 0.40 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(後期) | 9.00 | 0.30 | | | | | | | |
| | | | | | | | 実務実習事前学習Ⅱ | 54.00 | 1.80 | | | | | | | |
| | | | | | | | 早期体験学習 | 1.50 | 0.05 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬物治療学特論 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 臨床薬学演習Ⅰ | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 授業担当時間の合計 | 195.00 | 6.50 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬学科 | 助教 | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(前期) | 9.00 | 0.30 |
| 病院実務実習・薬局実務実習(後期) | 9.00 | 0.30 | | | | | | | | | | | | | | |
| 早期体験学習 | 22.50 | 0.75 | | | | | | | | | | | | | | |
| 実務実習事前学習Ⅱ | 54.00 | 1.80 | | | | | | | | | | | | | | |
| 薬学演習Ⅰ・Ⅱ/薬学特別演習(後期) | 3.00 | 0.10 | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業担当時間の合計 | 94.50 | 3.15 | | | | | | | | | | | | | | |
| 薬学科 | 教授(実務) | | | | | | | | | | | | | 生命倫理学 | 9.00 | 0.30 |
| | | | | | | | | | | | | | | コミュニケーション論 | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | | | | | | | | 臨床薬理学Ⅱ | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | | | | | | | | 実務実習演習 | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | | | | | | | | 総合薬学演習Ⅱ/総合薬学特別演習 | 4.50 | 0.15 |
| | | | | | | | | | | | | | | 医薬品情報学(6年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(前期) | 22.50 | 0.75 |
| | | | | | | | | | | | | | | 医薬品情報学(5年) | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 臨床薬理学Ⅰ | 10.50 | 0.35 | | | | | | | |
| | | | | | | | 薬学演習Ⅰ・Ⅱ/薬学特別演習(後期) | 3.00 | 0.10 | | | | | | | |
| | | | | | | | 早期体験学習 | 1.50 | 0.05 | | | | | | | |
| | | | | | | | 実務実習事前学習Ⅱ | 54.00 | 1.80 | | | | | | | |
| | | | | | | | 病院実務実習・薬局実務実習(後期) | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| | | | | | | | 臨床薬学演習Ⅲ | 22.50 | 0.75 | | | | | | | |
| 授業担当時間の合計 | 180.00 | 6.00 | | | | | | | | | | | | | | |

| 学科 ¹⁾ | 職名 ²⁾ | 氏名 | 年齢 | 性別 | 学位称号 | 現職就任年月日 | 授業担当科目 ³⁾ | 授業時間 ⁴⁾ | 年間で平均した週当り授業時間 ⁵⁾ |
|------------------|------------------|----|----|----|------|---------|----------------------|--------------------|------------------------------|
| 薬学科 | 准教授 | | | | | | 薬事関連法規 | 10.50 | 0.35 |
| | | | | | | | 総合薬学演習 | 18.00 | 0.60 |
| | | | | | | | 薬学演習Ⅰ・Ⅱ／薬学特別演習(後期) | 3.00 | 0.10 |
| | | | | | | | 応用社会学 | 6.00 | 0.20 |
| | | | | | | | 臨床薬理学Ⅲ | 3.00 | 0.10 |
| 授業担当時間の合計 | | | | | | | 40.50 | 1.35 | |

- 1) 薬学科(6年制)専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は(兼任学科名)を付記してください。
- 2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に(実務)と付記してください。
- 3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目(兼任学科・兼任学科の科目、大学院の授業科目も含む)を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を、大学院科目は「院」の字を記入してください。
- 4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間(実働時間)の時間数を、以下に従ってご記入ください(小数点以下2桁まで)。
※講義科目は時間割から計算される実際の時間数(1コマ90分の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間)を記入します。
※履任教員で分担している場合は授業回数分同一科目を反復開講している場合は授業時間数に反復回数数を乗じます。
※実習科目では、同一科目を複数教員(例えば、教授1名と助教、助手2名)が担当している場合も、常時共同で指導している場合は分担当としません。
- 5) 「年間で平均した週当り授業時間」には、総授業時間を「30」(授業が実施される1年間の基準週数)で除した値を記入してください。
開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。
- 6) 基礎資料7に記載の氏名・年齢・性別・学位称号・現職就任年月日は、個人情報保護の観点から、公表時には黒塗りにして当機構WEBページに掲載いたします。
評価用の基礎資料とは別に、該当箇所(項目名以外)を黒塗りした基礎資料7を含む、基礎資料全体のPDFファイルをご提出ください。

(基礎資料 8) 卒業研究の学生配属状況および研究室の広さ

4 年生の在籍学生数 134 名
 5 年生の在籍学生数 135 名
 6 年生の在籍学生数 123 名

| | 配属講座など | 指導教員数 | 4年生 配属学生数 | 5年生 配属学生数 | 6年生 配属学生数 | 合計 | 卒業研究を実施す る研究室の面積 (㎡) |
|----|----------------|-------|--------------|--------------|--------------|-----|----------------------------|
| 1 | 薬化学 (P424) | 2 | 7 | 8 | 6 | 21 | 42.8 |
| 2 | 医薬品化学 (P423) | 2 | 8 | 7 | 7 | 22 | 39.2 |
| 3 | 生薬学 (P436) | 2 | 8 | 7 | 7 | 22 | 39.2 |
| 4 | 植物園 (P442) | 2 | 4 | 3 | 3 | 10 | 39.2 |
| 5 | 生化学 (P334) | 3 | 9 | 9 | 9 | 27 | 39.2 |
| 6 | 薬理学 (P236) | 2 | 8 | 7 | 7 | 22 | 39.2 |
| 7 | 微生物学 (P323) | 3 | 9 | 9 | 9 | 27 | 39.2 |
| 8 | 分子薬効解析学 (P235) | 2 | 8 | 8 | 6 | 22 | 39.2 |
| 9 | 衛生化学 (P434) | 2 | 8 | 7 | 7 | 22 | 39.2 |
| 10 | 環境分析学 (P435) | 2 | 8 | 8 | 5 | 21 | 39.2 |
| 11 | 物理化学 (P324) | 1 | 3 | 8 | 7 | 18 | 42.8 |
| 12 | 分析化学 (P336) | 2 | 8 | 8 | 9 | 25 | 39.2 |
| 13 | 薬物動態学 (P224) | 3 | 9 | 10 | 9 | 28 | 42.8 |
| 14 | 製剤学 (P315) | 2 | 8 | 8 | 5 | 21 | 39.2 |
| 15 | 臨床薬学 (P223) | 3 | 9 | 9 | 9 | 27 | 39.2 |
| 16 | 医療薬剤学 (P335) | 2 | 8 | 7 | 6 | 21 | 39.2 |
| 17 | 薬物治療学 (P234) | 3 | 9 | 9 | 9 | 27 | 39.2 |
| 18 | 薬情報報解析学 (P211) | 1 | 3 | 3 | 3 | 9 | 45.0 |
| | 合 計 | 39 | 134 | 135 | 123 | 392 | |

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。
 4 隣接する複数の講座などで共有して使用する実験室などは、基礎資料11-2に記載してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|------|-----------|---|
| 大学名 | 崇城大学 | 講座名 | 薬化学研究室 |
| 職名 | 教授 | 氏名 | 井本修平 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・板書による構造式や巻矢印による反応機構の提示 (有機化学Ⅱ・Ⅲ) | | 2010年10月～ | <p>試験においては構造式を書かせる問題を出題するため、講義での説明の際は構造式はパワーポイントで提示せず、板書を徹底している。順を追って構造式や巻矢印を書くことで、学生が真似をしてノートへ書き写ししやすいように工夫している。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・反転授業の実践 (有機化学Ⅱ・Ⅲ) | | 2020年4月～ | <p>新型コロナウイルスの感染拡大を機に、講義を反転授業へと切り替えた。従来は対面講義で行っていた教科書解説を、オンデマンド動画として収録することで、学生が自分のペースで、かつ何度でも視聴して学習できるようにした。学生は本動画を対面講義までに視聴し、対面講義では演習を中心に進めた。本方式に切り替えた後の授業アンケートでは、講義満足度の平均値は4.50(5点満点)であり、大変好評であった。</p> |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・要点プリント (有機化学Ⅱ・Ⅲ) | | 2010年10月～ | <p>学生が「教科書を読んで理解できる」ための補助となるようなプリントを、各講義1回につきA4用紙1枚以内でまとめたプリントを作成し配布している。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンド講義動画 (有機化学Ⅱ・Ⅲ) | | 2020年4月～ | <p>反転授業用の講義動画を作成した。書画カメラを用いて分子模型を組み立てることで臨場感を出し、学生が実際に自分で模型を組み立てる際に参考にしやすいように工夫した。</p> |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ベストティーチング賞受賞の授業について (令和3年度 第1回FD講演会) | | 2021年9月 | <p>有機化学Ⅱ・Ⅲで実践している反転授業の詳細について、学内のFD講演会にて発表を行った。</p> |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| なし | | | |
| II 研究活動 | | | |

| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月（西暦） | 発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称 |
|--|------------|----------------|--|
| （論文） Novel nitric oxide donor, nitrated phenylbutyrate, induces cell death of human pancreatic cancer cells and suppresses tumor growth of cancer xenografts | 共著 | 2022年8月 | Oncology Reports, 48(4) |
| （紀要） 令和2年度ベストティーチング賞受賞教員の授業について—更なる授業改善を目指して（第5報）— | 共著 | 2022年1月 | 崇城大学紀要, 47, 97-111頁 |
| （論文） Design and Synthesis of 4'-Cyano Dideoxy Isonucleosides and Their Activity against HIV-1 and HBV | 共著 | 2020年1月 | Heterocycles, 100(10), pp. 1599-1612 |
| （論文） Synthesis and evaluation of the anti-hepatitis B virus activity of 4'-Azido-thymidine analogs and 4'-Azido-2'-deoxy-5-methylcytidine analogs: structural insights for the development of a novel anti-HBV agent | 共著 | 2019年9月 | Nucleosides, Nucleotides and Nucleic Acids, 39(4), pp. 518-529 |
| （論文） Synthesis of 4'-Substituted Purine 2'-Deoxynucleosides and Their Activity against Human Immunodeficiency Virus Type 1 and Hepatitis B Virus | 共著 | 2018年3月 | ChemistrySelect, 3(11), pp. 3313-3317 |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| （演題名） 酸性環境応答性アルブミン結合型抗がん剤放出性と抗腫瘍効果 | | 2022年6月 | 第38回日本DDS学会学術集会 |
| （演題名） 酸応答性プロドラッグ置換基としてのメトキシトリチル基の有用性評価 | | 2022年5月 | 日本薬学会第37年会 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| ～現在 | 日本薬学会会員 | | |
| ～現在 | 日本化学会会員 | | |
| ～現在 | 有機合成化学協会会員 | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|---------------------|---|---------------------------------|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 薬化学研究室 | 職名 准教授 | 氏名 寒水 壽朗 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| 担当科目:生物医薬化学2(4年:1単位:8回) | 2022/04~07 | 授業内容の理解度確認のため毎回小テストを実施, 次回講義で解説(躓き, 誤認等を含む) | |
| 担当科目:生物医薬化学1(3年:2単位:15回) | 2022/10~ 2023/03 | 授業内容の理解度確認のため毎回小テストを実施, 次回講義で解説(躓き, 誤認等を含む)。小テスト不振者には, ONLINE補講を開講。 | |
| 担当科目:薬化学・生薬学実習(3年:1単位:8回) | 2022/06~07 | 毎時間前回内容の振り返りを行い, 学生からの質問を受け付ける。 | |
| 担当科目:プロセス化学(5年:1単位:8回) | 2022/12~ 2023/03 | 授業内容の理解度確認のため毎回小テストを実施, 次回講義で解説(躓き, 誤認等を含む)□ | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| 担当科目:生物医薬化学2(4年:1単位:8回) | 2022/04~07 | 講義用サブ資料集 講義レジメ集 小テスト解説動画 | |
| 担当科目:生物医薬化学1(3年:2単位:15回) | 2022/10~ 2023/03 | 講義用サブ資料集 講義レジメ集 小テスト解説動画 | |
| 担当科目:薬化学・生薬学実習(3年:1単位:8回) | 2022/06~07 | Web版実習書(実験の手引き) | |
| 担当科目:プロセス化学(5年:1単位:8回) | 2022/12~ 2023/03 | Web版講義レジメ集 小テスト解説動画 | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | 学内FD講演会に出席。 | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行または発表の 年月(西暦) | 発行所、発表雑誌 (巻・号 数)等の名称 |
| The Compatibility of Groups Used to Protect Phenolic Functionality during Oxone-Mediated Oxidative Esterification | 共著 | 2022, 12, (p. 83-90) | Green and Sustainable Chemistry |
| 2. 学会発表(評価対象年度のみ) | | 発表年・月 | 学会名 |
| なし | | | |

| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 薬学教育協議会担当者教員会議 （有機化学 世話人） | 2018～2020年 2018年 実施責任者 |
| 薬学教育協議会担当者教員会議 （有機化学 世話人） | 2021年 『崇城大学での有機化学関連講義について』 講演 |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|--|---|----------------------|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 医薬品化学研究室 | 教授 | 杉浦 正晴 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 基礎情報処理演習、薬学基礎化学演習（1年生基礎科目） ・基礎情報処理演習でWordやExcelの具体的な利用法を演習し、薬学基礎化学演習での実験レポート作成につなげている。 医薬品合成化学（3年生専門科目） ・一冊のノート形式にした講義資料を出版センターで作成している。 ・板書の代わりに、書画カメラを利用して化学構造式や電子の流れを実際に描いて見せている。 | 2020年4月～ 2018年4月～ | ・汎用的なソフトウェアの実践的な利用ができるようになることを目指して、2つの演習科目を関連付けている。 ・学生自身で多くの化学構造式や電子の流れを書き込んでこの資料を完成させることを通して、体系化された学問での位置付けを明確にし、達成感を得てもらう工夫をしている。 ・実際に描き方を見せて、学生にも書かせることで、有機化学における科学的思考力を実践的に訓練している。また、書き込んだ資料や解説録画をWebClassに上げることで繰り返し復習できるようにしている。 | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| なし | | | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | |
| なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月（西暦） | 発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称 |
| Selective Monoacylation of Diols and Asymmetric Desymmetrization of Dialkyl meso-Tartrates Using 2-Pyridyl Esters as Acylating Agents and Metal Carboxylates as Catalysts | 共著 | 2019年6月 | J. Org. Chem. 84(14) |
| Lewis Base-Catalyzed Enantioselective Conjugate Reduction of β, β -Disubstituted α, β -Unsaturated Ketones with Trichlorosilane: <i>E/Z</i> -Isomerization, Regioselectivity, and Synthetic Applications | 共著 | 2019年8月 | J. Org. Chem. 84(18) |

| | | | |
|--|------------------------|----------|----------------------------|
| <i>O</i> -Monoacyltartaric Acid/(Thio)urea Cooperative Organocatalysis for Enantioselective Conjugate Addition of Boronic Acid | 共著 | 2020年5月 | Org. Lett. 22(10) |
| Synthesis of Selenoesters via Aldol Condensation and/or Conjugate Reduction and Their Antiviral Activities | 共著 | 2022年12月 | ACS Omega, in press |
| Catalysis by Silicon Species (Chapter 12) In Catalysis with Earth-abundant Elements | 共著 | 2020年11月 | Royal Society of Chemistry |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| Synthesis of Selenoesters by Aldol Condensation and/or Conjugate Reduction and Their Antiviral Activities | | 2022年11月 | 第48回反応と合成の進歩シンポジウム |
| アルドール縮合や還元反応による抗ウイルス活性有機セレン化合物の合成 | | 2023年3月 | 日本薬学会第143年会 |
| 薬剤師業務における尿試験紙の活用に向けた基盤情報の構築 | | 2023年3月 | 日本薬学会第143年会 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| 2018年度 | 第44回反応と合成の進歩シンポジウム実行委員 | | |
| 2019～2020年度 | 日本薬学会九州支部幹事 | | |
| 2021年度～現在 | 日本薬学会代議員（九州山口支部） | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|--|-------------------------------|---|---|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 医薬品化学研究室 | 准教授 | 山口 幸輝 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 教育内容 基礎情報処理演習(1年) 方法の工夫 約140名の理解度、進行度に応じ、個々の課題内容に冗長性を持たせた。 | 2022. 4 | 本演習では、情報処理の各プロセス(情報の収集→加工・編集→発信)に必要なソフトウェアの使い方、インターネット利用法などを担当した。 | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 有機化学I 授業資料 医薬品化学 授業資料 医薬品化学実習 実習資料 | 2022. 4 2022. 9 2022. 9 | | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 大学人教育力養成講座の講演 | 2019. 11 | 授業改善のポイント、話題提供を行い、学生へ向き合うスタンスについての講演を行った。 | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 ベストティーチング賞受賞 | 2019. 9 | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月(西暦) | 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称 |
| (論文)STEPWISE REACTIONS BETWEEN CYCLIC 1,4-DIAZADIENES AND KETENES: CHARACTERISTICS AND MECHANISM | 共著 | 2021年1月 | Heterocycles, 102(3), 534-545 |
| Reactivity of the Enamine Tautomer of a Cyclic 1,4-Diazadiene with a Diketone | 共著 | 2020年1月 | Heterocycles, 100(9), 1463-1472 |
| Lewis Base-Catalyzed Enantioselective Conjugate Reduction of β, β -Disubstituted α, β -Unsaturated Ketones with Trichlorosilane: E/Z-Isomerization, Regioselectivity, and Synthetic Applications. [Highlighted in Organic Chemistry Portal; Featured in Org. Chem. Highlights: Alkylated Stereogenic Centers] | 共著 | 2019年8月 | The Journal of Organic Chemistry, 84(18), 11458-11473 |

| | | | |
|---|----|---------|---|
| Selective Monoacylation of Diols and Asymmetric Desymmetrization of Dialkyl meso-Tartrates Using 2-Pyridyl Esters as Acylating Agents and Metal Carboxylates as Catalysts | 共著 | 2019年6月 | The Journal of Organic Chemistry, 84(14), 9313-9321 |
| Reaction of 2,3,5,6,7,8-Hexahydroquinoxaline with Thiourea Derivatives: Analysis of the Structure and Conformational State of [4.4.3]Propellane | 共著 | 2019年1月 | Heterocycles, 98(1), 88-95 |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| Antitumor Allium Sulfidesの研究 Garlic Sproutの成分について | | 2018.11 | 第35回日本薬学会九州支部大会 |
| 2-ピリジルエステルを利用するピバル酸アニオンを導入した Cu(II)/Ph-BOX 錯体触媒によるメソジオールの不斉非対称化 | | 2018.11 | 第35回日本薬学会九州支部大会 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| 2000年11月～現在 | | 日本薬学会会員 | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|------------|----------------|----------------------------------|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 生薬学研究室 | 職名 教授 | 氏名 吉満 齊 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 なし | | | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 新訂生薬学 改訂第9版 | | 2021年12月25日 | 菌類・藻類項目の担当 |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月(西暦) | 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称 |
| (論文) Two new resin glycosides, muricatin XII and XIII, from the seeds of <i>Ipomoea muricata</i> | 共著 | 2022年9月 | Natural product research Vol. 36 |
| (論文) A new glycosidic acid, muricatic acid D, and resin glycosides, muricatin X and XI, from the crude resin glycoside fraction of the seeds of <i>Ipomoea muricata</i> | 共著 | 2021年3月 | Chem. Pharm. Bull. Vol. 69 |
| (論文) Calyhedins I-VI: resin glycosides from the rhizomes of <i>Calystegia hederacea</i> | 共著 | 2021年7月 | Phytochemistry vol. 190 |
| (論文) Comparative studies of the biological activities of selected herbal extracts and phenolic compounds isolated from <i>Rosa gallica</i> | 共著 | 2021年1月 | Z. Naturforsch vol. 75 |
| (論文) Glutaminase inhibitory activity of umbelliferone isolation from kabosu (<i>Citrus sphaerocarpa</i> Hort. Ex Tanaka) | 共著 | 2020年7月 | Natural Product Reserch Vol. 35 |
| 2. 学会発表(評価対象年度のみ) | | 発表年・月 | 学会名 |
| (演題名) コヒルガオ科の樹脂配糖体(4) | | 2022年3月 | 日本薬学会 |
| (演題名) イカリソウに含まれるプレニルフラボノイド類のAGEs生成阻害活性について | | 2022年11月 | メイラード学会 |
| (演題名) ヒルガオ科の樹脂配糖体に関する研究(2) | | 2022年11月 | 日本薬学会九州支部会 |

| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | |
|-----------------------------------|----------|
| 1983年9月～現在 | 日本薬学会会員 |
| 1993年8月～現在 | 日本生薬学会会員 |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|--|-------------|--------------------|----------------------------|
| 大学名 | 崇城大学 | 講座名 | 生薬学研究室 |
| 職名 | 准教授 | 氏名 | 宮下 裕幸 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 なし | | | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 なし | | | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行または発表の 年月（西暦） | 発行所、発表雑誌 （巻・号 数）等の名称 |
| Two new resin glycosides, muricatin XII and XIII, from the seeds of <i>Ipomoea muricata</i> | 共著 | 2022年9月 | Nat Prod Res. 23(1) |
| Two new glycosidic acids, calyhedric acids E and F, in crude resin glycoside fraction from <i>Calystegia hederacea</i> | 共著 | 2022年1月 | Nat Prod Res. 36(1) |
| A new steroidal glycoside from the fruits of <i>Solanum myriacanthum</i> | 共著 | 2022年1月 | Nat Prod Res. 36(1) |
| A New Glycosidic Acid, Muricatic Acid D, and Resin Glycosides, Muricatin X and XI, from the Crude Resin Glycoside Fraction of the Seeds of <i>Ipomoea muricata</i> | 共著 | 2021年3月 | Chem Pharm Bull. 69(3) |
| Identification and characterization of organic and glycosidic acids in crude resin glycoside fraction from <i>Calystegia hederacea</i> | 共著 | 2020年1月 | J Nat Med. 74(1) |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| イカリソウに含まれるプレニルフラボノイド類のAGEs生成阻害活性について | | 2022・11 | 日本メイラード 学会 |
| ヒルガオの樹脂配糖体に関する研究（2） | | 2022・11 | 日本薬学会 九州山口支部大 会 |
| III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| 2006年4月～現在 | 日本薬学会会員 | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|---------------------------------------|---|------------------------|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 薬用植物園 | 職名 教授 | 氏名 池田 剛 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 なし | | | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 ・「生薬学へのいざないー生薬学は今日の医療にどう役立つのかー」(京都廣川書店)を共同執筆した ・パートナー 天然物化学(南江堂) ・エッセンシャル 天然薬物化学(医歯薬出版) | 平成21年3月 平成28年9月 平成29年3月 | 6年制薬学部の学生に生薬学のおもしろさを伝えられるような教科書目指して作成した。 第一章 糖類 を担当執筆した 各論の糖質、脂質、テルペノイドの執筆を担当した | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月(西暦) | 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称 |
| Dual Inhibitory Activity of Petroselinic Acid Enriched in Fennel Against Porphyromonas gingivalis. | 共著 | 2022年8月 | Front Microbiol. 19 |
| Thiolane-type sulfides from garlic, onion, and Welsh onion. | 共著 | 2021年12月 | J Nat Med. 75(4) |
| Curry Leaf Triggers Cell Death of P. gingivalis with Membrane Blebbing. | 共著 | 2021年10月 | Pathogens. 2021;10(10) |
| Supramolecular Assembly of Hybrid Pt(II) Porphyrin/Tomatine Analogues with Different Nanostructures and Cytotoxic Activities. | 共著 | 2021年6月 | ACS Omega 6(20) |
| Flavonoid Compounds Contained in Epimedium Herba Inhibit Tumor Progression by Suppressing STAT3 Activation in the Tumor Microenvironment. | 共著 | 2020年3月 | Front Pharmacol. 18 |
| 2. 学会発表(評価対象年度のみ) | | 発表年・月 | 学会名 |

| | | |
|--|----------------------|-----------------|
| コリアンダー葉水溶性抽出物の脱顆粒抑制効果に関する研究 | 2022年6月 | 第76回日本栄養・食糧学会 |
| コリアンダー (Coriandrum sativum L.) 葉水抽出物の脱顆粒抑制成分の探索研究 | 2022年9月 | 日本生薬学会第68回年会 |
| イカリソウに含まれるプレニルフラボノイド類のAGEs生成阻害活性について | 2022年11月 | 第32回日本メイラード学会年会 |
| パクチー水抽出物の抗アレルギー成分の探索研究 | 2022年11月 | 第36回日本香辛料研究会 |
| Ethyl acetate extract of bitter melon enhances serum clearance and muscle uptake of dietary triglyceride in rats | 2022年12月 | 第22回国際栄養学会議 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | |
| 日本杜仲研究会 | 理事（2012年4月～） | |
| 日本生薬学会 | 理事（2022年4月～） | |
| 日本薬学会 | 学術誌編集委員会委員（～2019年3月） | |
| 富尾会 桜ヶ丘病院 | 評議員（2012年4月～） | |
| アメリカ化学会 | 正会員 | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|--|------|-------------|--|
| 大学名 | 崇城大学 | 講座名 | 薬用植物園 |
| 職名 | 助教 | 氏名 | 中嶋 圭介 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| なし | | | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| なし | | | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | |
| なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | | 単著・ 共著の別 | 発行または発表の 年月（西暦） |
| A natural anti periodontis agent, epimedokoreanin B, inhibits virulence activities of gingioains from Porphyromonas gingivalis. | | 共著 | 発行所、発表雑 誌（巻・号 数）等の名称 |
| | | | 2019年3月 |
| | | | Biosci. Biotechnol. biochem. 83 (7) |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| コリアンダー（ <i>Coriandrum sativum</i> L.）葉水抽出物の脱顆粒抑制 成分の探索研究 | | 2022年9月 | 日本生薬学会第 68回年会 |
| イカリソウに含まれるプレニルフラボノイド類のAGEs生成阻害活性 について | | 2022年11月 | 第32回日本メイ ラード学会年会 |
| パクチー水抽出物の抗アレルギー成分の探索研究 | | 2022年11月 | 第36回日本香辛 料研究会 |
| III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| 日本メイラード学会 | 一般会員 | | |
| 生薬学会 | 一般会員 | | |
| 薬学会 | 一般会員 | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。

※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|------------|---------------------|---|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 生化学研究室 | 職名 | 氏名 上田 直子 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 生化学I、生化学II、分子生物学 | | 2016年～現在 | 授業アンケートのコメントに基づいて、適宜教授法やレジメの改善を行っている。 |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 生化学I、生化学II、分子生物学 コンパス分子生物学 改訂第3版 南江堂 | | 2016年～現在 2021年3月 | プリントの自作 遺伝子クローニングの項目を担当 |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | 特になし |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | 2016年～現在 | 薬学部自己評価委員であり、学部及び全学主催のFD講演会に積極的に参加している。 |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月(西暦) | 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称 |
| (論文) Comprehensive analysis of novel disulfide bond introduction site into the constant domain of human Fab | 共著 | 2021年6月 | Sci. Rep. vol. 11 |
| (論文) Discovery of the Gene Encoding a Novel Small Serum Protein (SSP) of Protobothrops flavoviridis and the Evolution of SSP | 共著 | 2020年3月 | Toxins (Basel) vol. 12 |
| (論文) Alternative mRNA Splicing in Three Venom Families Underlying a Possible Production of Divergent Venom Proteins of the Habu Snake, Protobothrops flavoviridis | 共著 | 2019年10月 | Toxins (Basel) vol. 11 |
| (論文) SDS-induced oligomerization of Lys49-phospholipase A2 from snake venom | 共著 | 2019年2月 | Sci. Rep vol. 9 |
| (論文) The habu genome reveals accelerated evolution of venom protein genes. | 共著 | 2018年7月 | Sci. Rep. vol. 8 |
| 2. 学会発表(評価対象年度のみ) | | 発表年・月 | 学会名 |
| ハブ毒液中に含まれる小ペプチドの同定と活性評価 | | 2023年3月 | 2023年度日本農芸化学会 |
| セルトリズマブFab可変領域へのアミノ酸変異導入による安定化 | | 2023年3月 | 日本薬学会第143年会 |

| | | |
|--|----------------------|------------------------------|
| ハブ毒液中に含まれる小ペプチドの探索 | 2022年9月 | 第68回トキシンシンポジウム |
| ヒメハブ血清に含まれる毒中和因子：SSPをコードする遺伝子アレイのゲノム構造解析 | 2022年9月 | 第68回トキシンシンポジウム |
| 抗体医薬アダリムマブFabの定常領域における7種のPheとPhe→Pro配列における6つのProの熱安定性への影響 | 2022年8月 | 第44回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム |
| 抗体医薬アダリムマブFabの定常領域における7種のPhe→Ala変異体及びPhe→Pro配列上の6種のPro→Gly変異体の熱安定性解析 | 2022年6月 | 第22回蛋白質科学会 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | |
| 2016年11月～現在 | 生化学会九州支部評議員 | |
| 2021年4月～現在 | 日本農芸化学会西日本支部参与 | |
| 2019年9月 | 第66回トキシンシンポジウム 実行委員長 | |
| 2019年12月 | 第42回日本分子生物学会年会 組織委員 | |
| 2021年11月～2023年10月 | 生化学会代議員（九州支部） | |
| 2022年9月～現在 | 生化学会評議員 | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|--|-------------|--------------------|--|
| 大学名 | 崇城大学 | 講座名 | 生化学研究室 |
| 職名 | 教授 | 氏名 | 大栗誉敏 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 「生化学Ⅰ」「生化学Ⅱ」 「薬学基礎生物学」「基礎免疫学」 | | 2010年度～ | 担当した科目では、学生から質問を募り、次回の講義にて時間を設け回答している |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 南江堂「薬系免疫学」第三版 | | 2018年2月 | 薬系免疫学第三版の13章を執筆した。 |
| 南江堂「コンパス生化学」第二版 | | 2019年12月 | コンパス生化学第二版の14章を執筆した。 |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行または発表の 年月（西暦） | 発行所、発表雑誌 （巻・号 数）等の名称 |
| Effect of an intermolecular disulfide bond introduced into the first loop of CH1 domain of Adalimumab Fab on thermal stability and antigen-binding activity. | 共著 | 2022年6月 | The Journal of Biochemistry 172(1) |
| A comprehensive analysis of novel disulfide bond introduction site into the constant domain of human Fab. | 共著 | 2021年6月 | Scientific reports 11(1) |
| C-Terminal Cysteine PEGylation of Adalimumab Fab with an Engineered Interchain SS Bond. | 共著 | 2020年3月 | Biol Pharm Bull. 1(43) |
| A method to induce hen egg lysozyme-specific humoral immune tolerance in mice by pre-exposition with the protein's oligomers | 共著 | 2019年12月 | Biochemistry and Biophysics Reports 14(20) |
| A novel engineered interchain disulfide bond in the constant region enhances the thermostability of adalimumab Fab. | 共著 | 2018年1月 | Biochem Biophys Res Commun. 495(1) |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |

| | | |
|--|--------------|---|
| 抗体医薬アダリムマブFabの定常領域における7種のPhe→Ala変異体及びPhe-Pro配列上の6種のPro→Gly変異体の熱安定性解析 | 2022年6月 | 第22回日本蛋白質科学会年会 |
| ジスルフィドスキャンによるアダリムマブFabの分子間SS結合導入部位のデザインと酵母による変異体の作製 | 2021年11月 | 第94回日本生化学大会 |
| 分子間SS結合を有したFabのC末端特異的PEG修飾体の調製 | 2019年6月 | 第19回日本蛋白質科学会年会 第71回日本細胞生物学会大会 合同年次大会 |
| 抗体医薬アダリムマブFabの糖鎖付加変異体の解析 | 2019年3月 | 日本薬学会第139年会 |
| 糖鎖付加によるアダリムマブFabの凝集性の抑制 | 2018年6月 | 第18回日本蛋白質科学会年会 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | |
| 1995年4月～現在 | 日本生化学会・正会員 | |
| 1997年3月～現在 | 日本薬学会・正会員 | |
| 1999年6月～現在 | 日本蛋白質科学会・正会員 | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|---|--|---------------------------|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 生化学研究室 | 講師 | 中村 仁美 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 生化学実習におけるSGD | 2022年5月13日 2022年5月20日 2022年5月27日 2022年6月3日 | 実験データをもとに学生自身で多角的に考える力を養うことを目的として、中村担当の実習最終日に、それまでの実習内容の振り返りと実験結果の考察・討論を各グループ（5～6名）で行う時間を設けた。SGD後に質問への回答やレポート作成のヒントになる情報の提供も行った。 | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 2022年度 生物系薬学実習 生化学実習書 | | 薬学部3年生を対象とした生化学実習専用の教材。9つの実習項目の原理・実験操作・課題などについて、加筆・修正を行った。 | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月（西暦） | 発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称 |
| Effect of an intermolecular disulfide bond introduced into the first loop of CH1 domain of Adalimumab Fab on thermal stability and antigen-binding activity. | 共著 | 2022年6月 | J. Biochem. 172 (1) |
| A comprehensive analysis of novel disulfide bond introduction site into the constant domain of human Fab. | 共著 | 2021年6月 | Sci. Rep. 11 (1) |
| Glycosylation decreases aggregation and immunogenicity of adalimumab Fab secreted from <i>Pichia pastoris</i> . | 共著 | 2021年4月 | J. Biochem. 169 (4) |
| C-terminal cysteine PEGylation of adalimumab Fab with an engineered interchain SS bond. | 共著 | 2020年3月 | Biol. Pharm. Bull. 43 (3) |
| Alternative mRNA Splicing in Three Venom Families Underlying a Possible Production of Divergent Venom Proteins of the Habu Snake, <i>Protobothrops flavoviridis</i> . | 共著 | 2019年10月 | Toxins (Basel) 11 (10) |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| 抗体医薬アダリムマブFabの定常領域における7種のPhe→Ala変異体及びPhe-Pro配列上の6種のPro→Gly変異体の熱安定性解析 | | 2022年6月 | 第22回日本蛋白質科学会年会 |

| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | |
|-----------------------------------|-----------------------|
| 2009年2月～現在 | 日本薬学会会員 |
| 2009年3月～現在 | 日本生化学会会員 |
| 2009年4月～現在 | 日本分子生物学会会員 |
| 2013年5月～現在 | 毒素シンポジウム会員 |
| 2017年2月～現在 | 日本蛋白質科学会会員 |
| 2019年1月～2019年12月 | 第66回トキシンシンポジウム開催事務局担当 |
| 2019年1月～2021年12月 | 毒素シンポジウム運営委員 |
| 2022年10月～現在 | 日本抗体学会会員 |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|------|------------|---|
| 大学名 | 崇城大学 | 講座名 | 薬理学研究室 |
| | | 職名 | 教授 |
| | | 氏名 | 徳富 直史 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| ・薬理学I (2年次前期) における薬理学導入教育と薬理学基盤教育 | | 2022年4月～ | 薬剤師業務における薬理学の位置づけと役割を理解させ、薬と体のしくみの基盤教育と知識体系の修得を図る。 |
| ・薬理学II (2年次後期) における中枢神経系薬理学教育 | | 2022年9月～ | 薬理学Iで学んだ情報伝達系ならびに末梢神経系薬理学、さらに神経生理学を基盤に中枢神経系薬理学の体系を修得させる。 |
| ・薬理学III (3年次前期) における循環器系ならびに泌尿器系薬理学教育 | | 2022年6月～ | 薬理学Iで学んだ情報伝達系ならびに末梢神経系薬理学、さらに神経生理学を基盤に循環器系ならびに泌尿器系薬理学の体系を修得させる。 |
| ・応用薬理学 (4年次前期) における薬剤師臨床判断のための薬理学知識の運用力養成教育 | | 2022年6月～ | 薬剤師業務における薬理学知識の運用法として、重要疾患処方解析における型とその理論的背景を身に付けさせる。 |
| ・薬理学実習 (3年次後期) における実験薬理学教育 | | 2022年11月～ | 動物実験を通して医薬品効果の実測を体験し、客観的数値としての薬効に対するセンスを養成する。 |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| ・薬理学I (全91ページ) | | 2022年4月13日 | 上記当該科目の概要達成に必要なテキスト教材 |
| ・薬理学II (全109ページ) | | 2022年9月12日 | 上記当該科目の概要達成に必要なテキスト教材 |
| ・薬理学III (全123ページ) | | 2022年6月3日 | 上記当該科目の概要達成に必要なテキスト教材 |
| ・薬理学実習 (全67ページ) | | 2022年11月1日 | 上記当該科目の概要達成に必要なテキスト教材 |
| ・応用薬理学 (全146ページ) | | 2022年6月15日 | 上記当該科目の概要達成に必要なテキスト教材 |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |

| | | | |
|---|---------|----------------|---|
| なし | | | |
| Ⅱ 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月（西暦） | 発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称 |
| (論文) Different effects on the tonus of colon and ileum isolated from mouse by resin glycoside (pharbitin) of Pharbitidis Semen | 共著 | 2022/3/1 | BMC Complementary Medicine and Therapies; 22 |
| (論文) A splice switch in SIGIRR causes a defect of IL-37-dependent anti-inflammatory activity in cystic fibrosis airway epithelial cells | 共著 | 2022/7/1 | International Journal of Molecular Sciences; 23 |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| なし | | | |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| なし | | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|------------------------|------------|--|---------|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 薬理学研究室 | 職名 講師 | 氏名 首藤恵子 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） | | | |
| 薬理学Ⅲの講義指導（分担） | 2018年4月～ | 薬学部3年（必修・2単位）を対象とし、内分泌・アレルギー疾患作用薬や皮膚・耳、免疫作用薬、抗炎症薬に関する概説講義を計6コマ担当した。 | |
| 卒業研究および卒業論文作成指導 | 2018年4月～ | 薬学部・薬理学研究室配属の4・5・6年生の卒業研究指導および卒業論文作成指導を担当した。 | |
| 薬理学実習の指導（分担） | 2018年11月～ | 薬学部3年（必修・1単位）を対象とし、医薬品の効果を動物を用いて実測する薬理学に関連する実習を行った。運動神経作用薬に関する実習を担当した。 | |
| 基礎科学英語の講義指導（分担） | 2018年11月～ | 薬学部3年（必修・1単位）を対象とし、生物系薬学英語に関する講義を計2コマ担当した。 | |
| 薬理学Ⅰの講義指導（分担） | 2019年4月～ | 薬学部2年（必修・2単位）を対象とし、消化器・呼吸器・血液・造血器・眼作用薬に関する概説講義を計6コマ担当した。 | |
| 総合薬学演習Ⅱの演習・解説指導（分担） | 2022年6月 | 薬学部6年（必修・2単位）を対象とし、自律神経作用薬に関する演習・解説講義を計3コマ担当した。 | |
| 総合薬学演習Ⅲの演習・解説指導（分担） | 2022年10月 | 薬学部6年（必修・4単位）を対象とし、内分泌疾患・消化器作用薬に関する演習・解説講義を計2コマ担当した。 | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |

| | | | |
|--|-------------|---|--|
| 薬理系講義および演習・解説の資料・動画作成 | 2018年4月～現在 | <p>学生が優先して理解すべき内容が分かるよう各薬物名や副作用等に直近国試出題回とその問題数を併記し、更に図や表を多用することで視覚的に理解が深まるよう努めた。またオンライン学習を促す目的として、講義動画や資料をe-LearningツールであるWebClassにアップロードし活用した。</p> | |
| WebClassにおける演習問題作成 | 2020年4月～現在 | <p>学生の知識定着を目的として、各回の講義毎に復習用の演習問題を作成した。問題は国試や模試の過去問から抽出し、難易度も併記した。学生はWeb上にて解答した後すぐに採点結果および解説を確認することができるため、定期的に反復して実施するよう学生に促した。</p> | |
| 薬理学実習書の作成（分担と取りまとめ） | 2018年11月～現在 | <p>運動神経作用薬に関する実習書の作成、およびその他教員の担当内容の取りまとめを行った。</p> | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月（西暦） | 発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称 |
| （論文）A Splice Switch in SIGIRR Causes a Defect of IL-37-Dependent Anti-Inflammatory Activity in Cystic Fibrosis Airway Epithelial Cells | 共著 | 2022年7月 | International Journal of Molecular Sciences 23(14) |
| （論文）Metformin suppresses epithelial sodium channel hyperactivation and its associated phenotypes in a mouse model of obstructive lung diseases | 共著 | 2022年6月 | Journal of Pharmacological Sciences 149(2) |
| （論文）The DsbA-L gene is associated with respiratory function of the elderly via its adiponectin multimeric or antioxidant properties | 共著 | 2020年4月 | Scientific Reports 10(5973) |
| （論文）Azithromycin inhibits constitutive airway epithelial sodium channel activation in vitro and modulates downstream pathogenesis in vivo | 共著 | 2020年1月 | Biological and Pharmaceutical Bulletin 43(4) |

| | | | |
|--|----------|----------|--|
| (論文) Curcumin down-regulates toll-like receptor-2 gene expression and function in human cystic fibrosis bronchial epithelial cells | 共著 | 2019年3月 | Biological and Pharmaceutical Bulletin 42(3) |
| 2. 学会発表 (評価対象年度のみ) | | 発表年・月 | 学会名 |
| (演題名) 嚢胞性線維症における抗炎症タンパク質SIGIRRのスーパーイソバリエントの発現・機能解析 | | 2022年11月 | 第39回日本薬学会九州山口支部大会 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件) | | | |
| 2004/4/1～現在 | 日本薬学会会員 | | |
| 2004/4/1～現在 | 日本薬理学会会員 | | |
| 2012/9/1～現在 | 日本分子生物学会 | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|-----------------------|-------------|---|----------|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 微生物学研究室 | 職名 教授 | 氏名 横溝 和美 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| ・「微生物学II」の講義指導 | 2018年4月 | 薬学部2年を対象に教科書とプリントによる講義と演習を取り入れ病原微生物学のを教授した。 | |
| ・「微生物学I」の講義指導 | 2018年11月 | 薬学部1年を対象に教科書とプリントによる講義と演習を取り入れ微生物学の基礎を教授した。 | |
| ・「微生物学実習」の指導 | 2019年6月 | 薬学部3年を対象に実習書による講義と演習を取り入れ、微生物検査の基礎と実践を教授した。 | |
| ・「総合薬学研究I」の研究指導 | 2019年9月 | 薬学部4-5年を対象に卒業研究を指導し、論文調査、研究計画の立案、研究操作、データのまとめ方、卒論発表などを指導した。 | |
| ・「薬学概論」の講義指導 | 2020年5月 | 薬学部1年を対象に講義を一部担当した。 | |
| ・「解剖学概論」の講義指導 | 2020年5月 | 薬学部1年を対象に講義を一部担当した。 | |
| ・「未病治療学」の講義指導 | 2021年11月 | 薬学部5年生の講義（選択）を担当した。オンデマンドによる講義を取り入れている。 | |
| ・「総合薬学演習I」講義指導 | 2022年11月 | 薬学部5年を対象にプリントによる演習により薬剤師国家試験の問題を解説した。 | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| 「微生物学実習書」 | 2018年4月 | 実習の内容と操作法を記したテキストを作成し毎年更新している。 | |
| 「微生物学I」講義資料 | 2021年9月 | 講義用スライドと演習問題をまとめた冊子を作成した。 | |
| 「未病治療学」の視聴覚資料 | 2020年10月 | 未病に関する視聴覚資料を作成した。 | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | |
| 講演「疾病予防のための未病対策」 | 2022年9月8日 | 九州地区の学生指導担当者を対象に健康管理に関する講演を行った。 | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| 未病専門指導師取得 | 2018年1月 | 日本未病学会の研修を受け未病専門指導師に認定された。 | |

| II 研究活動 | | | |
|---|------------------|----------------|---|
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月（西暦） | 発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称 |
| Carbohydrate recognition of C3-symmetrical tripodal receptor-type 2,4,6-trisubstituted 1,3,5-triazine derivatives with antiviral activities. | 共著 | 2018年7月 | Journal of Thermal Analysis and Calorimetry, vol.135 No.5 |
| Anti-proliferative Activities towards Human Brain Glioma U251 Cells and Human Carcinoma Cells (KB3-1) of Some Twin-Drug Type Bivalent 2-Symmetrical Phenylboronic Acid Derivatives. | 共著 | 2019年5月 | Biological & pharmaceutical bulletin, vol. 42 No. 5 |
| Novel bis-thiolane-type sulfide from garlic | 共著 | 2020年12月 | Current Topics in Phytochemistry, No. 16 |
| Expression Dynamics of Heme Oxygenase-1 in Tumor Cells and the Host Contributes to the Progression of Tumors | 共著 | 2021年12月 | Journal of Personalized Medicines, vol. 11 No. 12 |
| Ripe Tomato Saponin Esculeoside A and Sapogenol Esculeogenin A Suppress CD4+ T Lymphocyte Activation by Modulation of Th2/Th1/Treg Differentiation. | 共著 | 2022年5月 | Nutrients, vol. 14 No. 10 |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| 緑膿菌のバイオフィルム形成とクロルヘキシジン耐性に及ぼすアミノ酸の影響 | | 2022年9月 | 日本防菌防黴学会第49回年次大会 |
| 枸杞子を主とした健康飲料LLAの抗炎症及び抗腫瘍効果に関する検討 | | 2022年11月 | 第29回日本未病学会学術総会 |
| III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| 2005年4月～現在 | 日本薬学会会員 | | |
| 2008年4月～現在 | 日本未病学会評議員 | | |
| 2014年4月～2021年3月 | 健康サービス産業部会理事 | | |
| 2022年5月～現在 | バイオテクノロジー研究推進会理事 | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|------|----------|--|
| 大学名 | 崇城大学 | 講座名 | 微生物学研究室 |
| 職名 | 准教授 | 氏名 | 方 軍 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・崇城大学薬学部における学部生への「細胞生物学」の講義指導（平成17年4月～平成22年9月 分担） | | 平成17年4月～ | 薬学部1年生（4年制課程及び6年制課程）を対象とした細胞生物学の講義を分担した。本講義では、細胞の基本構造と機能について授業を行った。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・崇城大学薬学部における学部生への「微生物学実習」の実習指導（分担） | | 平成18年4月～ | 薬学部2年生（4年制課程）と2-3年生（6年制課程）を対象とした微生物学実習を一部担当した。本実習では、微生物の基本的な取扱方、培養法、検査法等について教授した。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・崇城大学薬学部における学部生への「微生物学I」の講義指導（分担） | | 平成21年9月～ | 薬学部1年生（6年制課程）を対象とした「微生物学I」を一部担当した。本講義では、微生物学の歴史、微生物の分類、細菌の構造、生理代謝、遺伝学の特徴及び代表的な細菌などの微生物学の基礎について講義を行った。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・崇城大学薬学部における学部生への「微生物学III」の講義指導（分担） | | 平成21年4月～ | 薬学部4年生（6年制課程）を対象とした「微生物学III（化学療法論）」の講義を一部担当した。本講義では、コアカリキュラムに準じながら、がんの特徴、抗がん剤の種類、作用機序、臨床適応、副作用及びその改善法等について抗がん化学療法の基礎を教授した。 |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・崇城大学薬学部「生物系薬学実習（微生物学実習）」実習書 | | 平成18年4月～ | 薬学部2年生（4年制課程）と2-3年生（6年制課程）を対象とする「微生物学実習」は、微生物の基本的な取扱方、培養法、検査法等から構成されている。本書は、毎年若干の改定を加えた。 |

| | | | |
|--|-------------|--|----------------------------|
| 「図解 腫瘍薬学」(南山堂) | 令和2年6月 | 本書籍は、発がんから抗がんまでの全てを薬学の視点から総括でき、かつ医療薬学・臨床薬学において系統的かつ斬新的にがん患者ケアを可能にする学問を「腫瘍薬学」と定義し、基礎薬学を基盤としてがん予防やがん治療を系統的にまとめた内容の教科書とする。本教科書では、「がん薬物療法におけるDDS」を分担し作成した。 | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行または発表の 年月(西暦) | 発行所、発表雑誌 (巻・号 数)等の名称 |
| (論文) Nanoformulation of a carbon monoxide releasing molecule protects against cyclosporin A-induced nephrotoxicity and renal fibrosis via the suppression of the NLRP3 inflammasome mediated TGF- β /Smad pathway. | 共著 | 2022年5月 | Acta Biomater.; 144 |
| (論文) Nano-designed CO donor ameliorates bleomycin-induced pulmonary fibrosis via macrophage manipulation. | 共著 | 2022年1月 | J Control Release; 341 |
| (論文) Unraveling the role of Intralipid in suppressing off-target delivery and augmenting the therapeutic effects of anticancer nanomedicines. | 共著 | 2021年5月 | Acta Biomater.; 126 |
| (論文) Polymer-conjugated glucosamine complexed with boric acid shows tumor-selective accumulation and simultaneous inhibition of glycolysis. | 共著 | 2021年2月 | Biomaterials; 269 |
| (論文) Nano-designed carbon monoxide donor SMA/CORM2 exhibits protective effect against acetaminophen induced liver injury through macrophage reprogramming and promoting liver regeneration. | 共著 | 2021年1月 | J Control Release; 331 |
| 2. 学会発表(評価対象年度のみ) | | 発表年・月 | 学会名 |
| なし | | | |
| III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件) | | | |
| 平成13年9月～現在 | 日本癌学会会員 | | |
| 平成14年6月～現在 | 日本DDS学会会員 | | |

| | |
|-------------|------------|
| 平成20年10月～現在 | 日本薬学会会員 |
| 平成24年7月～現在 | 日本DDS学会評議員 |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|--|-------------|---|--------------------|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 微生物学研究室 | 職名 講師 | 氏名 周 建融 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| ・崇城大学薬学部における学部生への「微生物学実習」の実習担当(分担) | 2013年5月～ | 薬学部3年生を対象とした「微生物学実習」を担当し、微生物を取り扱うための基本的技能を指導した。 | |
| ・崇城大学薬学部における学部生への「総合薬学研究Ⅰ」の研究指導(分担) | 2017年4月～ | 研究室に配属された学生の卒業研究の指導を行った。 | |
| ・崇城大学薬学部における学部生への「薬理学実習」の実習担当(分担) | 2020年10月～ | 薬学部3年生を対象とした「薬理学実習」を担当し、平滑筋作用薬に関する部分を指導した。 | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| 「微生物学実習」実習書(分担) | 2013年5月～ | 崇城大学薬学部3年生を対象とした「微生物学実習」の実習書の一部作成と取りまとめを行った。 | |
| 「薬理学実習」実習書(分担) | 2020年10月～ | 崇城大学薬学部3年生を対象とした「薬理学実習」の平滑筋作用薬に関する部分の教材を作成した。 | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | |
| なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月(西暦) | 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称 |
| ・Tomato Saponin Esculeoside A and Sapogenol Esculeogenin A Suppress CD4+ T Lymphocyte Activation by Modulation of Th2/Th1/Treg Differentiation. | 共著 | 2022年6月 | Nutrients. 14(10) |
| ・Decrease of Hyaluronidase Activity and Suppression of Mouse CD4+ T Lymphocyte Activation by Tomato Juice Saponin Esculeoside B, and Its Sapogenol Esculeogenin B. | 共著 | 2022年4月 | J Pers Med. 12(4) |

| | | | |
|--|----------------------------|----------|-------------------------------|
| ・ Different effects on the tonus of colon and ileum isolated from mouse by resin glycoside (pharbitin) of Pharbitidis Semen. | 共著 | 2022年3月 | BMC Complement Med Ther. 22 |
| ・ Suplatast Tosilate Inhibited Nicotinic Single-Channel Currents in the Paratracheal Ganglia Neurons of Rats. | 共著 | 2020年9月 | Austin J Pharmacol Ther. 8(2) |
| ・ Direct Potentiation of Capsaicin Current by Histamine and its Effect by Suplatast on Rat Trigeminal Ganglia Neurons. | 共著 | 2018年5月 | Pharmacology. 102(1-2) |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| ・ マウス大腸がんモデルにおける完熟トマトサポニンEsAの効果 | | 2022年11月 | 第29回日本未病学会学術総会 |
| ・ ケンゴ子の樹脂配糖体画分Pharbitinのマウス腸管運動に及ぼす影響 | | 2023年3月 | 日本薬学会第143年会 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| 2017年3月 | 崇城大学薬学部オープンキャンパス委員担当 | | |
| 2018年3月 | 崇城大学留学生別科委員担当 | | |
| 2019年9月 | 中国桂林市政府、広西師範大学、桂林医学院との国際交流 | | |
| 2017年4月～ | 日本未病（システム）学会 評議員 | | |
| 2017年4月～ | バイオテクノロジー研究推進会 評議員 | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|-------------|---|--------------------|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 微生物学研究室 | 職名 講師 | 氏名 周 建融 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| ・崇城大学薬学部における学部生への「微生物学実習」の実習担当(分担) | 2013年5月～ | 薬学部3年生を対象とした「微生物学実習」を担当し、微生物を取り扱うための基本的技能を指導した。 | |
| ・崇城大学薬学部における学部生への「総合薬学研究Ⅰ」の研究指導(分担) | 2017年4月～ | 研究室に配属された学生の卒業研究の指導を行った。 | |
| ・崇城大学薬学部における学部生への「薬理学実習」の実習担当(分担) | 2020年10月～ | 薬学部3年生を対象とした「薬理学実習」を担当し、平滑筋作用薬に関する部分を指導した。 | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| 「微生物学実習」実習書(分担) | 2013年5月～ | 崇城大学薬学部3年生を対象とした「微生物学実習」の実習書の一部作成と取りまとめを行った。 | |
| 「薬理学実習」実習書(分担) | 2020年10月～ | 崇城大学薬学部3年生を対象とした「薬理学実習」の平滑筋作用薬に関する部分の教材を作成した。 | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | |
| なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月(西暦) | 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称 |
| ・Tomato Saponin Esculeoside A and Sapogenol Esculeogenin A Suppress CD4+ T Lymphocyte Activation by Modulation of Th2/Th1/Treg Differentiation. | 共著 | 2022年6月 | Nutrients. 14(10) |

| | | | |
|---|----------------------------|----------|-------------------------------|
| ・ Decrease of Hyaluronidase Activity and Suppression of Mouse CD4+ T Lymphocyte Activation by Tomato Juice Saponin Esculeoside B, and Its Sapogenol Esculeogenin B. | 共著 | 2022年4月 | J Pers Med. 12(4) |
| ・ Different effects on the tonus of colon and ileum isolated from mouse by resin glycoside (pharbitin) of Pharbitidis Semen. | 共著 | 2022年3月 | BMC Complement Med Ther. 22 |
| ・ Suplatast Tosilate Inhibited Nicotinic Single-Channel Currents in the Paratracheal Ganglia Neurons of Rats. | 共著 | 2020年9月 | Austin J Pharmacol Ther. 8(2) |
| ・ Direct Potentiation of Capsaicin Current by Histamine and its Effect by Suplatast on Rat Trigeminal Ganglia Neurons. | 共著 | 2018年5月 | Pharmacology. 102(1-2) |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| ・ マウス大腸がんモデルにおける完熟トマトサポニンEsAの効果 | | 2022年11月 | 第29回日本未病学会学術総会 |
| ・ ケンゴ子の樹脂配糖体画分Pharbitinのマウス腸管運動に及ぼす影響 | | 2023年3月 | 日本薬学会第143年会 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| 2017年3月 | 崇城大学薬学部オープンキャンパス委員担当 | | |
| 2018年3月 | 崇城大学留学生別科委員担当 | | |
| 2019年9月 | 中国桂林市政府、広西師範大学、桂林医学院との国際交流 | | |
| 2017年4月～ | 日本未病（システム）学会 評議員 | | |
| 2017年4月～ | バイオテクノロジー研究推進会 評議員 | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|------|-------------|--|
| 大学名 | 崇城大学 | 講座名 | 分子薬効解析学研究室 |
| 職名 | 准教授 | 氏名 | 牧瀬 正樹 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| ・「卒業論文実習」(6年)の指導(分担) | | 2017年4月～ | 分子薬効解析学研究室に所属する学生の卒業研究を指導した。 |
| ・「薬理学実習」の指導(分担) | | 2017年11月～ | 化学療法薬を作用させた細胞の形態学的変化について発表させた。 |
| ・「細胞生化学I」(2年)の講義 | | 2017年9月～ | 後期必修2単位の講義を行った。 |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| ・「薬理学実習」実習書(分担) | | 2012年9月～ | 「薬理学実習」の化学療法薬に関する部分を作成した(毎年更新)。 |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| 第3回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ | | 2018年1月 | 卒業時における教育の質保証について学んだ。 |
| 第64回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ (薬学教育者ワークショップ) in 九州・熊本 | | 2019年11月 | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | | 単著・ 共著の別 | 発行または発表の 年月(西暦) |
| (論文) Overexpression of the nucleoporin Nup88 stimulates migration and invasion of HeLa cells. | | 共著 | 2021年11月 Histochem. Cell. Biol. 156 |
| (論文) The role of vimentin in the tumor marker Nup88-dependent multinucleated phenotype. | | 共著 | 2018年5月 BMC Cancer 18 |
| 2. 学会発表(評価対象年度のみ) | | 発表年・月 | 学会名 |
| アルツハイマー病モデルマウスにおけるレドックス関連分子の発現解析 | | 2022年11月 | 第39回日本薬学会九州支部大会 |
| III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件) | | | |
| なし | | | |

[注] 1 対象期限: 評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。

- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|-----------------------------|---|----------------------------------|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 衛生化学研究室 | 職名 教授 | 氏名 武知 進士 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 ・ 衛生薬学Ⅲ ・ 公衆衛生学 | 2022年6月8日 2022年1月18日 | 視聴覚資料を利用した講義を行った。(授業評価:4.07) 科目「公衆衛生学」において、視聴覚資料を利用した講義を行った。(授業評価:415) | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 予防薬学としての衛生薬学-健康と環境-第4版(廣川書店) | 2022年6月10日 | 共著(第3章担当)で予防薬学としての衛生薬学-健康と環境-第4版(廣川書店)を出版した。 | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月(西暦) | 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称 |
| (論文) Dihydropyrazine suppresses TLR4-dependent inflammatory responses by blocking MAPK signaling in human hepatoma HepG2 cells | 共著 | 2022年9月 | J. Toxicol. Sci. 47(9) |
| (論文) Molecular mechanism of dihydropyrazine-induced cytotoxicity: the possibility of an independent pathway from the receptor for advanced glycation end products | 共著 | 2021年11月 | J. Toxicol. Sci. 46(11) |
| (論文) The carboxyl-terminal di-lysine motif is essential for catalytic activity of UDP-glucuronosyltransferase 1A9 | 共著 | 2020年10月 | Drug Metab. Pharmacokinet. 35(5) |
| (論文) The effect of dihydropyrazines on lipopolysaccharide-stimulated human hepatoma HepG2 cells via regulating the TLR4-MyD88-mediated NF- κ B signaling pathway | 共著 | 2020年7月 | J. Toxicol. Sci. 45(7) |
| (論文) β -Naphthoflavone, an exogenous ligand of aryl hydrocarbon receptor, disrupts zinc homeostasis in human hepatoma | 共著 | 2019年10月 | J. Toxicol. Sci. 44(10) |
| 2. 学会発表(評価対象年度のみ) | | 発表年・月 | 学会名 |

| | | |
|---|------------------------|---------------------------------|
| (演題名) 糖化産物ジヒドロピラジン類による小胞体ストレス応答 | 2022年9月 | フォーラム2022 衛生薬学・環境 トキシコロジー |
| (演題名) 糖化産物ジヒドロピラジン類による小胞体ストレス応答 | 2022年9月 | フォーラム2022 衛生薬学・環境 トキシコロジー |
| (演題名) ジヒドロピラジンによる TLR4 ネガティブフィードバック機構の制御 | 2022年9月 | フォーラム2022 衛生薬学・環境 トキシコロジー |
| (演題名) 糖化産物 dihydropyrazine による TLR4 経路のネガティブフィードバック機構に対する影響 | 2022年3月 | 日本薬学会第 142年会 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件) | | |
| 2011年4月～現在 | 薬剤師国家試験問題検討委員会委員(衛生部会) | |
| 2011年4月～現在 | 日本薬学会環境・衛生部会拡大会議委員 | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください(年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|--|-------------|---|---|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 衛生化学研究室 | 講師 | 宮内 優 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| 講義担当 環境衛生化学 (3年後期) 基礎科学英語 (3年後期後半、分担) | 2020年4月～ | 衛生薬学領域の講義 (多様な化学物質による生体への 毒性およびその予防法) 科学に必要な英文読解力の指導 | |
| 衛生薬学実習指導 (3年後期集中、分担) | 2020年4月～ | 実験技術の指導および関連する衛 生薬学領域の解説 | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| 講義資料 (環境衛生化学・基礎科学英語) | 2020年4月～ | 講義資料を作成し、WebClassに掲 示もしくは一部を印刷・配布し た。 | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | |
| FD講演会 | 2022年12月9日 | 環境衛生化学の講義をFD講演とし て他の教員に公開した。 | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| 令和3年度ベストティーチング賞 | 2022年7月29日 | 令和3年度の「環境衛生化学」の 講義で受賞した | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行または発表の 年月 (西暦) | 発行所、発表雑 誌 (巻・号 数) 等の名称 |
| Protein-Protein Interactions as Underlying Regulatory Mechanisms of Drug-metabolizing Enzyme Function. (タンパク質間相互作用による 薬物代謝酵素の制御機構) | 単著 | 2022年11月 | Yakugaku Zasshi, 142(11): 1169- 1175 |
| Dihydropyrazine suppresses TLR4-dependent inflammatory responses by blocking MAPK signaling in human hepatoma HepG2 cells. | 共著 | 2022年9月 | J. Toxicol. Sci., 47(9): 381-387 |
| Use of a baculovirus-mammalian cell expression-system for expression of drug- metabolizing enzymes: optimization of infection with a focus on cytochrome P450 3A4. | 共著 | 2022年2月 | Front. Pharmacol., 13: 832931 |
| Molecular mechanism of dihydropyrazine- induced cytotoxicity: the possibility of an independent pathway from the receptor for advanced glycation end products. | 共著 | 2021年11月 | J. Toxicol. Sci., 46(11): 509-514 |

| | | | |
|---|---------------------|-----------|---------------------------------------|
| Functional interaction between cytochrome P450 and UDP-glucuronosyltransferase on the endoplasmic reticulum membrane: one of post-translational factors which possibly contributes to their inter-individual differences. | 共著 | 2021年11月 | Biol. Pharm. Bull., 44(11): 1635-1644 |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| UDP-グルクロン酸抱合酵素との相互作用によるシトクロムP450機能の抑制 | | 2022年12月 | 内外環境応答・代謝酵素研究会 |
| Functional interactions between different drug-metabolizing enzymes: a novel approach for variance in CYP3A4 activity | | 2022年11月 | 日本薬物動態学会 |
| Application of antioxidants in dihydropyrazine-induced oxidative stress | | 2022年11月 | 日本薬物動態学会 |
| 糖化産物ジヒドロピラジンによる細胞障害の機構解明：抗酸化物質を用いた毒性軽減作用の検討 | | 2022年8月 | フォーラム2022 衛生薬学・環境トキシコロジー |
| シトクロムP450とUDP-グルクロン酸転移酵素のタンパク質間相互作用と機能変動：ドキシサイクリン誘導発現系の構築 | | 2022年6-7月 | 日本毒性学会 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| 2020年4月1日 | 日本薬学会ファルマシアトピックス小委員 | | |
| 2022年12月1日 | 日本毒性学会教育委員会小委員会 委員 | | |
| 2022年12月4日 | 内外環境応答・代謝酵素研究会 座長 | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|-----------------------------|------|---------------|--|
| 大学名 | 崇城大学 | 講座名 | 環境分析学研究室 |
| 職名 | 教授 | 氏名 | 原武 衛 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| 衛生化学実習Aおよび衛生化学実習B(必修) | | 2014年度～ 現在 | 薬学部3年生を対象とした「衛生化学実習」を担当した。 |
| 衛生薬学 I (必修) | | 2014年度～ 現在 | 薬学部1年生を対象とした本講義科目(全15コマ)を担当し、「栄養素と健康」に関連する内容を教授した。 |
| 衛生薬学II(必修) | | 2014年度～ 現在 | 薬学部2年生を対象とした本講義科目(全15コマ)の8コマを担当し、「生活環境中の化学物質と発がん」に関する内容を教授した。 |
| 放射薬品学(必修) | | 2014年度～ 現在 | 薬学部3年生を対象とした本講義科目(全8コマ)を担当し、「放射性医薬品」、「画像診断」に関する内容を教授した。 |
| 薬学概論(必修) | | 2018年度～ 現在 | 薬学部1年生を対象とした本講義科目(全8コマ)の1コマを担当し、「医薬品開発」の流れと実際を教授した。 |
| 薬学英語(必修) | | 2018年度～ 現在 | 薬学部4年生を対象とした本講義科目(全8コマ)の3コマを担当し、「服薬指導」に用いられる英語の語彙や文句を教授した。 |
| 実用薬学英語(選択) | | 2022年度 | 薬学部5年生を対象とした本講義科目(全8コマ)を担当し、薬学英語のSpeakingを中心に教授した。 |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| 衛生化学実習 実習書 | | 2014年度～ 現在 | 薬学部3年生を対象とした「衛生化学実習」の実習書を作成した。 |
| 放射薬品学 教科書 | | 2015年 | 薬学部3年生を対象とした「放射薬品学」の教科書を分担執筆した。 |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | |
| 講義形式の授業における形成的評価とフィードバックの実践 | | | 学生の講義内容に対する理解度を計るため、講義の始めに形成的評価を実施し、理解が不十分であった点を学生にフィードバックし再度説明を加えた。 |

| | | | |
|--|--|--------------------|--|
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行または発表の 年月（西暦） | 発行所、発表雑 誌（巻・号数） 等の名称 |
| （論文）Peptidyl-prolyl cis-trans isomerase A participates in the selenium transport into the rat brain | 共著 | 2021年12月 | Springer Nature, Journal of Biological Inorganic Chemistry, Vol. 26 |
| （論文）Acid-responsive HPMA copolymer-bradykinin conjugate enhances tumor-targeted delivery of nanomedicine | 共著 | 2021年9月 | Elsevier B.V., Journal of Controlled Release, Vol. 337 |
| （論文）Discovery of inner centromere protein-derived small peptides for cancer imaging and treatment targeting survivin | 共著 | 2020年4月 | Wiley Online Library, Cancer Science, Vol. 111 |
| （論文）In vitro assessment of bioavailability of selenium in Niboshi processed from Japanese anchovy | 共著 | 2018年12月 | Elsevier B.V., Food Chemistry, Vol. 269 |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| （演題名）抗がん剤の腫瘍集積を増強するポリマー結合型レトロインバーソブラジキニンの創製 | | 2022年11月 | 第39回日本薬学会九州山口支部大会 |
| （演題名）カツオだし由来必須微量栄養素セレンの分離分析 | | 2022年11月 | 第39回日本薬学会九州山口支部大会 |
| （演題名）心臓のセレン代謝過程におけるミオグロビンの機能解明 | | 2022年8月 | フォーラム2022: 衛生薬学・環境ト キシコロジー |
| （演題名）Detection of peptidyl-prolyl <i>cis-trans</i> isomerase A as a selenotrisulfide reactive protein in rat brain | | 2022年7月 | The 8th International Symposium on Metalloomics |
| （演題名）pH応答性ポリマー結合型ブラジキニンによる高分子生抗がん剤の腫瘍集積生増強効果 | | 2022年6月 | 第38回日本DDS 学会学術集会 |
| III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| 2022年7月 | The 8th International Symposium on Metalloomics 組織委員 | | |

| | |
|---------------|--|
| 2014年1月～現在に至る | 金属の関与する生体関連反応シンポジウム 評議員 |
| 2008年1月～現在に至る | Journal of Bioactive and Compatible Polymers誌 共同編集委員 |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|---------|----------------|--|
| 大学名 | 崇城大学 | 講座名 | 環境分析学研究室 |
| 職名 | 准教授 | 氏名 | 中村秀明 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| 衛生化学実習 実習中に得られたデータに対して口頭試問をすることで、得られた数値に対する理解度の向上を図った。 | | 2018年～ | 地球生態系や生活環境を保全，維持できるようになるために，環境汚染物質などの成因，測定法，生体への影響，汚染防止，汚染除去などに関する基本的事項を修得するための実習を行った。 |
| 衛生薬学Ⅱ 講義の実施に先立ち講義資料をWebクラスへ提示することで、事前学習を促し講義の理解度の向上を図った。 講義の理解度を測るため、レポート課題を課し次の講義時に復習を行った。 | | 2021年～ | 食生活が健康に与える影響を科学的に理解するために、栄養と食品機能、食品衛生に関する基本的事項の講義を行った。 |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| 「衛生化学実習」実習書の作成 | | 2018年～ | 3年次開講「衛生化学実習」の実習テキストを作成した。 |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| 文部科学省大学推薦国費留学生(MEXT)の受け入れ | | 2018～ | 大学院薬学研究科博士課程の国費留学生を受け入れ、研究指導を行った。 |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月(西暦) | 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称 |
| The G protein-coupled receptor ligand apelin-13 ameliorates skeletal muscle atrophy induced by chronic kidney disease | 共著 | in press | Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle |
| Acid-responsive HPMA copolymer-bradykinin conjugate enhances tumor-targeted delivery of nanomedicine. | 共著 | 2021, 9月 | J Control Release. 10:337 |
| De novo filament formation by human hair keratins K85 and K35 follows a filament development pattern distinct from cytokeratin filament networks. | 共著 | 2021, 5月 | FEBS Open Bio. :11(5) |

| | | | |
|--|------------------------------|----------|------------------------|
| Preparation of Enzymatically Highly Active Pegylated-D-Amino Acid Oxidase and Its Application to Antitumor Therapy. | 共著 | 2021 | Curr Drug Deliv.;18(8) |
| Treatment with Polyethylene Glycol-Conjugated Fungal D-Amino Acid Oxidase Reduces Lung Inflammation in a Mouse Model of Chronic Granulomatous Disease. | 共著 | 2022, 8月 | Inflammation.; 45(4) |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| pH応答性ポリマー結合型ブラジキニンによる高分子性抗がん剤の腫瘍集積増強作用 | | 2022年6月 | 日本DDS学会 |
| 抗がん剤の腫瘍集積を増強するポリマー結合型レトロインバーソブラジキニンの創製 | | 2022年11月 | 日本薬学会九州山口支部 |
| 抗がん剤の腫瘍集積増強を企図したポリマー結合型レトロインバーソブラジキニンの合成 | | 2023年3月 | 日本薬学会九州山口支部 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| 2018年～ | 日本癌学会 一般会員 | | |
| 2018年～ | 日本DDS学会 一般会員 | | |
| 2018年～ | 日本薬学会一般会員 | | |
| 2018年～ | 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ タスクフォース | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|-------------|-------------------|---|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 物理化学研究室 | 職名 教授 | 氏名 下野和実 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年前期「薬学基礎化学」(分担) 「薬学基礎化学演習」(分担) | | 2018年度 ~2022年度 | <p>授業終了後には知識の確認定着のために、毎回確認テストを行っている。学生の効率の良い学習のために、2020年度から授業動画を配信し、復習に役立てるようにしている。2021年度からは、前年度授業動画を再編集、配信し、予習できるようにしている。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年後期「物理化学Ⅰ」 | | 2018年度 ~2022年度 | <p>演習書の基本問題を宿題とし予習を義務づけている。また、授業中に演習書応用問題を解答する時間を設け、主体的な学習を促している。さらに、授業終了後には知識の確認定着のために、毎回確認テストを行っている。また、学生のコンピテンシー能力をあげるために、薬学以外の話題としてノーベル賞の受賞した自然科学三賞のテーマについて簡単な解説を行っている。さらに、学生の効率の良い学習のために、2020年度から授業動画を配信し、復習に役立てるようにしている。2021年度からは、前年度授業動画を再編集、配信し、予習できるようにしている。</p> |

| | | |
|--|------------------------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 年前期「物理化学Ⅱ」 ・ 2 年後期「物理化学Ⅲ」 | 2018年度 ～2022年度 | 1～5人のグループワークを主体とした反転授業を実施している。演習書の基本問題、応用問題をグループに割り振り宿題とし予習を義務づけている。また、授業終了後には知識の確認定着のために、毎回確認テストを行った。さらに、2021年度から問題発見能力を醸成するために、担当グループを割り振り、当該学習項目に関して授業当日に行う演習問題を作成させている。さらに、学生の効率の良い学習のために、2020年度から授業動画を配信し、復習に役立てるようにしている。2021年度からは、前年度授業動画のうち演習問題解答解説を含まない学習のポイントのみに再編集し、配信して、予習できるようにしている。 |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療系のための物理化学改訂第3版（三恵社） | 2018年8月30日 | 第12章「化学平衡」共役反応に関する部分の執筆、全体的な改訂作業を共同執筆者である宮本秀一本学薬学部教授（当時）と共同で行った。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療系のための物理化学改訂第4版（三恵社） | 2021年9月30日 | 全体的な改訂作業を共同執筆者である宮本秀一本学薬学部教授（当時）と共同で行った。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療系のための物理化学演習（三恵社） | 2019年度 ～2022年度 | 第1章～第6章（全21章）を分担執筆した。本演習書は毎年度改訂している。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 分析・物理化学実習 実習書 | 2018年度 ～2022年度 | 物理化学実習「相平衡」（2018年度～2022年度）、「分配平衡」（2021, 22年度）、「反応速度」（2022年度）を執筆した。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬学基礎化学演習基礎実習 実習書 | 2018, 19, 21, 22 年度 | 「薬学基礎化学演習」の授業内に行う基礎実習における実習書「基礎実験1：溶液の調製および吸光度の測定」を執筆した。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義資料 | 2018年度 ～2022年度 | 2018, 19年度「薬学基礎化学」「物理化学Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ」の講義スライドを毎授業毎に印刷し配布した。2020年度以降は、学内e-Learningシステム（WebClass）に授業前日に掲載するとともに、「物理化学Ⅰ」は講義全資料が掲載された冊子体を配布し、「物理化学Ⅱ, Ⅲ」は学習のポイントを掲載した冊子体を配布した。 |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | |
| なし | | |

| | | | |
|---|---------|--|--|
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| ・体験講義 | 2022年3月 | 大学訪問で訪れた熊本県立第二高校の1年生8名に対し、「くすりの運命をコントロールする!」とのタイトルで模擬講義を行った。 | |
| | 2019年8月 | オープンキャンパスにおいて「新しい“くすり”をどうやって創るか」とのタイトルで2回、模擬講義を行った。 | |
| ・出張講義 | 2019年7月 | 鹿児島県立加治木高校へ訪問し、2年生25名に対し、「タンパク質の形を利用して薬を創る」とのタイトルで模擬講義を行った。□ | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月(西暦) | 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称 |
| (論文) Production of a Light-Gated Proton Channel by Replacing the Retinal Chromophore with Its Synthetic Vinylene Derivative | 共著 | 2018年6月 | American Chemical Society, Journal of Physical Chemistry Letters, 9 (11) |
| (論文) Transport of 2,4-dichloro phenoxyacetic acid by human Na ⁺ -coupled monocarboxylate transporter 1 (hSMCT1, SLC5A8) | 共著 | 2019年2月 | 日本薬物動態学会、Drug Metabolism and Pharmacokinetics, 34 (1) |
| (論文) Molecular Modeling to Estimate the Diffusion Coefficients of Drugs and Other Small Molecules | 共著 | 2020年11月 | Multidisciplinary Digital Publishing Institute, Molecules, 25 (22) |
| (論文) Protonation state of a histidine residue in human oligopeptide transporter 1 (hPEPT1) | 共著 | 2021年5月 | 日本薬学会、Biological and Pharmaceutical Bulletin, 44 (59) |
| (論文) Estimation of the Diffusion Coefficients of Small Molecules by Diffusion Measurements with Agar-gel and Theoretical Molecular Modeling | 共著 | 2022年4月 | 情報計算化学生物学会(CBI学会) Chem-Bio Informatics Journal, 22 |
| 2. 学会発表(評価対象年度のみ) | | 発表年・月 | 学会名 |

| | | |
|-----------------------------------|-----------------------|-----------------------|
| D体-アミノ酸の腎尿細管 再吸収に関わる新たな輸送担体 | 2022年10月 | 第43回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | |
| 2019年4月～2022年11月 | 第19回レチナール蛋白質国際会議組織委員 | |
| 2019年10月～現在 | 生体膜と薬物の相互作用シンポジウム運営委員 | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|--|-------------|------------------|---|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 分析化学研究室 | 職名 准教授 | 氏名 岡崎祥子 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| 「機器分析学」の講義指導における工夫（学生に復習を促し、理解を深めさせる） | | 平成30年4月～令和4年7月 | 毎年薬学部2年生を対象とした「機器分析学」（必修2単位）の講義において、理解が深まるように演習問題集をWeb classで公開し、毎週小テストを行うことで、各自が理解の度合いを確認できるようにした。 |
| 「分析化学I」の講義指導における工夫（学生に復習を促し、理解を深めさせる）□ | | 令和4年9月～令和5年1月 | 薬学部1年生を対象とした「分析化学I」（必修2単位）の講義において、理解が深まるように演習問題集をWeb classで公開し、毎週小テストを行うことで、各自が理解の度合いを確認できるようにした。 |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| 学内における「分析・物理化学実習」の実習書の作成（分担） | | 平成30年4月～令和4年6月 | 滴定法や紫外可視吸光度法、クロマトグラフィーに関して実習の目的、方法、解析法などを記載した分析化学実習の実習書を作成した。（毎年更新） |
| 学内における「機器分析学」の演習問題集の作成 | | 平成30年4月～令和4年7月 | 「機器分析学」の講義内容を復習できるような演習問題集を作成した。（毎年更新） |
| アップデート 薬学機器分析学（分担） | | 令和2年3月 | 超音波診断法、核磁気共鳴画像診断法、電子スピン共鳴法について執筆した。 |
| 学内における「分析化学I」の講義テキストの作成 | | 令和4年度9月 | 各種平衡反応、pHの求め方、分光分析の基礎などについて講義に即したテキストを作成した。 |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| 日本薬学会第4回若手薬学教育者のためのアドバンスワークショップ参加 | | 2018年10月6日～10月8日 | 教育FD活動として、薬学における教育の質保証について学んだ |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月（西暦） | 発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称 |

| | | | |
|--|-----------------------------------|----------|---|
| In vivo ESR imaging of redox status in mice after X-ray irradiation, measured by acyl-protected hydroxylamine probe, ACP | 共著 | 2020年11月 | Free Rad. Biol. Med. 160 |
| Differences in pharmacokinetic behaviors of two lipophilic 3 - substituted 2, 2, 5, 5 - tetramethylpyrrolidine - N - oxyl radicals, in vivo probes to assess the redox status in the brain using magnetic resonance techniques | 共著 | 2021年9月 | Magn. Reson. in Med. 85 |
| Radical reactions induced by ketoprofen in phospholipid membranes under ultraviolet light irradiation | 共著 | 2021年1月 | J. Photochem. Photobiol. B: Biology 214 |
| The preparation and validation of chitosan tablets that rapidly disperse and disintegrate as an oral adsorbent in the treatment of lifestyle-related diseases | 共著 | 2021年2月 | Carbohydr. Polym. 253 |
| Protective effects of 2-aminoethylthiosulfuric acid and structurally analogous organosulfur compounds against ionizing radiation | 共著 | 2022年 | J. Clin. Biochem. Nutr. in press |
| 2. 学会発表 (評価対象年度のみ) | | 発表年・月 | 学会名 |
| リポソーム膜崩壊実験系の構築とケトプロフェンによる脂質膜障害の検討 | | 2022年5月 | 第75回日本酸化ストレス学会学術集会 |
| ニトロキシルラジカルと電子スピン共鳴を利用した酸化ストレス関与疾患のメカニズム解析 | | 2022年11月 | 第39回日本薬学会九州山口支部大会 |
| TEMPOLによるビタミンK3の細胞毒性増強効果の検討 | | 2022年12月 | 第61回電子スピンサイエンス学会年会 |
| 紫外線が惹起するケトプロフェンのラジカル反応と脂質膜に及ぼす影響 | | 2022年12月 | 第61回電子スピンサイエンス学会年会 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件) | | | |
| 令和元年12月～現在 | 電子スピンサイエンス学会会誌「電子スピンサイエンス」編集委員 | | |
| 令和4年11月 | 第39回日本薬学会九州山口支部大会 学術奨励賞受賞 | | |
| 令和4年12月 | 第61回電子スピンサイエンス学会年会 (SEST2022) 事務局 | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|-------------|----------------|---|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 分析化学研究室 | 職名 助教 | 氏名 太田悠平 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 なし | | | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| 分析化学II講義テキスト(後半) 2022 年度 | | 2022年4月 | 分析化学IIの講義テキスト(後半)を作成した。クロマトグラフィーを中心に、電気泳動、免疫アッセイなどの内容が含まれる。 |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月(西暦) | 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称 |
| (論文)Protective effects of 2-aminoethylthiosulfuric acid and structurally analogous organosulfur compounds against ionizing radiation | 共著 | 2022年 | Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition in press |
| (論文)Synthesis of fluorescence probes targeting tumor-suppressor protein FHIT and identification of apoptosis-inducing FHIT inhibitors | 共著 | 2021年6月 | J. Med. Chem., 64 |
| (論文)Synthesis of artificial substrate based on inhibitor for detecting LSD1 activity | 共著 | 2020年2月 | J. Clin. Biochem. Nutr., 67 |
| (論文)Ratiometric assay of CARM1 activity using a FRET-based fluorescent probe | 共著 | 2019年11月 | Bioorg. Med. Chem. Lett., 29 |
| 2. 学会発表(評価対象年度のみ) | | 発表年・月 | 学会名 |
| 光増感剤とMRI造影剤を結合させたdextranの開発と機能評価 | | 2022年12月 | 電子スピンスイエンス学会 |
| III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件) | | | |
| 日本薬学会会員 | | | |

| | |
|--|----------------|
| | 生体機能関連化学部会会員 |
| | 電子スピンスイエンス学会会員 |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|------|------------|---|
| 大学名 | 崇城大学 | 講座名 | 薬物動態学研究室 |
| 職名 | | 氏名 | 山崎 啓之 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義資料・講義方法の調整 ・ 「薬物動態学Ⅰ」、「薬物投与設計学」の講義指導（分担） | | 2019年4月～ | アンケートの結果（理解度や満足度など）やコメントをもとに、スライド1枚当たりの情報量、フォントサイズ、さらに話し方（スピード）などを毎年調整している。 |
| | | 2019年4月～ | 本講義では、臨床事例を多く紹介しながら講義の理解を促している。例えば、現場の薬剤師による講義で、薬剤師業務における薬物動態学の重要性について伝えている。また、「ジゴキシンの過量投与」事例などについて、薬剤師としてのとるべきだった対応を考えさせ、レポートを提出させている。 |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習問題 ・ 実習テキスト ・ 講義動画 | | 2019年4月～ | 「薬物動態学Ⅰ」、「薬物投与設計学」、「製剤・薬剤学実習」、「日本薬局方概論」の講義復習用に理解度を確認する問題を作成した。本問題には、毎年若干の改訂を加えている。 |
| | | 2019年10月～ | 3年生を対象とする「製剤・薬剤学実習」の薬剤学領域のテキストの立案と執筆を行った。本書は、毎年若干の改訂を加えている。 |
| | | 2020年5月～ | 「薬学概論」、「薬物動態学Ⅰ」、「薬物投与設計学」、「製剤・薬剤学実習」、「日本薬局方概論」の講義動画を撮影し公開した。本動画は、復習用教材として利用されている。 |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神科臨床に貢献する薬剤師の育成 ～大学教員の立場から～（第31回日本医療薬学会シンポジスト） | | 2021年10月9日 | 大学における精神科領域の教育内容と課題を崇城大学の例を挙げながら解説した。 |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |

| | | |
|--|-----------|---|
| ・ディプロマポリシー（DP）の作成、カリキュラム改訂、アセスメント方法の構築への関与 | 2022年6月～ | 時代に即したDPの作成に向け、DP見直しの必要性を教員に説明するとともに、教員の意見を取り入れたDPを作成した。さらに、新たなDPに基づいて、カリキュラム改訂作業を主導した。併せて、教育改善・学生の成長確認に資するアセスメント方法を検討した。 |
| ・ハラスメント防止研修会の企画 | 2022年9月7日 | 薬学部におけるハラスメント防止の意識向上を目的として研修会を企画した。 |

II 研究活動

| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月（西暦） | 発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称 |
|---|---------|----------------|----------------------------------|
| （著書）コンパス生物薬剤学【改訂第3版】 | 共著 | 2021年2月 | 南江堂 |
| （論文）Enhanced dissolution and oral bioavailability of praziquantel by emulsification with human serum albumin followed by spray drying. | 共著 | 2019年11月 | Eur J Pharm Sci. Vol. 139 105064 |
| （論文）Processing grapefruit juice with γ -cyclodextrin attenuates its inhibitory effect on cytochrome P450 3A activity. | 共著 | 2020年3月 | J Pharm Pharmacol. Vol. 72 No. 3 |
| （論文）Interaction of benzbromarone with subdomains IIIA and IB/IIA on human serum albumin as the primary and secondary binding regions. | 共著 | 2021年3月 | Mol Pharm. Vol. 18 No. 3 |
| （論文）An in vitro comparative study of the binding of caspofungin and micafungin to plasma proteins. | 共著 | 2022年1月 | J Pharm Pharmacol. Vol. 74 No. 1 |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| （演題名）Masking the foul taste of 4-phenylbutyrate to improve compliance: the case of cyclodextrin complexation | | 2022年5月 | 日本薬剤学会第37年会 |
| （演題名）アルブミン結合能を利用した脂肪酸修飾ピラルビシン封入リポソームの調製と評価 | | 2022年6月 | 第38回日本DDS学会学術集会 |
| （演題名）ナファモスタットメシル酸塩由来の沈殿物生成に及ぼす各種電解質の影響 | | 2022年9月 | 第81回九州山口薬学大会 |
| （演題名）Effects of myristate on the induced circular dichroism spectra of aripiprazole bound to human serum albumin: A structural-chemical investigation | | 2022年11月 | 日本薬物動態学会第37回年会 |
| （演題名）7-Phenyl heptanoic acid ameliorates chronic kidney disease through the suppression of indoxyl sulfate production. | | 2022年11月 | 第39回日本薬学会九州山口支部大会 |

III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）

| | |
|-----------------|-----------------------|
| 2008年6月～2020年6月 | 熊本県薬剤師会 生涯学習委員会 委員 |
| 2014年6月～2020年6月 | 熊本県薬剤師会 地域医療・薬局委員会 委員 |
| 2014年6月～2020年6月 | 熊本県薬剤師会 理事 |
| 2018年4月～現在 | 熊本県感染管理ネットワーク運営委員 |
| 2018年4月～現在 | 熊本県院内対策研究会世話人 |

| | |
|-----------------|-----------------------|
| 2018年4月～現在 | 熊本県薬剤師会 学術倫理審査会 委員 |
| 2020年4月～2022年3月 | 日本薬学会九州山口支部 幹事 |
| 2020年4月～現在 | 日本薬剤学会 代議員 |
| 2022年4月～現在 | 熊本県後発医薬品安心使用・啓発協議会 委員 |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|--|---------------------|--|----------------------------|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 薬物動態研究室 | 職名 准教授 | 氏名 西 弘二 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 薬物動態学の講義 | 2018年4月～ 2022年3月 | 学生の講義アンケート等を踏まえ、資料の中でアニメーションを多く取り入れイメージの理解に工夫を取り入れた。また演習問題を多く加えることで理解度の確認を実践させた。さらに、現場の薬剤師の先生に、特別講義を行ってもらうことで、薬剤師業務における本講義の重要性について理解させた。 | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 なし | | | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行または発表の 年月（西暦） | 発行所、発表雑誌 （巻・号 数）等の名称 |
| Glutamine Deprivation Enhances Acetyl-CoA Carboxylase Inhibitor-induced Death of Human Pancreatic Cancer Cells. | 共著 | 2018年12月 | Anticancer Res. ;38(12) |
| Effects of Uremic Toxins on the Binding of Aripiprazole to Human Serum Albumin. | 共著 | 2021年3月 | Biol Pharm Bull. ;44(3) |
| The Nitrated Form of Nateglinide Induces Apoptosis in Human Pancreatic Cancer Cells Through a Caspase-dependent Mechanism. | 共著 | 2022年3月 | Anticancer Res. ;42(3) |
| Effect of Fatty Acids and Uremic Toxins on the Binding of Nateglinide, an Insulin Secretagogue, to Site II on Human Serum Albumin. | 共著 | 2022年6月 | Biol Pharm Bull. ;45(6) |
| Novel nitric oxide donor, nitrated phenylbutyrate, induces cell death of human pancreatic cancer cells and suppresses tumor growth of cancer xenografts. | 共著 | 2022年10月 | Oncol Rep. ;48(4) |

| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | 発表年・月 | 学会名 |
|---|---------------|-------------------|
| Masking the foul taste of 4-phenylbutyrate to improve compliance: the case of cyclodextrin complexation | 2022/5/26-28 | 日本薬剤学会第37年会 |
| アルブミン結合能を利用した脂肪酸修飾ピラルビシン封入りリポソームの調製と評価 | 2022/6/29-30 | 第38回日本DDS学会学術集会 |
| 酸性環境応答性アルブミン結合型抗がん剤放出性と抗腫瘍効果 | 2022/6/29-30 | 第38回日本DDS学会学術集会 |
| ナファモスタットメシル酸塩由来の沈殿物生成に及ぼす各種電解質の影響 | 2022/9/18-19 | 第81回九州山口薬学大会 |
| アルブミンを利用した脂肪酸修飾ピラルビシンナノ粒子の調製とリポソームへの応用 | 2022/11/19-20 | 第39回日本薬学会九州山口支部大会 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | |
| なし | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|--------------|---|---|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 薬物動態学研究室 | 職名 講師 | 氏名 月川健士 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 製剤・薬剤学実習 (分担) | 2020年4月～ | 薬物速度論に関する各実験手法や解析方法などについて指導を行っている。 | |
| 総合薬学研究 I、II (分担) | 2020年4月～ | 薬物動態学研究室・DDS研究所配属学生の卒業研究の指導を行っている。卒業研究を通して、問題解決能力やプレゼンテーション能力などを養うことができるよう指導に取り組んでいる。 | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 製剤・薬剤学実習テキスト (薬剤学領域) | 2020年4月～ | 実習テキストの改訂 | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月 (西暦) | 発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称 |
| Synthesis and In Vitro Assessment of pH-Sensitive Human Serum Albumin Conjugates of Pirarubicin | 共著 | 2021年1月 | Pharmaceuticals, 14(1) |
| Possible role of electrolytes on the formation of precipitates during the infusion of nafamostat mesilate in hemodialysis | 共著 | 2021年2月 | Biological and Pharmaceutical Bulletin, 44(2) |
| An in vitro comparative study of the binding of caspofungin and micafungin to plasma proteins | 共著 | 2022年1月 | Journal of Pharmacy and Pharmacology, 74(1) |
| The Nitrated Form of Nateglinide Induces Apoptosis in Human Pancreatic Cancer Cells Through a Caspase-dependent Mechanism | 共著 | 2022年3月 | Anticancer Research, 42(3) |
| Effect of Fatty Acids and Uremic Toxins on the binding of Nateglinide, an Insulin Secretagogue, to Site II on Human Serum Albumin | 共著 | 2022年6月 | Biological and Pharmaceutical Bulletin, 45(6) |

| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | 発表年・月 | 学会名 |
|--|------------|-------------------|
| Masking the foul taste of 4-phenylbutyrate to improve compliance: the case of cyclodextrin complexation | 2022年5月 | 日本薬剤学会第37年会 |
| 酸性環境応答性アルブミン結合型抗がん剤放出性と抗腫瘍効果 | 2022年6月 | 第38回日本DDS学会学術集会 |
| アルブミン結合能を利用した脂肪酸修飾ピラルビシン封入りポソームの調製と評価 | 2022年6月 | 第38回日本DDS学会学術集会 |
| 7-phenyl heptanoic acid ameliorates chronic kidney disease through the suppression of indoxyl sulfate production | 2022年11月 | 第39回日本薬学会九州山口支部大会 |
| アルブミンを利用した脂肪酸修飾ピラルビシンナノ粒子の調製とリポソームへの応用 | 2022年11月 | 第39回日本薬学会九州山口支部大会 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | |
| 2010年4月～ | 日本DDS学会会員 | |
| 2010年4月～ | 日本癌学会会員 | |
| 2015年4月～ | 日本薬剤学会会員 | |
| 2016年9月～ | 日本薬物動態学会会員 | |
| 2017年2月～ | 日本薬学会会員 | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|------------------|------|----------|---|
| 大学名 | 崇城大学 | 講座名 | 製剤学研究室 |
| 職名 | 教授 | 氏名 | 安樂 誠 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | 2017年4月～ | |
| ・ 製剤学 I | | 2017年4月～ | 薬学部3年生に製剤学の基本的知識について講義を行った。 |
| ・ 製剤学 III | | 2017年4月～ | 薬学部4年生に製剤学の基本的知識と応用について講義を行った。2017年度にベストティーチング賞を受賞した。 |
| ・ 日本薬局方概論 | | 2017年4月～ | 薬学部4年生に局方の基本的知識と応用について講義を行った。 |
| ・ 総合薬学研究 I | | 2017年4月～ | 薬学部4年生に製剤学の基本的な知識と技術について講義と実習を行った。 |
| ・ 製剤設計学 (選択必修☆) | | 2017年4月～ | 薬学部4年生に製剤学の技術と応用について講義と実習を行った。 |
| ・ 病院実務実習・薬局実務実習 | | 2017年4月～ | 病院・薬局を訪問し、担当薬剤師および学生(5年生)と面談し、実習について意見交換した。 |
| ・ 早期体験学習 | | 2017年4月～ | 薬学部1年生に早期体験学習の理論とスキルについて講義を行った。 |
| ・ 製剤・薬剤学実習 A | | 2017年4月～ | 薬学部3年生にシクロデキストリンによる溶解性改善等について講義と実習を行った。 |
| ・ 特別実験 | | 2017年4月～ | 大学院生にキトサンに関する臨床応用について研究指導を行った。 |
| ・ DDS特論 | | 2017年4月～ | 大学院生にDDSに関する臨床応用について研究指導を行った。 |
| ・ 薬物治療設計学 I | | 2017年4月～ | 大学院生に薬物動態について講義と演習を行った。 |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| 最新製剤学第4版 | | 2017年4月～ | 製剤の溶解速度論及び剤形論に関する項目について、教科書作成を行った。 |
| 製剤学実習書 | | 2017年4月～ | 製剤の溶解速度論及び剤形論に関する項目について、実習書作成を行った。 |

| | | | |
|---|---------------------|------------------------|--|
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | |
| 第22回FDer錬成会での発表 | | 2018年4月25日 | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| FD委員 | 2017年4月～ 2021年3月 | FD委員として教育活動の推進・普及に努めた。 | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行または発表の 年月（西暦） | 発行所、発表雑誌 （巻・号 数）等の名称 |
| Value-Addition in Agri-Food Industry Waste Through Enzyme Technology, Chapter 11, Editor: P. Ramteke | 共著 | 2023年1月 | ELSEVIER社 |
| The preparation and validation of chitosan tablets that rapidly disperse and disintegrate as an oral adsorbent in the treatment of lifestyle-related diseases | 共著 | 2021年2月 | Carbohydr Polym. 2021, 253:117246. |
| Effects of surface-deacetylated chitin nanofibers on non-alcoholic steatohepatitis model rats and their gut microbiota | 共著 | 2020年12月 | Int J Biol Macromol. 2020, 164:659-66. |
| Preparation and evaluation of freeze dried surface-deacetylated chitin nanofiber/sacran pellets for use as an extended-release excipient | 共著 | 2019年3月 | Int J Biol Macromol. 2019, 124:888-894 |
| Antioxidant activities of chitosans and its derivatives in in vitro and in vivo studies | 共著 | 2018年11月 | Carbohydr Polym. 2018, 199:141-9 |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| The preparation and validation of chitosan tablets that rapidly disperse and disintegrate as an oral adsorbent in the treatment of lifestyle-related diseases | 共著 | 2022年7月 | APA BIOFORUM-2022 |
| 生活習慣病予防を目的とした高い分散性及び崩壊性を有する造粒キトサン錠の調製と評価 | 共著 | 2021年5月 | 日本薬剤学会第36年会 |
| 非アルコール性脂肪肝炎（NASH）モデルラットに対する表面脱アセチル化キチンナノファイバーの腸内細菌叢への影響及び肝保護効果 | 共著 | 2020年8月 | 第34回日本キチン・キトサン学会大会 |
| Biomedical Application of Surface-Deacetylated Chitin Nanofibers on Oxidative Stress Related Diseases | 共著 | 2019年10月 | AFPS-2019 |
| Clinical Applications of Chitosan and Surface-deacetylated Chitin Nanofibers on Oxidative Stress Related Diseases | 共著 | 2018年9月 | 24th Conference of Polish Chitin Society |
| III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| 2022年4月～2024年3月 | 日本薬剤学会代議員 | | |

| | |
|-----------------|---------------|
| 2021年8月～2023年7月 | 日本キチンキトサン学会理事 |
| 2021年4月～2023年3月 | 日本薬学会九州支部幹事 |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は in press を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|--------------------------------------|--|---|----------|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 製剤学研究室 | 職名 准教授 | 氏名 庵原 大輔 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| ・崇城大学薬学部における学部生への「製剤・薬剤学実習」の実習指導（分担） | 2018年～2022年 11月1日～30日 | 薬学部3年生を対象とした「製剤・薬剤学実習」を一部担当した。本実習では製剤学に関する基礎的実験について講義と実習をグループ形式で行い、学生主体の能動的な実習を行った。 | |
| ・崇城大学薬学部生への「卒業研究」の研究指導（分担） | 2018年～2022年 4月1日～3月31日 | 研究室所属の学部生に対し、卒業研究の実験手技、取り組み方を指導した。また、データ整理に際し、エクセル・ワードの有効活用法およびパワーポイントを用いたプレゼンテーションを指導した。 | |
| ・崇城大学薬学部における学部生への「製剤学Ⅱ」の講義指導 | 2018年～2022年 9月～1月 | 薬学部3年生を対象とした製剤学Ⅱの講義を担当した。コロナ禍における対応として、講義資料とは別に大事なところを空欄にした復習用資料をWEBで提示し、学生の自発的な復習を促した。また、製剤機械など実物を見た方が理解とイメージの定着につながるものについては動画を作成し（10本）、WEB公開した。 | |
| ・崇城大学大学院生への研究指導（分担） | 2018年～2022年 4月1日～3月31日 | 所属研究室の大学院生に対し、実験手技・学会発表を指導した。指導した学生が学会で最優秀発表者賞を受賞した（2018年日本薬剤学会第33年会）。 | |
| ・熊本大学大学院生への研究指導（分担） | 2018年6月1日～ 2019年3月31日 | 熊本大学大学院生を研究生として受け入れ、実験手技、学会発表、論文作成を指導した。また、本学部生と一緒にゼミ・研究発表会を行うことで学部生の勤勉意識の向上に努めた。 | |
| ・留学生の指導および学生の国際交流（分担） | 2018年5月28日 ～6月22日 2019年5月21日 ～6月21日 | 香港大学より交換留学生を研究室に受け入れ、研究・生活指導ならびに当研究室学生との国際交流に尽力した。 | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| 崇城大学薬学部における薬学部学生の「製剤・薬剤学実習」の実習書 | 2018年～2022年 11月1日～30日 | 薬学部3年生を対象とする「製剤学実習」の実習書の作成と取りまとめを行った。本書は、毎年若干の改定を加えた。 | |

| | | | |
|---|-------------|--------------------|-----------------------------------|
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行または発表の 年月（西暦） | 発行所、発表雑 誌（巻・号 数）等の名称 |
| A Thermoresponsive Hydrophobically Modified Hydroxypropylmethyl Cellulose/Cyclodextrin Injectable Hydrogel for the Sustained Release of Drugs | 共著 | 2020年 | Int. J. Pharm., 575 |
| Polypseudorotaxane-based supramolecular hydrogels consisting of cyclodextrins and Pluronics as stabilizing agents for antibody drugs | 共著 | 2020年 | Carbohydr. Polym., 25 |
| Efficient Anticancer Drug Delivery for Pancreatic Cancer Treatment Utilizing Supramolecular Polyethylene-Glycosylated Bromelain | 共著 | 2020年 | ACS Appl. Bio Mater., 3 |
| Physiologically Stable Hydrophilic C ₆₀ Nanoparticles for Photodynamic Therapy | 共著 | 2019年 | ACS Appl. Nano. Mater., 2 |
| Modification of Drug Crystallization by Cyclodextrins in Pre-Formulation Study | 共著 | 2019年 | Chem. Pharm. Bull., 67 |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| インドメタシン過飽和溶液の安定性に対する疎水化ヒドロキシプロピルメチルセルロース/ α -シクロデキストリンの影響 | | 2023年3月 | 日本薬学会第143年会 |
| 慢性腎不全の進行抑制を企図したナノC60吸着炭素製剤の構築 | | 2023年3月 | 日本薬学会第143年会 |
| 慢性腎不全の進行抑制を企図したフラーレンナノ粒子製剤の構築 | | 2022年12月 | 日本バイオマテリアル学会 2022年度九州ブロック研究発表会 |
| 疎水化ヒドロキシプロピルメチルセルロース/ α -シクロデキストリンを用いたインドメタシン過飽和溶液の安定化 | | 2022年12月 | 日本バイオマテリアル学会 2022年度九州ブロック研究発表会 |
| がん光線力学療法を企図した親水性フラーレンC60ナノ粒子の調製 | | 2022年12月 | 第61回電子スピ ンサイエンス学 会年会 |
| N-PEG化ピリジニウム置換フレロピロリジンの光誘起活性酸素発生成能の検討 | | 2022年12月 | 第61回電子スピ ンサイエンス学 会年会 |

| | | |
|---|---------------------|---|
| 溶解性・物理的安定性に優れるフルルビプロフェン/ β -/ γ -シクロデキストリン非晶質性複合体の調製 | 2022年9月 | 第38回シクロデキストリンシンポジウム |
| インドメタシン過飽和溶液の安定性に及ぼす疎水化ヒドロキシプロピルメチルセルロースと α -シクロデキストリンの影響 | 2022年9月 | 第38回シクロデキストリンシンポジウム |
| 崩壊性に優れたキトサン錠の非アルコール性脂肪性肝炎モデルラットに対する有用性評価 | 2022年8月 | 第36回日本キトサン・キトサン学会 |
| 静電相互作用を利用したキトサンハイドロゲルの調製と評価 | 2022年8月 | 第36回日本キトサン・キトサン学会 |
| The Biomaterials based on surface-deacetylated chitin nanofiber gels reinforced with sulfobutyl ether β -cyclodextrin as a controlled released agent | 2022年7月 | APA BIOFORUM-2022 |
| The preparation and validation of chitosan tablets that rapidly disperse and disintegrate as an oral adsorbent in the treatment of lifestyle-related diseases | 2022年7月 | APA BIOFORUM-2022 |
| N-Pegylated Pyridinium-substituted Fulleropyrrolidines as Potential Photosensitizers for Photodynamic Therapy | 2022年7月 | 25th IUPAC Conference on Physical Organic Chemistry |
| インドメタシン過飽和溶液の安定性に対する疎水化ヒドロキシプロピルメチルセルロースとシクロデキストリンの影響について | 2022年5月 | 日本薬学会第36年会 |
| 剤形の異なるキトサンによる非アルコール性脂肪性肝炎に対する効果の比較検討 | 2022年5月 | 日本薬学会第36年会 |
| Masking the foul taste of 4-phenylbutyrate to improve compliance: the case of cyclodextrin complexation | 2022年5月 | 日本薬学会第36年会 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | |
| 2018年4月～ | 日本シクロデキストリン学会 評議委員 | |
| 2018年4月～2020年3月 | 日本薬学会 超分子薬理学FG 執行部 | |
| 2020年4月～ | 日本薬学会 英語セミナー委員会 委員 | |
| 2022年4月～ | 日本薬学会 英語セミナー委員会 委員長 | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|--------------|--------------------|---|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 医療薬剤学研究室 | 職名 教授 | 氏名 門脇 大介 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 なし | | | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 visual core pharma 薬物治療学 改訂12版 | | 2023年3月発刊 予定 | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行または発表の 年月(西暦) | 発行所、発表雑 誌(巻・号 数)等の名称 |
| New Insight Concerning Therapeutic Drug Monitoring-The Importance of the Concept of Psychonephrology. | 共著 | 2022年7月 | Biol Pharm Bull.;45(7) |
| The Effects of Sacran, a Sulfated Polysaccharide, on Gut Microbiota Using Chronic Kidney Disease Model Rats. Goto M, Kobira Y, Kaneko S, Arima H, Michihara A, Azuma K, Higashi T, Motoyama K, Watanabe H, Maruyama T, Kadowaki D, Otagiri M, Iohara D, Hirayama F, Anraku M. | 共著 | 2022年5月 | Biol Pharm Bull.;45(5) |
| In vivo evaluation of drug dialyzability in a rat model of hemodialysis. | 共著 | 2020年1月 | PLoS One.;15(6) |
| Comparative Study of Constipation Exacerbation by Potassium Binders Using a Loperamide-Induced Constipation Model. | 共著 | 2020年4月 | Int J Mol Sci.;21(7) |
| Effects of lactulose on renal function and gut microbiota in adenine-induced chronic kidney disease rats. | 共著 | 2019年6月 | Clin Exp Nephrol.;23(7) |
| 2. 学会発表(評価対象年度のみ) | | 発表年・月 | 学会名 |
| 尿定性試験において尿蛋白偽陽性を呈する薬物濃度の定量的評価 | | 2022年7月 | 医療薬学フォーラム2022第30回 クリニカル ファーマシー ンポジウム |

| | | |
|--|-----------------------|--|
| 腹膜透析液と薬剤の混合調製の実態調査 | 2022年7月 | 医療薬学フォーラム2022第30回 クリニカルファーマシーシンポジウム |
| ピラスチン錠の夜服用は朝服用に比べて眠気等の発現リスクが低下する | 2022年9月 | 第81回九州山口薬学大会 |
| 熊本県における腹膜透析液への薬剤の混合に関する実態調査 | 2022年9月 | 第81回九州山口薬学大会 |
| 尿試験紙での尿蛋白陽性に対する医薬品の干渉を改めて考える | 2022年9月 | 第81回九州山口薬学大会 |
| 高尿酸血症治療薬のラジカル消去能の比較 | 2022年9月 | 第81回九州山口薬学大会 |
| サイコオンコロジーと腎臓との接点 | 2022年9月 | 第32回日本医療薬学会年会 |
| 尿試験紙での尿蛋白検査に対する医薬品の影響-薬物動態学的根拠に基づく検討- | 2022年9月 | 第62回日本臨床化学会年次学術集会 |
| 腹膜透析液への薬剤の混合投与に関する実態 | 2022年10月 | 第16回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2022 |
| 投与量チェックシートを用いた直接作用型経口抗凝固薬(DOAC)の処方適正化とその有用性の評価 | 2022年10月 | 第16回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2022 |
| 高尿酸血症治療薬のラジカル消去能の比較 | 2022年10月 | 第16回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2022 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | |
| 2018年10月 | 日本腎臓病薬物療法学会 代議員 | |
| 2018年10月 | 日本腎臓病薬物療法学会 広報委員 | |
| 2018年10月 | 日本腎臓病薬物療法学会 統計調査委員会委員 | |
| 2018年10月 | 日本腎臓病薬物療法学会 選挙管理委員 | |
| 2018年4月 | 熊本県薬剤師会 倫理審査委員会委員 | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|--------------|--------------------|--|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 医療薬剤学研究室 | 職名 助教 | 氏名 橋本 麻衣 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 なし | | | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 なし | | | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行または発表の 年月（西暦） | 発行所、発表雑 誌（巻・号 数）等の名称 |
| New Insight Concerning Therapeutic Drug Monitoring-The Importance of the Concept of Psychonephrology. | 共著 | 2022年7月 | Biol Pharm Bull.;45(7) |
| Pharmacokinetics of 4'-cyano-2'-deoxyguanosine, a novel nucleoside analog inhibitor of the resistant hepatitis B virus, in a rat model of chronic kidney disease. | 共著 | 2021年5月 | J Infect Chemother.;27(5) |
| Identification of a novel long-acting 4'-modified nucleoside reverse transcriptase inhibitor against HBV. | 共著 | 2021年5月 | J Hepatol.;74(5) |
| Pharmacokinetic properties of orally administered 4'-cyano-2'-deoxyguanosine, a novel nucleoside analog inhibitor of the hepatitis B virus, in viral liver injury model rats. | 共著 | 2020年9月 | Biol Pharm Bull.;43(9) |
| Characterization of bovine lactoferrin nanoparticle prepared by desolvation technique. | 共著 | 2020年8月 | Chem Pharm Bull (Tokyo);68(8) |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| 尿定性試験において尿蛋白偽陽性を呈する薬物濃度の定量的評価 | | 2022年・7月 | 医療薬学フォーラム2022第30回 クリニカルファーマシーシンポジウム |

| | | |
|--|-------------|--|
| 腹膜透析液と薬剤の混合調製の実態調査 | 2022年・7月 | 医療薬学フォーラム2022第30回 クリニカル ファーマシー シンポジウム |
| ピラスチン錠の夜服用は朝服用に比べて眠気等の発現リスクが低下する | 2022年・9月 | 第81回九州山口薬学大会 |
| 熊本県における腹膜透析液への薬剤の混合に関する実態調査 | 2022年・9月 | 第81回九州山口薬学大会 |
| 尿試験紙での尿蛋白陽性に対する医薬品の干渉を改めて考える | 2022年・9月 | 第81回九州山口薬学大会 |
| 高尿酸血症治療薬のラジカル消去能の比較 | 2022年・9月 | 第81回九州山口薬学大会 |
| サイコオンコロジーと腎臓との接点 | 2022年・9月 | 第32回日本医療薬学会年会 |
| 尿試験紙での尿蛋白検査に対する医薬品の影響-薬物動態学的根拠に基づく検討- | 2022年・9月 | 第62回日本臨床化学会年次学術集会 |
| 腹膜透析液への薬剤の混合投与に関する実態 | 2022年・10月 | 第16回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2022 |
| 投与量チェックシートを用いた直接作用型経口抗凝固薬(DOAC)の処方適正化とその有用性の評価 | 2022年・10月 | 第16回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2022 |
| 高尿酸血症治療薬のラジカル消去能の比較 | 2022年・10月 | 第16回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2022 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | |
| | 加入学会名 | |
| 2022年 | 日本腎臓病薬物療法学会 | |
| 2017年 | 日本薬物動態学会 | |
| 2015年 | 日本薬学会 | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|--|-------------|--|---------------------------|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 臨床薬学研究室 | 職名 教授 | 氏名 宮村重幸 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| 崇城大学薬学部における「実務実習事前学習」の実習指導 | 2018年～2022年 | 薬学部4年生を対象とした「実務実習事前学習」(必修)を分担し、計数・軟膏調剤などの指導を行った。 | |
| 崇城大学薬学部における「病院薬学」の講義(専任) | 2018年～2022年 | 薬学部4年生を対象とした「病院薬学」(必修)を担当し、症例解析を中心とした指導を行った。 | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| 薬物治療学 改訂11版 | 2022年4月1日 | | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | |
| なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| 崇城大学薬学部における薬学共用試験OSCE実施委員 | 2018年～2022年 | 薬学部4年生を対象とした薬学共用試験OSCEの運営を担当。 | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月(西暦) | 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称 |
| 循環器科入院患者における医師と薬剤師の協働による処方適正化の取り組みの成果分析 | 共著 | 2020年3月 | 日本老年薬学会雑誌 Vol.3 No.1 |
| 医薬品マネジメントシステム(Drifos)を用いた炭酸ランタンによる胃腸障害の発現状況調査 | 共著 | 2021年7月 | 日本病院薬剤師会雑誌. vol.57 No.7 |
| Comparison between the Effects of Loxoprofen and Acetaminophen on Postoperative Pain Following Radical Prostatectomy: A Propensity Score Matching Analysis | 共著 | 2021年10月 | Biol Pharm Bull. 44(10) |
| Evaluation of renal function using cystatin C-based estimated glomerular filtration rate in patients with urothelial carcinoma treated with gemcitabine and cisplatin chemotherapy | 共著 | 2021年12月 | J Clin Pharm Ther. ;46(6) |
| 2. 学会発表(評価対象年度のみ) | | 発表年・月 | 学会名 |

| | | |
|-----------------------------------|------------------------|--|
| なし | | |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | |
| 2021/3/21 | 日本医療薬学会代議員 | |
| 2021/4/1 | 日本口腔ケア学会薬学教育小委員会委員 | |
| 2022/10/29 | 日本腎臓病薬物療法学会 副理事長、広報委員長 | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|---------|-----------------|--|
| 大学名 | 崇城大学 | 講座名 | 臨床薬学研究室 |
| 職名 | 准教授 | 氏名 | 石黒貴子 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| 崇城大学薬学部における「実務実習事前学習」の実習指導（分担） | | 2018年～2022年 | 薬学部4年生を対象とした「実務実習事前学習」（必修）を分担し、計数・軟膏調剤、症例解析などの指導を行った。 |
| 崇城大学薬学部における「薬剤師業務概論」の講義（分担） | | 2018年 | 薬学部4年生を対象とした「薬剤師業務概論」（必修）を分担し、注射剤調剤について講義を行った。 |
| 崇城大学薬学部における「薬剤師業務概論」の講義（専任） | | 2019年～2022年 | 薬学部4年生を対象とした「薬剤師業務概論」（必修）を分担し、主に病棟薬剤師業務、注射剤調剤について講義を行った。 |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| なし | | | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | |
| なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| 崇城大学薬学部における薬学共用試験OSCE実施委員 | | 2018年～2022年 | 薬学部4年生を対象とした薬学共用試験OSCEの運営を担当。 |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月（西暦） | 発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称 |
| Release control of fragrances by complexation with β -cyclodextrin and its derivatives | 共著 | 2018年7月 | J Incl Phenom Macrocycl Chem., 92 |
| The Use of Enteric Capsules for Releasing a Fragrance over an Extended Period of Time | 共著 | 2019年5月 | Chem. Pharm. Bul l., (67) |
| In vitro transdermal permeation behavior of isosorbide dinitrate in the absence and presence of 2-hydroxypropyl- β -cyclodextrin: solutions and suspensions | 共著 | 2020年2月 | J Incl Phenom Macrocycl Chem., 96 |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| なし | | | |
| III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| 2020年4月～2023年3月 | | 熊本市民病院治験審査委員会委員 | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|--|---------------------------|----------------|--|
| 大学名 | 崇城大学 | 講座名 | 臨床薬学研究室 |
| 職名 | 講師 | 氏名 | 平田憲史郎 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 | 教育内容・方法の工夫 なし | | |
| 2 | 作成した教科書、教材、参考書 なし | | |
| 3 | 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | |
| 4 | その他教育活動上特記すべき事項 なし | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月（西暦） | 発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称 |
| (論文) Effects of Myristate on the Induced Circular Dichroism Spectra of Aripiprazole Bound to Human Serum Albumin: A Structural-Chemical Investigation. | 共著 | 2022年1月 | ACS Omega vol. 27 No. 7 |
| (論文) The Binding of Aripiprazole to Plasma Proteins in Chronic Renal Failure Patients. | 共著 | 2021年11月 | Toxins (Basel) vol. 18 No. 13 |
| (論文) 医薬品マネジメントシステム (DRiFOs) を用いた炭酸ランタンによる胃腸障害の発現状況調査. | 共著 | 同 年7月 | 日本病院薬剤師会雑誌 (第57巻第7号) |
| (論文) 持参薬使用の原則禁止に伴う入院時持参薬に関する運用方法の変更と薬剤師業務の変化 | 共著 | 2019年8月 | 日本病院薬剤師会雑誌 (第55巻第8号) |
| (論文) Effect of serum parathyroid hormone on tacrolimus therapy in kidney transplant patients: A possible biomarker for a tacrolimus dosage schedule. | 共著 | 同 年1月 | Biological and Pharmaceutical Bulletin vol. 42 No. 5 |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| なし | | | |
| III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| 2011年1月～現在 | 熊本県病院薬剤師会感染制御研究会 世話人 | | |
| 2016年1月～現在 | 熊本県病院薬剤師会救急・集中治療関連WG 世話人 | | |
| 2019年1月～現在 | インфекションコントロールドクター認定 | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。
各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|--|--------------|--------------------------------|-------------------------|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 薬物治療学研究室 | 教授 | 内田 友二 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| 2021年後期授業評価(臨床検査化学Ⅲ)(5点満点) | 2022年3月 | 満足度：4.33, 理解度：4.18, 興味や関心：4.41 | |
| 2022年前期授業評価(解剖学概論)(5点満点) | 2022年9月 | 満足度：4.49, 理解度：4.31, 興味や関心：4.53 | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| 臨床薬学テキストシリーズ [薬理・病態・薬物治療] 神経・筋・精神・麻酔・鎮痛 | 2019年8月 | 進行性筋ジストロフィーの原因、病態、治療 | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | |
| 臨床業務にあたる薬剤師の学部教育に対する認識の経年的な変化とそこから導かれる今後の学部教育のあり方 | 2021年7月 | 薬学教育. 5 : e1-5 | |
| 実務実習事前学習における上腕筋肉注射シミュレータを用いた筋肉注射実習の導入とその効果検証 | 2022年3月 | 薬学教育. 6 : e1-5 | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行または発表の年月(西暦) | 発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称 |
| (論文) 薬学部生の喫煙状況と喫煙開始の契機となった環境 | 共著 | 2018年11月 | 九州薬学会雑誌. 7 |
| (論文) 新型タバコ煙はヒトマクロファージ由来のケモカイン産生を増加させる | 共著 | 2019年8月 | アレルギーの臨床. 39(8) |
| (論文) A Comparison of the Frequency of Prescription and Pharmacy Revisits between Baloxavir Marboxil and Neuraminidase Inhibitors in Influenza-Infected Pediatric Patients during 2019-2020 Influenza Season. | 共著 | 2020年12月 | Biol Pharm Bull. 43(12) |
| (論文) Consistency between patients and families in recognizing cancer chemotherapy side effects: A questionnaire survey. | 共著 | 2021年5月 | Cancer Reports. e1451 |

| | | | |
|--|---------------------|---------|---|
| (論文)Relationship between examination score and homework completion time for on-demand classes among pharmacy students during COVID-19. | 共著 | 2022年6月 | Japanese Journal of Pharmaceutical Education. 6 |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| シミュレータを用いたワクチン接種のための筋肉注射実習の導入とその効果 | | 2022年8月 | 第7回日本薬学教育学会大会 |
| COVID-19流行を契機とした人流抑制時における 薬局薬剤師の認識及び対応の変化に関する アンケート調査 | | 2022年9月 | 第81回九州山口薬学大会 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| 2009年4月～現在 | くまもと禁煙推進フォーラム会員 | | |
| 2018年4月～現在 | 熊本県薬剤師会 学術倫理審査会 審査員 | | |
| 2018年4月～現在 | 特定医療法人富尾会 桜ヶ丘病院 評議員 | | |

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|--|---------------------------|---|---|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 薬物治療学研究室 | 職名 准教授 | 氏名 池田徳典 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| ・ Google Formsを利用した講義回毎の確認問題の設定 | 2021年4月9日～ 2021年7月21日 | 薬物治療学Ⅰの講義（全15回） | |
| ・ Google Formsを利用した講義回毎の確認問題の設定 | 2022年9月13日 ～2022年11月1日 | 薬物治療学Ⅱの講義（全8回） | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| 薬物治療学Ⅰの冊子 | 2022年4月11日 ～2022年7月18日 | 薬物治療学Ⅰの講義（全15回）で使用 する冊子を作成した。 | |
| 薬物治療学Ⅱの冊子 | 2022年9月13日 ～2022年11月1日 | 薬物治療学Ⅱの講義（全8回）で使用 する冊子を作成した。 | |
| 医療統計処理学の冊子 | 2022年6月13日 ～2022年7月26日 | 医療統計処理学の講義（全8回）で使用 する冊子を作成した。 | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | |
| 「薬学教育」雑誌への論文掲載 | 2022年9月13日 | Relationship between examination score and homework completion time for on-demand classes among pharmacy students during COVID-19 | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行または発表の 年月（西暦） | 発行所、発表雑誌 （巻・号 数）等の名称 |
| Clinical Implications and Molecular Characterization of Drebrin-Positive, Tumor- Infiltrating Exhausted T Cells in Lung Cancer | 共著 | 2022年11月 | Int J Mol Sci., 8:23(22) |
| Statistical Concern Regarding the Relationship of Change in Mucus Plug Score with Airflow Over Time | 共著 | 2022年8月 | Am J Respir Crit Care Med., 15:206(10) |

| | | | |
|--|--|---------|-----------------------------------|
| Aging-associated and CD4 T-cell-dependent ectopic CXCL13 activation predisposes to anti-PD-1 therapy-induced adverse events | 共著 | 2022年7月 | PNAS., 119 (29) |
| Clostridium butyricum therapy restores the decreased efficacy of immune checkpoint blockade in lung cancer patients receiving proton pump inhibitors | 共著 | 2022年5月 | OncoImmunology ., 27:11 (1) |
| Development of an algorithm for assessing fall risk in a Japanese inpatient population | 共著 | 2021年9月 | Sci Rep., 11 (1) |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| なし | | | |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| 2019年6月～現在 | 熊本大学病院 医療の質管理に関するミーティング 委員 | | |
| 2019年4月～2022年3月 | 大腸癌研究会 肛門管癌の病態解明とStagingに関する研究 統計解析担当者 | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|----------------------------|--|---|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 薬物治療学研究室 | 職名 助教 | 氏名 堀尾 福子 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| 早期体験学習 | 2022年9月21日～ 2022年11月16日 | 一次救命の実習では小グループでマネキンとDVDを用いたPWW (Practice While Watching) 法での実習を行い、全員が実際にマネキンに触れて学ぶ時間を確保しながら実施した。 | |
| 実務実習事前学習Ⅱ | 2021年9月30日～ 2021年10月17日 | シミュレータを用いた筋肉注射実習において、実習前後の学生の知識と技術の変化について検証を行った。 | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | |
| なし | | | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | |
| シミュレータを用いたワクチン接種のための筋肉注射実習の導入とその効果 | 2022/8/20 | 第7回日本薬学教育学会大会 | |
| 現役薬剤師の学部教育に対する認識調査 —アンケート調査— | 2021/8/21 | 第6回日本薬学教育学会大会 | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | |
| なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行または発表の 年月 (西暦) | 発行所、発表雑誌 (巻・号 数) 等の名称 |
| Relationship between examination score and homework completion time for on-demand classes among pharmacy students during COVID-19 | 共著 | 2022年9月 | Japanese Journal of Pharmaceutical Education vol. 6 |
| 実務実習事前学習における上腕筋肉注射シミュレータを用いた筋肉注射実習の導入とその効果検証 | 共著 | 2022年3月 | 薬学教育 第6巻 |
| Consistency between patients and families in recognizing cancer chemotherapy side effects: A questionnaire survey Cancer Reports | 共著 | 2021年5月 | Cancer Reports vol. 5 No. 1 |

| | | | |
|--|---|----------|--|
| A Comparison of the Frequency of Prescription and Pharmacy Revisits between Baloxavir Marboxil and Neuraminidase Inhibitors in Influenza-Infected Pediatric Patients during the 2019-2020 Influenza Season | 共著 | 2020年12月 | Biological and Pharmaceutical Bulletin vol. 43 No. 12 |
| A novel polysaccharide derived from algae extract inhibits cancer progression via JNK, not via the p38 MAPK signaling pathway. | 共著 | 2018年3月 | International journal of oncology vol. 52 No. 2 |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| COVID-19流行を契機とした人流抑制時における 薬局薬剤師の認識及び対応の変化に関する アンケート調査 | | 2022年9月 | 第81回九州山口薬学大会 |
| シミュレータを用いたワクチン接種のための筋肉注射実習の導入とその効果 | | 2022年8月 | 第7回日本薬学教育学会大会 |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| 2019年2月～現在 | 日本薬学会会員 | | |
| 2020年7月～現在 | 日本薬学教育学会会員 | | |
| 2022年9月～現在 | 第8回日本薬学教育学会 実行委員 | | |
| 2022年11月6日 | 社会貢献事業 第9回「薬物乱用防止キャンペーン」ダメ。ゼッタイ。” NO DRUG, KNOW DRUG” ～ひとつの命を大切に～ へ講師参加 | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|---|---------------------|---|---|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 薬剤情報解析学研究室 | 職名 教授 | 氏名 中嶋 弥穂子 |
| I 教育活動 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | 年 月 日 | 概 要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫 | | | |
| 崇城大学薬学部における「生命倫理学」の指導 (分担) | 2018年6月～ 2022年7月 | 薬学部1年生(前期・必修)を対象とした「生命倫理学」では、提示した課題について学生間で討論を行った。討論の際には、発言回数や発言内容の論理性などを複数の評価指標を用いて評価し(ルーブリックによる評価)、筆記試験の成績とともに本科目の学習到達度を総合的に評価した。 | |
| 崇城大学薬学部における「コミュニケーション論」の指導(分担) | 2018年6月～ 2022年7月 | 薬学部2年生(前期・必修)を対象とした「コミュニケーション論」で、講義に加えて効果的な傾聴の仕方などについてロールプレイを行った。ロールプレイ後にはグループごとにその効果や悪影響などについて討論し、発表を行った。発表については複数の評価指標を用いて評価し(ルーブリックによる評価)、筆記試験の成績とともに本科目の学習到達度を総合的に評価した。 | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 なし | | | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行または発表の 年月(西暦) | 発行所、発表雑誌 (巻・号 数)等の名称 |
| (論文) Proteomic analysis and ATP assay reveal a positive effect of artificial cerebral spinal fluid perfusion following microdialysissampling on repair of probe-induced brain damage. | 共著 | 2019年3月 | Journal of Neuroscience Methods, Vol. 315 |
| (論文) Relationship between vancomycin-associated nephrotoxicity and the number of combined nephrotoxic agents. | 共著 | 2020年6月 | Pharmazie, Vol. 75, No. 6 |

| | | | |
|---|-------------------------------|---------|--|
| (論文) Determination of gemcitabine in plasma of bladder cancer patients by hydrophilic interaction chromatography with ultraviolet detection. | 共著 | 2020年7月 | Journal of Chromatographic Science, Vol. 58, No. 7 |
| (論文) Immune complexome analysis of serum samples from non-small-cell lung cancer patients identifies predictive biomarkers for nivolumab therapy. | 共著 | 2022年6月 | Clinica Chimica Acta, Vol. 532 |
| 2. 学会発表 (評価対象年度のみ) | | 発表年・月 | 学会名 |
| なし | | | |
| Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件) | | | |
| 2017年10月～現在 | 熊本県薬事審議会委員 | | |
| 2019年4月～現在 | 薬学教育協議会 ヒューマニティ関連教科担当教員会議 世話人 | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください (年度ごとに代表的なもの2件まで)。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

| 教育および研究活動の業績一覧 | | | |
|--|-------------|------------------------|--|
| 大学名 崇城大学 | 講座名 教育支援室 | 職名 准教授 | 氏名 佐藤 伸哉 |
| I 教育活動 低学力者の学力強化 | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年 月 日 | 概 要 |
| 1 教育内容・方法の工夫 低学力者の補習を年間105回（1回90分として）実施 ・低学力者の面談、高学年ではスケジュールをたてる | | 1年を通して 1年を通して | 学年により異なりますが、問題演習を前もって配布し、その解説を行いました。 国試あるいはCBT合格するためのスケジュールを一人一人、たてました。 |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 薬事関連法規、応用社会学、臨床薬理学Ⅲのオリジナルテキスト | | 講義前に | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 なし | | | |
| II 研究活動 | | | |
| 1. 著書・論文等の名称 | 単著・ 共著の別 | 発行または発表 の 年月（西暦） | 発行所、発表雑誌 （巻・号 数）等の名称 |
| なし | | | |
| 2. 学会発表（評価対象年度のみ） | | 発表年・月 | 学会名 |
| なし | | | |
| III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件） | | | |
| なし | | | |

- [注] 1 対象期限：評価対象年度を含む直近5年間の教育活動、研究活動等。論文は *in press* を含む。各教員ごとに記載してください。学内の対象期限を決めて上に記入してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください（年度ごとに代表的なもの2件まで）。
- 4 「II 研究活動」は、直近5年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。
- ※ 「III 学会および社会における主な活動」は、若手教員の場合には加入学会名の記載も可。
- ※ 該当する記入事項がない場合は「なし」と記入してください。

(基礎資料10) 学生の健康管理

表1. 評価対象年度の定期健康診断受診率

| 学年 | 在学者数 | 受診者数 | 受診率(%) |
|----|------|------|--------|
| 1年 | 140 | 139 | 99.3 |
| 2年 | 147 | 140 | 95.2 |
| 3年 | 118 | 110 | 93.2 |
| 4年 | 134 | 134 | 100 |
| 5年 | 137 | 134 | 97.8 |
| 6年 | 123 | 122 | 99.2 |

表2. 評価対象年度の5年生の実務実習前の抗体検査の実施状況

| 検査対象抗体 | 抗体価が十分高かった 学生数 | 抗体価が不十分なためワ クチン接種をした学生数 ¹⁾ |
|--------|-------------------|--|
| 風疹 | 71 | |
| 麻疹 | 11 | |
| 水痘 | 115 | |
| ムンプス | 79 | |
| B型肝炎 | 5 | |

[注] 1) 4年次12月末までに、ワクチン接種した学生数（確認できた人数）を記入してください。

確認できない場合は、左欄のみ記入してください。

(基礎資料11-1) 薬学科の教育に使用する施設の状態

| 施設 ¹⁾ | 座席数 | 至数 | 収容人員合計 | 備考 |
|---|--------|----|--------|---|
| 大講義室 (P号館) ※ | 216 | 2 | 432 | 固定席、一部可変席 |
| 中講義室 (P号館) ※ | 153 | 1 | 153 | 固定席 |
| 小講義室 (P号館) ※ | 69 | 1 | 69 | 固定席 |
| 大講義室 (Q号館) ※ | 180 | 1 | 180 | 固定席 |
| 中講義室 (Q号館) ※ | 154 | 2 | 308 | 固定席、一部可変席 |
| 小講義室 (Q号館) ※ | 72 | 1 | 72 | 可変席 |
| 大会講義室 (DDS) ※ | 270 | 1 | 270 | 固定席、一部可変席 |
| 実験室 (P号館) | - | 16 | 392 | |
| 実験室 (DDS) | - | 3 | - | |
| 共通実験室 (P317, P417) | - | 2 | - | |
| コンピュータ演習室 | 168 | 1 | 168 | |
| 実習室 | - | 2 | - | 保険薬局実習室、病院薬局実習室、その中に模擬病室、脱薬調剤室、TDM室、無菌製剤室がある。実習は学生を5～6班にわけて指導。 |
| 実習室 (P号館) | 72 | 4 | 288 | 生化学実習室72席、薬理学実習室72席、有機化学実習室72席、物理化学実習室72席、その他に準備室A、準備室B、天秤実習室、分析実習室がある。 |
| 薬学図書室※ (事前予約制) | 60 | 1 | 60 | 予約制。9時～17時の間のみ利用可能。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自習に利用できる席は29席に限定している。 |
| 各学年講義室 (1～5年) | 72～216 | 7 | 1,262 | 授業時以外を自習室として開放：大講義室 (P号館)、大講義室 (Q号館)、中講義室 (Q号館)、小講義室 (Q号館)、大会講義室 (DDS) |
| 6年生自習室※ | 44～48 | 3 | 136 | 2階：48席、3階：44席、4階：44席 |
| P号館オーブンスペース | 10～15 | 4 | 50 | 各階 |
| Q号館オーブンスペース | 90 | 1 | 90 | |
| ① 設置場所 (薬学部キャンパス内か別キャンパスか)：薬学部キャンパス内 ② 施設の構成と規模：薬草園・薬校園敷地43,832㎡、温室・管理棟265.6㎡、管理者用駐車場110㎡ ③ 栽培している植物種の数：約200種類 ④ その他の特記事項：なし | | | | |
| 薬用植物園 | | | | |
| ロッカー室 (売店2階) | - | 1 | - | 男子ロッカー室、女子ロッカー室 (1～3年) |
| ロッカー室 (P302) | - | 1 | - | 男子ロッカー室、女子ロッカー室 (4～6年) |

[注] 1) 総合大学では薬学部の教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象としてください。
 ※新型コロナウイルス感染防止対策のため、表示より実際は席数を減少し講義を実施している講義室もある。
 2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を、例示を参考に設けて、同じ区分での座席数の範囲を示してください。
 また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設なども、例示を参考にし、備考欄に記入してください。
 コンピューター演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください (教卓にあるものを除く)。
 3) 学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

(基礎資料11-2) 卒業研究などに使用する施設

表1. 講座・研究室の施設

| 施設名 ^{1),2)} | 面積 ³⁾ | 収容人員 ⁴⁾ | 室数 ⁵⁾ | 備考 |
|----------------------|---------------------|--------------------|------------------|------------|
| 教員個室 (教授室など) | 33 | 1人 | 41 | 教授は個室に在室 |
| ゼミ室 | 40.1m ² | 22人 | 18 | 各研究室にゼミ室あり |
| 実験室 (P号館) | 82.3 | 一人 | 16 | |
| 実験室 (DDS) | 119.6m ² | 一人 | 3 | |

- 1) 単独の講座・研究室などが占有する卒業研究で使用する学生用研究室は、(基礎資料11-1)と重複してかまいません。
- 2) 複数の講座・研究室が(隣接する2〜3講座で共用で)占有する施設があれば、記載してください。
- 3) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大まかに区分してください。
- 4) 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。
- 5) 薬学部の卒業研究を担当する講座・研究室が占有する部屋の合計数を記入してください。(ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。)

表2. 学部で共用する実験施設

| 施設の区分 ^{1),2)} | 室数 | 施設の内容 |
|------------------------|----|-----------------------------------|
| 共通実験室 | 2 | 薬学部棟P号館3階・4階フロア 計2室 |
| RI実験室 | 1 | 薬学部棟実験室(1室)、薬学部棟RI排気機械室(1室) |
| 低温室 | 1 | |
| NMR室 | 1 | |
| 培養実験室 | 1 | この他にDDS研究棟にも培養室がある(DDS255) |
| 廃液貯蔵室 | 1 | |
| 機器分析室 | 3 | 薬学部棟P号館1階・3階・4階 計3室 |
| 生物科学研究棟 | 6 | 実験室(1室)、陰圧実験室(1室)、飼育室(3室)、洗浄室(1室) |

- 1) 例示のように、大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を例示のように列記してください。(面積などは不要です。)
- 2) 例示以外の実験施設(例えば、培養室など)があれば追加してください。

(基礎資料12) 学生閲覧室等の規模

| 図書室(館)の名称 | 学生閲覧室 座席数(A) | 学生収容 定員数(B) ¹⁾ | 収容定員に対する 座席数の割合(%) $A/B * 100$ | その他の 自習室の名称 | その他の 自習室の座席数 | その他の 自習室の整備状況 ²⁾ | 備考 ³⁾ |
|---------------------|-----------------|------------------------------|--------------------------------------|----------------|-----------------|--------------------------------|---------------------------------|
| 中央図書館 ⁴⁾ | 453 | 3,452 | 13.1 | - | - | 検索用PC等15台 | 学部生3200名 大学院生252名 (薬学部含む) |
| 薬学図書室 | 57 | 740 | 7.7 | - | - | PC6台 | 薬学部720名 薬学研究科20名 |
| 計 | 510 | 4,192 | 12.2 | - | - | PC21台 | |

1) 「学生収容定員数(B)」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているか等を記載してください。

3) 「備考」欄には「学生収容定員(B)」の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。

4) 例示の中央図書館は、薬学部の利用がなければ(キャンパスが異なるなど)、右の欄を空欄にしてください。

(基礎資料13) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

| 図書館の名称 | 図書の冊数 | | 定期刊行物の種類 | | 視聴覚資料の所蔵数(点数) ²⁾ | 電子ジャーナルのタイトル数 ³⁾ | 過去3年間の図書受け入れ状況 | | | 備考 |
|--------|---------|--------------------------|----------|-----|-----------------------------|-----------------------------|----------------|--------|--------|--|
| | 図書の全冊数 | 開架図書の冊数(内) ¹⁾ | 内国書 | 外国書 | | | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 | |
| 中央図書館 | 207,059 | 72,080 | 88 | 10 | 3,810 | 4,710 | 3,478 | 2,075 | 2,820 | 電子ジャーナルは、中央図書室で集中管理 定期刊行物は学術雑誌の 種類数で算出 |
| 薬学図書室 | 5,034 | 5,034 | 9 | 1 | 183 | 0 | 78 | 4 | 15 | |
| 計 | 212,093 | 77,114 | 97 | 11 | 3,993 | 4,710 | 3,556 | 2,079 | 2,835 | 雑誌の冊数は含めていま せん。 |

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフロッピーディスク、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。